

令和3年度
授業要項



**鹿児島中央看護専門学校
3年課程看護科**

〒892-0822 鹿児島市泉町 12 番 7 号
TEL 099 (227) 5330
FAX 099 (227) 5331

学 籍 番 号	
氏 名	

目 次

I. 基礎分野

科学的思考の基盤	1
人間と生活・社会の理解	1 0

II. 専門基礎分野

人体の構造と機能	2 4
疾病の成り立ちと回復の促進	4 0
健康支援と社会保障制度	8 3

III. 専門分野 I

1. 基礎看護学	9 8
----------------	-----

IV. 専門分野 II

1. 成人看護学	1 2 6
2. 老年看護学	1 5 0
3. 小児看護学	1 5 9
4. 母性看護学	1 6 8
5. 精神看護学	1 7 8

V. 統合分野

1. 在宅看護論	1 9 1
2. 看護の統合と実践	2 0 0

VI. 臨地実習

1. 基礎看護学	2 1 2
2. 成人看護学	2 1 4
3. 老年看護学	2 1 7
4. 小児看護学	2 1 9
5. 母性看護学	2 2 1
6. 精神看護学	2 2 2
7. 在宅看護論実習	2 2 3
8. 看護の統合と実践実習	2 2 5

本校の教育課程

3年課程看護科

区分	教育内容	授業科目	配当年次	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	生命科学	1	1	15
		物質の科学	1	1	30
		情報科学	1	1	30
		論理的思考の基礎	1	1	30
	人間と生活・社会の理解	心理学	1	1	30
		コミュニケーション論	1	1	15
		法と倫理	1	1	30
		教育学	1	1	30
		民族と文化	1	1	30
		家族と社会	1	1	30
		英語Ⅰ	1	1	15
		英語Ⅱ	1	1	30
		健康と活動	1	1	30
	小計			13	345
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	1	3	90
		臨床生化学	1	1	30
		病理学	1	1	30
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態論Ⅰ	1	2	60
		病態論Ⅱ	2	2	60
		病態論Ⅲ	2	2	60
		病態論Ⅳ	2	1	30
		微生物学	1	1	30
		臨床薬理学	1	1	30
		栄養学	1	1	15
	健康支援と社会保障制度	総合保健医療論	3	1	15
		公衆衛生学	2	2	30
		社会福祉	2	2	30
		関係法規	3	1	15
	小計			21	525
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	1	30
		看護研究Ⅰ	3	1	30
		看護研究Ⅱ	3	1	30
		基礎看護技術Ⅰ	1	1	30
		基礎看護技術Ⅱ	1	1	30
		基礎看護技術Ⅲ	1	1	30
		基礎看護技術Ⅳ	1	1	30
		臨床看護論Ⅰ	1	1	30
		臨床看護論Ⅱ	1	1	30
		臨床看護論Ⅲ	2	1	30
		看護過程の基礎	2	1	30
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	1	45
		基礎看護学実習Ⅱ	2	2	90
	小計			14	465

別表 1-②

教 育 課 程

3年課程看護科

区分	教 育 内 容	授 業 科 目	配当年次	単位数	時間数
専 門 分 野 Ⅱ	成 人 看 護 学	成人看護学概論	1	1	30
		成人保健	1	1	30
		成人看護学方法論Ⅰ	2	1	30
		成人看護学方法論Ⅱ	2	1	30
		成人看護学方法論Ⅲ	2	1	30
		成人看護学方法論Ⅳ	2	1	30
		成人看護学方法論Ⅴ	2	1	30
	老 年 看 護 学	老年看護学概論	1	1	15
		老年保健	1	1	15
		老年看護学方法論Ⅰ	2	1	30
		老年看護学方法論Ⅱ	2	1	30
	小 児 看 護 学	小児看護学概論	1	1	15
		小児保健	2	1	30
		小児看護学方法論Ⅰ	2	1	30
		小児看護学方法論Ⅱ	2	1	30
	母 性 看 護 学	母性看護学概論	1	1	15
		母性保健	1	1	30
		母性看護学方法論Ⅰ	2	1	30
		母性看護学方法論Ⅱ	2	1	30
	精 神 看 護 学	精神看護学概論	1	1	15
		精神保健	1	1	15
		精神看護学方法論Ⅰ	2	1	30
		精神看護学方法論Ⅱ	2	1	30
	臨 地 実 習	成人看護学実習Ⅰ	2・3	2	90
		成人看護学実習Ⅱ	2・3	2	90
		成人看護学実習Ⅲ	2・3	2	90
		老年看護学実習Ⅰ	2・3	2	90
		老年看護学実習Ⅱ	2・3	2	90
		小児看護学実習	3	2	90
		母性看護学実習	2・3	2	90
		精神看護学実習	2・3	2	90
	小 計				39
統 合 分 野	在 宅 看 護 論	在宅看護概論	1	1	15
		在宅ケアシステム論	1	1	15
		在宅看護論方法論Ⅰ	2	1	30
		在宅看護論方法論Ⅱ	2	1	30
	看 護 の 統 合 と 実 践	看護管理	3	1	30
		医療安全	3	1	15
		災害看護	3	1	15
		統合看護技術Ⅰ	1	1	30
		統合看護技術Ⅱ	3	1	30
		臨 地 実 習	在宅看護論実習	2・3	2
		看護の統合と実践実習	3	2	90
小 計				13	390
総 計				100	3045

授業要項

基礎分野		科目	生命科学	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	1 5 時間	講師名	塚原 潤三
科目概要		現代は、物質的繁栄とは裏腹に人間性が希薄になっており、生命体の科学を細胞レベルから学習することで、生命、生命の尊厳について考える。			
科目目標		1. 生命体の定義、生命の基本単位である細胞の構造、細胞を構成する主な分子・化合物の働きについて理解する。 2. 生命活動を維持するエネルギーが細胞内で生み出されるしくみ及び遺伝子の本体と遺伝のしくみについて理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	生命科学への導入		「生命体」とはどのように定義されるか 生命体の 3 条件 膜につつまれている（閉鎖空間の中にある） 代謝活性が盛ん（同化反応と異化反応） 自己増殖機能を持つ	講義	
第 2 回	生命体の単位		細胞の構造と機能 「細胞膜」の構造と機能	講義	
第 3 回	膜輸送のしくみ		輸送体たんぱく質とチャネルたんぱく質	講義	
第 4 回	生体内における代謝反応		エネルギー代謝 エネルギー転換	講義	
第 5 回	細胞周期		細胞周期モデル サイクリン依存タンパク質キナーゼ アポトーシスとネクローシス（壊死）	講義	
第 6 回	DNA 複製		真核生物の細胞周期 DNA 複製のしくみ	講義	
第 7 回	減数分裂、受精、発生、		生殖細胞形成時に行われる細胞分裂 生殖細胞形成 受精および初期発生 細胞分化のしくみ	講義	
第 8 回	再生医療への道		クローン生物 iPS細胞、ES細胞	講義	
単位認定の方法		1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 終講試験 100 点中 60 点以上を合格とする。			
関連科目		関連科目			履修時期
		専門基礎分野：解剖生理学、臨床生化学			1 年次前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院.			
受講上のアドバイス		この授業は、生命体の基本である細胞の仕組みから学び、その後の解剖生理学、生化学、病態論へとつながる科目です。高校までの生物学の学習を、想起しながら授業に臨むと理解しやすいと思います。			
実務経験の内容		理学博士			

授業要項

基礎分野		科目	物質の科学	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	3 0 時間	講師名	秦 浩起
科目概要		物理学を中心に科学的考え方を学び、看護を科学的思考に基づいて実践できる基礎的能力を養う。			
科目目標		1. 日常生活や自然界で見られる現象を科学的観点で理解することを学び、科学的なものの考え方を養う。 2. 看護技術が科学的基盤のうえに成り立っていることを理解し、看護実践を科学的思考に基づいて行える能力を養う。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	科学の位置づけ		科学を学ぶ意義について考える。	講義	
第 2 回	科学的測定		科学的に測る上での重要な点を学ぶ。	講義	
第 3 回	物体の運動		力と運動の関係を学ぶ。	講義	
第 4 回	物体の静止		力、力のモーメントのつりあいを学ぶ。	講義	
第 5 回	エネルギー		エネルギーを学ぶ。	講義	
第 6 回	熱現象		熱の伝わり方を学ぶ。	講義	
第 7 回	音		音の正体、波の基本的特徴を学ぶ。	講義	
第 8 回	光の基本的性質		光の正体について学ぶ。	講義	
第 9 回	光と現象		反射と屈折およびレンズについて学ぶ。	講義	
第 10 回	電気とは何か		静電気力、電流などを学ぶ。	講義	
第 11 回	電気と磁気の関係		電流と磁場の関係を知る。	講義	
第 12 回	物質とその変化		物質の構造と変化（相変化、化学変化）を学ぶ。	講義	
第 13 回	原子と放射線		原子構造と光の吸収放射、放射性元素の崩壊を学ぶ。	講義	
第 14 回	科学的に考える		復習を兼ねて、科学的に考えることについて学ぶ。	講義	
第 15 回	終講試験		学んだことをまとめて確認する。	講義	
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 終講試験で 60%以上の成績であること 3. 授業の際の課題に取り組んでいること			
関連科目		関連科目		履修時期	
		専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅲ、Ⅳ（日常生活援助技術）		1 年次前期	
		特別講義：ME 機器		3 年次後期	
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事前事後の課題は随時授業中に提示。			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 基礎分野「物理学」、医学書院.			
受講上のアドバイス		授業に能動的に取り組んで、自分で考えることを意識して下さい。			
実務経験の内容		・鹿児島大学 理工学域理学系 理工学研究科（理学系） 物理・宇宙専攻 物性理論、准教授 ・専門分野 数理物理・物性基礎 カオス・フラクタル物理学 非平衡（非線形）統計物理学			

授業要項

基礎分野		科目	情報科学	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	8 時間/ 3 0 時間	講師名	黒野 明日嗣
科目概要		効率良く情報収集する方法を学ぶことで、社会の変化に対応し、国内、国外の情報を取り入れると共に、看護の考え方を深める。			
科目目標		1. 情報に関する基本概念を理解する。 2. 情報機器の構成と機能について理解する。 3. コンピューターによる文書処理、数値処理、形処理などの基礎的な情報処理能力を身につける。 4. ネットワークを介した情報・文献検索や情報発信の方法を学ぶ。 5. 医療の現場における情報通信技術を理解する。 6. 看護の対象の情報を扱うものとしての責任とリスクへの対応策を理解し、実践できる。 7. 情報倫理と医療倫理について学びを深め、看護の対象の権利と情報保護について理解できる。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	イントロダクション	看護師のあるべき姿 看護師としての基本原則 看護とは 看護師の思考を文字で表現する意味 患者への説明責任のための表現力の重要性 看護記録の開示 クリニカルパス チーム医療の中で専門職に問われる力			講義
第 2 回	医療における情報システム	1) 医療における情報の記録 ・ 医療記録に関する法令上の記載 ・ 医療記録・情報を共有するための方法 ・ 多職種連携と記録 ・ ヒヤリハット報告 ・ 看護記録の開示とガイドライン 2) 病院情報システムと記録の仕方 ・ 病院情報システムとは ・ オーダリングシステム ・ 医療過誤防止システム 3) 保健医療福祉のネットワークと情報システム ・ 地域の医療提供体制の特徴 ・ 利用者中心の情報共有			講義
第 3 回 第 4 回	情報倫理と医療倫理	1) 情報倫理 ・ 情報倫理とは ・ 知的財産権 ・ プライバシー権 ・ 医療における情報倫理と守秘義務			講義

授業要項

		2) 医療倫理	
	患者の権利と情報	1) 患者の権利と自己決定への支援 ・ 医師・患者関係 ・ インフォームドコンセント ・ インフォームドチョイス ・ セカンドオピニオン ・ 患者の自己決定支援 2) 診療情報の開示 ・ 診療情報とは ・ 医師、患者関係の変化と診療情報の開示 ・ 診療情報提供に関する指針 ・ レセプトの開示 ・ 医療訴訟 3) 個人情報の保護 ・ 個人情報とは ・ 看護者としての義務 ・ 個人情報の利用目的と取得、正確性の確保 ・ 個人情報の提供について注意が必要なケース ・ 個人情報の記事 ・ 臨床実習における患者・市民情報の利用方法 ・ 情報収集の目的、制限、利用上の基本ルール	講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 「パーソナルコンピューター活用の基本・医療における情報管理」75 点と「医療における情報倫理」25 点を合算し、60 点以上を合格とする。	
関連科目	関連科目		履修時期
	基礎分野：法と倫理、コミュニケーション論		1 年次前期
	専門分野Ⅰ：看護学概論		1 年次前期
	専門分野Ⅰ：Ⅱ 各看護学実習		
	専門基礎分野：関係法規		3 年次前後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院.	
受講上のアドバイス		この授業は、医療情報、患者情報を扱うものとしての倫理観を養い、実際の場面でどのように行動すればよいかを学ぶ科目である。	
実務経験の内容		脳神経内科医	

授業要項

基礎分野		科目	情報科学	単位数	1 単位
時期	1 年次	時間数	2 2 / 3 0 時間	講師名	兒玉 慎平
科目概要		効率良く情報収集する方法を学ぶことで、社会の変化に対応し、国内、国外の情報を取り入れると共に、看護の考え方を深める。			
科目目標		1. 情報に関する基本概念を理解する。 2. 情報機器の構成と機能について理解する。 3. コンピューターによる文書処理、数値処理、形処理などの基礎的な情報処理能力を身につける。 4. ネットワークを介した情報・文献検索や情報発信の方法を学ぶ。 5. 医療の現場における情報通信技術を理解する。 6. 看護の対象の情報を扱うものとしての責任とリスクへの対応策を理解し、実践できる。 7. 情報倫理と医療倫理について学びを深め、看護の対象の権利と情報保護について理解できり。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	情報セキュリティ		個人情報保護、パスワードの管理 SNS の利用、ネットワーク使用における安全管理 看護における情報セキュリティ		講義
第 2 回	Word・ワードの使い方		フォント、コピー、テキスト貼り付け、 ページレイアウト、行揃え、インデント、段落番号、 箇条書き、図形の貼り付け、トリミング、レイアウト		講義 演習
第 3 回	PowerPoint・パワーポイントの使い方		・パワーポイントの基本操作 画面構成（ノートの利用）、デザインテンプレート、 文字入力、表・図の挿入、テキストボックス、 図形の利用、アニメーション、スライドショー		講義 演習
第 4 回	コンピューターとネットワーク		・コンピューターの歴史、 ・ハードウェア、ソフトウェア、OS、アプリケーションソフトウェア、デバイスドライバー		講義
第 5 回	インターネットの歴史 インターネットのセキュリティ		・インターネットの歴史、インターネットの基礎、 ・IP アドレス、DNS サーバー、ルーティング ・インターネットセキュリティ（ウイルス、ワーム、トロイの木馬、スパイウェア、ファイル共有 ・フィッシング、SNS 利用 ・情報検索演習、		講義 演習
	グループ課題		・プレゼンテーション準備		
第 6 回	電子カルテ		・病院情報システム 部門をつなぐシステム 診療録としての電子カルテ 看護診断		グループ発表・解説
第 7 回	遠隔医療		・遠隔医療とは、 利点、タイプ、制度上の背景、期待される場面（救急場面、在宅医療、過疎地、遠隔地等）、 ・遠隔医療の課題（医師法第 20 条「無診察診療の禁止」、ネットワーク整備、利用方法の周知など）		グループ発表・解説
第 8 回	医療情報の標準化		・DPC（診療群分類包括評価）/POPS（1 日当		グループ発表

授業要項

	I C D、I C F 看護診断	たりの定額支払制度) ・共通して利用できる病名 ICD-10 ・看護診断 (NANDA 等) POS (問題解決思考の基本的考え方)、看護過程 ・I C D、I C F	表・解説
第 9 回	看護記録	・SOAP ・その他の看護記録(フォーカスチャータリング) ・アセスメントの本質は「気づき」 ・クリティカルパス ・医療の標準化と質の向上 ・評価のための3つのアプローチ ストラクチャー、プロセス、アウトカム	グループ発表・解説
第 10 回	看護における情報とは	・医療情報学、看護情報学 情報の定義 (データ、情報、知識) 医療看護における情報の特徴 コンピュータリテラシーと情報リテラシー	
第 11 回	終講試験とまとめ		
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 「パーソナルコンピューター活用の基本・医療における情報管理」75 点と「医療における情報倫理」25 点を合算し、60 点以上を合格とする。	
関連科目		関連科目	履修時期
		基礎分野：法と倫理、コミュニケーション論	1 年次前期
		基礎分野：論理的思考の基礎	1 年次後期
		専門分野 I：看護学概論	1 年次前期
		専門分野 I：看護過程	2 年次前期
		専門基礎分野：関係法規	3 年次前後期
		専門分野 I：看護研究 I・II	3 年次前後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院.	
受講上のアドバイス		この授業で最初に学ぶインターネットの活用方法や留意点、セキュリティの方法、プレゼンテーションのためのワード、パワーポイントの基本操作は今後の学習での情報の獲得、レポート作成等に活用します。 また、現在の社会、医療現場は多くのコンピューターの端末であふれ、いつでもどこでも「情報」を手に入れられる時代であり、看護師の仕事は対象の「情報」を安全に活用し、多職種を含むチームメンバーとコミュニケーションをとる仕事です。情報は便利なものである反面、情報の流出等リスクも抱えており、情報の活かし方、守り方、情報通信技術 (ICT) を看護職に就くものとして学ぶ必要があります。 更に、この授業は3年次の看護学研究のデータの収集、「情報」の発信方法に繋がり、看護の仕事を発展させていくための基礎となります。	
実務経験の内容		・保健師 ・鹿児島大学 医歯学域医学系 医学部 保健学科 看護学専攻 (地域看護・看護情報学)、准教授	

授業要項

	・専門分野 リスクマネジメント、看護管理学
--	-----------------------

授業要項

基礎分野		科目	論理的思考の基礎	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	3 0 時間	講師名	梅崎 光
科目概要		論理的思考の基礎を学び人間関係成立のための適切な言語表現や研究活動の基礎とする。			
科目目標		1. 「論理的思考」の基礎を学ぶ。 2. 「論理的思考」の実際を体験する。 3. 論理的に話すこと・書くことの技法を身につける。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	論理って何だろう？		論理的思考が重要とされる背景を知る。	講義	
第 2 回	ただしメーダイに限る—命題と真偽		「命題」という概念について理解する。	講義	
第 3 回	違う、そうじゃない！—否定		否定命題を作る際の注意点について理解する。	講義	
第 4 回	コーヒー、紅茶、それとも両方？—かつとまたは		「ド・モルガンの法則」について理解する。	講義	
第 5 回	もしも明日が晴れならば—条件文		条件文とそうでない文の区別を知る。	講義	
第 6 回	これが必要、これで十分—必要条件・十分条件		「必要条件」「十分条件」の意味を理解する。	講義	
第 7 回	ポチは犬、犬はポチ—逆・裏・対偶[前半]		条件文に対する「逆」「裏」「対偶」という概念を理解する。	講義	
第 8 回	ポチは犬、犬はポチ—逆・裏・対偶[後半]		任意の条件文から、その逆・裏・対偶を作る。	講義	
第 9 回	だから、そうなんだ！—推論		推論の諸タイプ、「演繹」「帰納」「仮説形成」についてその区別を知る。	講義	
第 10 回	ひとつではない、冴えたやり方—論理法則[前半]		論理法則の様々なタイプとその区別を知る。	講義	
第 11 回	ひとつではない、冴えたやり方—論理法則[後半]		論理法則を使った演繹推論について理解する。	講義	
第 12 回	隠れた前提を探せ！—演繹の評価		任意の推論について、その隠れた前提を推測する練習をする。	講義	
第 13 回	「すべて」と「ある」の話—述語論理		「述語論理」という概念を理解する。	講義	
第 14 回	真実はいつもひとつ！とは限らない—帰納・仮説形成の評価		仮説形成や帰納を評価し、命題の真偽を判断するためには何を知っておくべきかを理解する。	講義	
第 15 回	まとめ、期末試験		全体の振り返り、期末試験		
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 終講試験で 60%以上の得点があること。			
関連科目		関連科目			履修時期
		専門分野Ⅰ：看護過程の基礎			2 年次前期
		専門分野Ⅰ：看護研究Ⅰ・Ⅱ			3 年次前後期

授業要項

	各看護学実習	
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	教科書：仲島ひとみ『それゆけ！論理さん』筑摩書房、2018年、ISBN：9784480843173	
受講上のアドバイス	授業中にしっかり筆記し、次回までに復習するのを欠かさないこと。	
実務経験の内容	・鹿児島大学 法文教育学域教育学系 教育学部 学校教育教員養成課程（国語教育）国語学，准教授 ・専門分野 国語学	

授業要項

基礎分野		科目	心理学	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	3 0 時間	講師名	下木戸 隆司
科目概要		人間の心の仕組みや働き、心と行動の関連性を学び、心理的背景を含めた対象の理解ができる能力を養う。また、自己理解を深め、他者理解の為の態度を養う。			
科目目標		1. 良い人間関係を構築するために、人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、自己理解・他者理解を深める。 2. 人間の心理やカウンセリングについて知識を深め、日常の人間関係に役立つ対応の方法を理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	感覚と知覚		・ 感覚 ・ 知覚のしくみ ・ 恒常性		講義
第 2 回	知覚		・ 錯視 ・ 立体視 ・ 運動視		講義
第 3 回	記憶		・ 記憶の特徴とモデル ・ 記憶の変容とヒューマンエラー ・ 効果的な記憶法 ・ 高齢者の記憶の特徴		講義
第 4 回	感情と動機づけ		・ 感情のモデル ・ アンガーマネジメント ・ 動機づけのモデル		講義
第 5 回	性格と知能		・ 類型論 ・ 特性論 ・ 知能の構造		講義
第 6 回	発達とは 乳幼児期・児童期		・ 発達の特徴と要因 ・ 乳幼児期と児童期の特徴 ・ 認知の発達 ・ 愛着、社会性の発達		講義
第 7 回	発達 思春期・青年期		・ 発達障害の特徴と対応 ・ 思春期・青年期の特徴 ・ 自己の発達		講義
第 8 回	発達 成人期・老年期		・ 成人期の特徴 ・ 老年期の特徴		講義
第 9 回	社会と集団心理		・ 対人認知 ・ 対人コミュニケーション ・ 集団のしくみとはたらき ・ リーダーの影響力		講義
第 10 回	健康心理		・ ストレス ・ 心理的ストレスモデル ・ 学習性無力感とバーンアウト		講義
第 11 回	臨床心理		・ カウンセリングの考え方 ・ カウンセリングの流れ ・ 傾聴		講義

授業要項

第 12 回	臨床心理	・ 精神分析 ・ パーソンセンタードアプローチ ・ 認知行動療法	講義
第 13 回	臨床心理	・ 行動療法 ・ 交流分析 ・ グループアプローチ	講義
第 14 回	学習と行動	・ 古典的条件づけ ・ オペラント条件づけ ・ 観察学習	講義
第 15 回	終講試験・まとめ		
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 終講試験で 60%以上の成績であること 3. 授業の際の課題に取り組んでいること	
関連科目		関連科目	履修時期
		基礎分野：コミュニケーション論、	1 年次前期
		基礎分野：家族と社会	1 年次後期
		専門分野Ⅰ：看護学概論、基礎看護学Ⅰ	1 年次前後期
		専門分野Ⅱ：各看護学概論（各発達段階、方法論等）	
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 基礎分野 心理学、医学書院.	
受講上のアドバイス		この授業は、人を対象とする看護を学ぶものとして対象理解の基盤となるものであり、その後の各看護学の学習に関連していく科目です。自身や周囲の人々の心理に関心を持って授業に臨みましょう。	
実務経験の内容		・ 鹿児島大学 法文教育学域教育学系 教育学部 学校教育教員養成課程（教育心理学） 心理学，准教授 ・ 専門分野 教育心理学、認知心理学	

授業要項

基礎分野		科目	コミュニケーション論	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	1 5 時間	講師名	尾崎 由美子
科目概要		人間関係を構築するためのコミュニケーションについて学び、看護に必要なコミュニケーション技術の基礎とする。			
科目目標		1. 人間関係におけるコミュニケーションの意味と役割を理解する。 2. 良い人間関係をつくるためのコミュニケーションの基本を理解する。 3. ロール・プレイングを通して、良い人間関係を築くためのコミュニケーション技法を習得する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	関係づくり	「偏愛マップ」を活用した仲間作り			講義 演習
第 2 回	コミュニケーション能力とは	コミュニケーションの目的 楽しく会話を維持することだけがコミュニケーションの目的ではない。 今後必要とされるコミュニケーション能力について			講義 グループワーク/発表
第 3 回	コミュニケーションのパターン分類	コミュニケーションの時間と構造化 コミュニケーションに必要なもの 自己開示と何か、「ジョハリの窓」			講義 グループワーク/発表
第 4 回	自己開示とは何か/文化圏	自分自身の自己開示のレベル 自己開示の深度、目的、ルール 自己開示を受けたときの、してはいけないフィードバック			講義 グループワーク/発表
第 5 回	価値観と非言語コミュニケーション コンフリクトマネジメント	価値観の多様性 アイコンタクトの役割（言語以上に重要な役割） コンフリクトの管理スタイル			講義 グループワーク/発表
第 6 回	コンフリクトへの対応	コンフリクトを解決するための対話に必要な姿勢 「共感」の概念と「わたし文」、共感アサーション アサーティブコミュニケーション わかりやすい話し方 人と温かく関わる「ストローク」			講義 グループワーク/発表
第 7 回	聞く力	聞いた内容が事実であるかどうかを判断する技術「質問技法」 「傾聴法」 共感と同情の違い 判断を留保することの意義「エポケー」			講義 グループワーク/発表
第 8 回	終講試験				
単位認定の方法		1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 終講試験を受験し 60/100 点以上であること			
関連科目		関連科目			履修時期
		専門分野Ⅰ：基礎看護学技術Ⅰ コミュニケーション			1 年次前期
		基礎分野：心理学			1 年次後期
		専門分野Ⅱ：精神看護学概論「患者—看護師関係」他			1 年次後期
事前・事後学習					

授業要項

使用テキスト 参考文献等	
受講上のアドバイス	この授業は、人と良好な関係を作り人として成長するためのコミュニケーション技術を学びとともに、その後に学ぶ基礎看護技術Ⅰの看護におけるコミュニケーション技術、患者-看護師関係構築の基礎となる授業です。
実務経験の内容	

授業要項

基礎分野		科目	法と倫理	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	3 0 時間	講師名	佐藤 由佳
科目概要		現代社会は人間関係が希薄になり、道徳性が失われつつある。社会の一員として生きていくための規範を守ることや、医療における法と倫理の関係性を学び「責任感」を養う。			
科目目標		1. 人間の生命に対する基本的理念及び倫理観について学ぶ。 2. 医療における法と倫理の関係性を学び、自己の責任を考える。 3. 日常生活における法律関係を学ぶ。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	法と道徳・倫理		法と道徳・倫理の関係、民法序論	講義	
第 2 回	職業倫理		専門職における倫理・看護倫理の基礎、契約法概論	講義	
第 3 回	倫理基礎（1）		倫理学の基礎・倫理理論（1）、売買契約	講義	
第 4 回	倫理基礎（2）		倫理学の基礎・倫理理論（2）、賃貸借契約	講義	
第 5 回	生命倫理（1）		生命倫理の歴史・生命倫理の 4 原則、保証契約	講義	
第 6 回	生命倫理（2）		インフォームドコンセント、消費者契約法概論	講義	
第 7 回	人権・個人の権利		個人の権利とパターンリズム、クーリングオフ制度	講義	
第 8 回	性と生殖		性・生殖の概念、人工中絶・代理懐胎、親族法	講義	
第 9 回	生と死		死生観、尊厳死と安楽死	講義	
第 10 回	医療経済		医療資源の配分と医療制度、相続法	講義	
第 11 回	先端医療と倫理（1）		移植医療・再生医療	講義	
第 12 回	先端医療と倫理（2）		遺伝子医療・出生前診断	講義	
第 13 回	看護における倫理的概念		アドボカシー・ケアリング、刑事責任と刑事手続	講義	
第 14 回	倫理的意思決定		倫理的判断と意思決定の方法、行政責任	講義	
第 15 回	看護研究と倫理		看護研究における倫理	講義	
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 60 点以上の成績を収めること			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野：心理学、コミュニケーション論、			1 年次前期
		基礎分野：民族と文化、家族と社会			1 年次後期
		専門基礎分野：関係法規			3 年次前後期
		専門分野Ⅰ：看護学概論			1 年次前期
		専門分野Ⅰ：看護研究Ⅰ・Ⅱ			3 年次前後期
		統合分野： 医療安全			3 年次前後期
事前・事後学習		事後学習：講義内で扱ったテーマにつき再考しノート等に記録を残すこと			
使用テキスト 参考文献等		テキストは使用せず、講義時に資料を配布する。			
受講上のアドバイス		この講義では自ら疑問を持ち、考える姿勢を持つことが重要です。知識の定着に拘泥せず、あらゆる場面に対応できる思考力を身につけましょう。			
実務経験の内容					

授業要項

基礎分野		科目	教育学	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	30 時間	講師名	高谷 哲也
科目概要		教育学分野の基礎的な専門知見を学ぶ。人間が成長するうえで教育が果たす役割、学ぶことと教えることとの関係、学習者のとらえ方、生涯にわたり学び続けていくことの意味などについて理解を深め、ものごとを教育学的にみることのできる力を獲得する。			
科目目標		1. 教育という営みの本質と、人間の成長発達における教育の作用について、基礎的理解を深める 2. 「学ぶ」ことと「教える」ことの関係性について、自己の経験と専門的知見の両面から理解を深める 3. 教育という営みと、医療や看護・対人援助職の営みとの共通性や関係性について、自分なりの考えを獲得する			
回数	主題	学習内容		履修形態	
第 1 回	オリエンテーション 教育学という学問の特徴	本講義の進め方・学び方を体験し、教育学という学問にどのような特徴があるかを学ぶ		講義・演習	
第 2 回	自己評価の重要性と 自己調整学習	ひとが生涯にわたって学び成長していく際の営みを支え促すものとしての自己評価の重要性を学ぶ		講義・演習 映像視聴	
第 3 回	経験に左右される 理想の教育像	ひとが教育という営みに携わる際には、自身が経験してきた被教育経験が大きく影響することを学ぶ		講義・演習 映像視聴	
第 4 回	学びと知識獲得の メカニズム	「学習」や「学び」とは何か、知識の獲得にはどのような特徴があるのかを学ぶ		講義・演習 映像視聴	
第 5 回	学ぶことと教えること	「学ぶ」ことと「教える」ことがどのような関係になっているのかを学ぶ		講義・演習 映像視聴	
第 6 回	子どもの成長を促す要素	子どもの成長を支え促す要素に何があるか、またそれを教育者はどのようにデザインしているかを学ぶ		講義・演習 映像視聴	
第 7 回	経験・環境を通した学びと 人間形成	ひとの学習や学びを支え促しているものの中で、目にはみえないが重要なものに何があるかを学ぶ		講義・演習 映像視聴	
第 8 回	学習者の内面にある想いと 教育者の役割	学習者の内面にはどのような複雑な感情や想いが存在しているかを学ぶとともに教育者の役割を考える		講義・演習 映像視聴	
第 9 回	集団の中での社会化と成長	ひとが成長していく過程において、所属している集団がどのような影響を与えているかを学ぶ		講義・演習 映像視聴	
第 10 回	メディアと教育・メディア としての教師	「メディア」の概念を理解し、教育者が学習者にメディアとして届けているメッセージについて考える		講義・演習	
第 11 回	病気と向き合いながら学ぶ 子どもたち	院内学級で学ぶ子どもたちと教師の事例から、教育の本質について考える		講義・演習 映像視聴	
第 12 回	専門家の省察とよりそい	専門家の営みの特徴としての「省察」の概念について学び、学習者と教育者の関係について考える		講義・演習 映像視聴	
第 13 回	成人の学習と教育の役割	成人の学習にどのような特徴があるかを学ぶとともに、学びにおける他者の存在意味について考える		講義・演習	
第 14 回	ほめることの本質と 届くメッセージ	「ほめる」ことの本質について学ぶとともに、ひとの行為によって届くメッセージの特徴について考える		講義・演習 映像視聴	
第 15 回	まとめと終講試験	教育学の知見・見識と看護の関係について、自分なりの考えを表現する		講義・試験	

授業要項

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席がある 2. 講義ポートフォリオとしての記録シートを完成させる 3. 論述試験において教育学と看護の関係について論考する	
関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：心理学、コミュニケーション論、	1 年次前期
	基礎分野：民族と文化、家族と社会	1 年次後期
	専門分野Ⅰ：看護学概論	1 年次前期
	専門分野Ⅱ：成人看護学概論、小児看護学概論、母性看護学概論	1 年次後期
事前・事後学習	授業に臨む前に前時の内容をふり返り要点を押さえておく。 事後課題は各回の学習内容に即してその都度提示する。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 基礎分野 教育学、医学書院.	
受講上のアドバイス	本講義では、講義・個人演習・グループでの演習・映像視聴など、様々な学習形態を通して他者と協力しながら学び、そこから専門的な概念や事象の意味を理解したり様々な学び方を身につけたりする学習方法を重視する。ひとりで理解・解決できない事柄は積極的に他者の力を借りてもらいたい。他者と共に学ぶ力や、上手に他者の力を借りることのできる力を獲得してもらうことも目指す。	
実務経験の内容	鹿児島大学 法文教育学域教育学系 教育学部 学校教育教員養成課程（教育学）、 准教授として学生教育、指導に従事 （研究分野） 教師論、教師教育学、教員研修、校内研究、学校経営、教員評価	

授業要項

基礎分野		科目	民族と文化	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	3 0 時間	講師名	竹内 宏
科目概要		自文化や異文化を理解することで国際化に対応し、多様な価値観の存在理解や、人間理解の基礎とする。			
科目目標		1. 人間と文化の関係について理解する。 2. 自文化と異文化に対する理解を深め、民族共生のあり方を探求する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	オリエンテーション		「民族」及び「文化」ということばに関わる諸問題	講義	
第 2 回	グローバル化とは何か		「グローバル化」の定義、国際的人口移動のグローバル化、「移民・難民」の定義	講義	
第 3 回	地球的事象としての移民・難民		移民・難民の具体例、移民国家・多民族社会	講義	
第 4 回	移民国家ドイツ		ドイツ基本法 16 条と労働移民の受け入れ	講義	
第 5 回	移民国家ドイツ		「統合」、「同化」、「編入」	講義	
第 6 回	移民国家ドイツ		ドイツの成功と失敗、ムスリム移民の統合	講義	
第 7 回	移民国家ドイツ		現状と今後の展望・課題	講義	
第 8 回	これまでのまとめと後半への橋渡し		前半のキーワードの確認、中間小レポート作成	講義	
第 9 回	日本における海外出身市民		オールドカマーとしての在日、ニューカマー	講義	
第 10 回	日本の外国人労働者		労働移民への血統主義の適用、「定住者」とは	講義	
第 11 回	日本の外国人労働者		技能実習生と留学生、「特定活動」による就労	講義	
第 12 回	日本の外国人労働者		法制の問題点、今後の展望・課題	講義	
第 13 回	日本の書字システム		番外編として、日本の書字システムの特異性	講義	
第 14 回	日本の難民受け入れ		その問題点	講義	
第 15 回	まとめと考課レポート提出		竹内の体験によるエピソード、考課レポートの提出	講義	
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 中間小レポートと最終講義時に提出の考課レポートによる成績判定			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野：英語Ⅰ、Ⅱ			1 年前後期
		専門分野Ⅰ：看護学概論			1 年前期
		看護の統合と実践：看護管理「国際看護」、災害看護			3 年後期
事前・事後学習		特に必要ないが、配布資料をよく読むこと			
使用テキスト 参考文献等		集英社「外国人労働者・移民・難民ってだれのこと？」 参考文献はリストを配布			
受講上のアドバイス		関連の新聞・テレビなどの報道、雑誌の記事に注目すること			
実務経験の内容		・鹿児島大学 法文教育学域教育学系 教育学部 生涯教育総合課程（国際理解教育） 異文化理解教育論、教授 ・専門分野 ドイツ近現代文学、Xenologie（外国入学）、異文化理解論			

授業要項

基礎分野		科目	家族と社会	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	3 0 時間	講師名	黒光 貴峰
科目概要		自己も家族や社会の一員として影響を受けている存在であることを学び、社会的存在としての人間理解と家族の機能、社会システムを理解する。			
科目目標		1. 社会の構造と社会的存在としての人間の役割を理解する。 2. 家族の構造と機能を理解する。 3. 現代家族の特徴と課題について理解する。 4. 家族形態や機能の変化に伴う現代社会の問題点を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	授業ガイダンス		看護において家族と社会について学ぶ意義について考える。	講義	
第 2 回	教育からみた家族と社会①		家族と社会について教育の視点から捉える。グループ活動を通して、今まで受けてきた教育を振り返る。	グループ活動	
第 3 回	教育からみた家族と社会②		①で話し合った内容をまとめ発表する。発表で出てきた疑問等を、教育に関連する資料（学校基本調査・学校教員統計調査・学習指導要領の編成）を基に、解説する。	発表	
第 4 回	家庭生活からみた家族と社会①		現代の家族の形態を踏まえ、多様な家族像の視点から看護場面への適用について考える。	講義	
第 5 回	家庭生活からみた家族と社会②		家庭生活の実態を踏まえ、少子高齢化の視点から看護場面への適用について考える。	講義	
第 6 回	男女共同参画からみた家族と社会①		家族と社会について男女共同参画の視点から捉える。グループ活動を通して、男女共同参画社会について考える。	グループ活動	
第 7 回	男女共同参画からみた家族と社会②		①で話し合った内容をまとめ発表する。発表で出てきた疑問等を、男女共同参画に関連する資料（男女共同参画白書）を基に解説する。	発表	
第 8 回	衣生活からみた家族と社会①		衣生活の実態を踏まえ、被服の構造の視点から、看護場面への適用について考える。	講義	
第 9 回	衣生活からみた家族と社会②		衣生活の実態を踏まえ、被服の管理の視点から、看護場面への適用について考える。	講義	
第 10 回	食生活からみた家族と社会①		食生活の実態を踏まえ、日本の食文化の視点から、看護場面への適用について考える。	講義	
第 11 回	食生活からみた家族と社会②		食生活の実態を踏まえ、食の安全性の視点から、看護場面への適用について考える。	講義	
第 12 回	住生活からみた家族と社会①		住生活の実態を踏まえ、日本の住文化の視点から、看護場面への適用について考える。	講義	
第 13 回	住生活からみた家族と社会②		住生活の実態を踏まえ、ユニバーサルデザインの視点から、看護場面への適用について考える。	講義	
第 14 回	消費生活からみた家族と社会		消費生活の実態を踏まえ、悪質商法・消費者問題の視点から看護場面への適用について考える。	講義	
第 15 回	まとめ		これまでの学習内容を振り返り、自分自身の家族観を考える。	講義	

授業要項

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 受講態度・演習への取り組み・試験にて総合的に評価する。	
関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：心理学	1 年次前期
	基礎分野：民族と文化	1 年次後期
	専門分野Ⅰ：看護学概論、	1 年次前期
	専門分野Ⅱ：各看護学	1 年次後期
事前・事後学習	事前学習としては、指示された文献・教材等を一読しておく。 事後学習としては、学習した内容を踏まえ自分自身の家族観を確認しておく。	
使用テキスト 参考文献等	授業時配布資料	
受講上のアドバイス	この授業は、家族と社会について、私たちが、日々、営んでいるそれぞれの生活（衣・食・住・消費・家庭生活）からみていきます。普段の生活に興味・関心を持って、学習に臨みましょう。	
実務経験の内容	・鹿児島大学 法文教育学域教育学系 教育学部 学校教育教員養成課程（家政教育） 家庭科教育学、住居学、准教授 ・専門分野 家政・生活学一般、家庭科教育・住教育・防災教育	

授業要項

基礎分野		科目	英語 I	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	1 5 時間	講師名	マクレイ・デビッド
科目概要		人体の構造と機能を中心に医療・看護場面における英語表現を学び、海外の医療・看護に興味・関心を持つとともに、国際化に対応しうる専門職者としての基礎的英語力を養う。			
科目目標		1. 医療・看護場面で使われる英語表現を理解する。 2. 海外の医療・看護に関心をもつ。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	First Visit		やさしい医療英語への案内	[やり取り]	
第 2 回	Body Parts		人体各部の名称とイラスト化された人体マップでのおおよその位置英語表現	[やり取り]	
第 3 回	Skeleton bones and muscles		骨格系と筋肉に関連する表現 ポキャブラリー	[アクティブラーニング発表]	
第 4 回	Lungs		肺、呼吸器 ポキャブラリー		
第 5 回	Digestion and diet		消化器 ポキャブラリー		
第 6 回	Heart and circulation		循環器 ポキャブラリー		
第 7 回	終講試験		ペーパーテスト		
単位認定の方法		1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 終講試験、発表等による評価 100 点満点中 60 点以上を可とする。			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野：心理学、コミュニケーション論			1 年次前期
		基礎分野：民族と文化			1 年次後期
		看護の統合と実践：看護管理			3 年次後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。アクティブラーニングの課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		(テキスト) Because We Care 2 nd Edition (Inoue; Ihara: 2020, National Geographic Learning) (参考文献) Medical English Clinic (Nishihara, Mayumi & Toshiaki; Tony Brown : Cengage Learning)			
受講上のアドバイス		この授業は、病院でケアする人のための「英語ベーシックコミュニケーション」。医療現場で使われるフレーズに親しみ、将来必要となる専門用語を学習し、国際協力隊などでも活躍できる英語の基礎力を身に付けます。将来、医療関係に従事する学生のために、最新の話題を取り上げ、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「ボキャブラリーと話すこと[発表]」及び「書くこと」の 5 技能をバランスよく盛り込み、実務に役立つ総合的な英語力の養成を目指します。 そのために、授業は英語で行われます。臆せず行動していくことが英語力を身につけるポイントです。アクティブに参加しましょう。 使用テキストは名作漫画『ブラックジャック』を素材として導入し、将来医療現場に携わる学生向けの総合教材であり、医療のシチュエーションを通して 5 技能をバランスよく伸ばします。各ユニットの初めに、漫画『ブラックジャック』を英語で紹介しており、興味を引き、モチベーションを高めること間違いなしです。			
実務経験の内容		管理スタッフ、医師、看護師、患者とのコミュニケーションとロールプレイ (マクレイ・デビッドは鹿児島国際大学教授、元カナダの病院管理者です)			

授業要項

基礎分野		科目	英語Ⅱ	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	3 0 時間	講師名	マクマレイ・デビッド
科目概要		看護師と患者の間で交わされる会話や症状を題材として、病院内で使用する英語表現を学習する。基本的な会話表現を確認して病院内での英語コミュニケーションが円滑に行えるよう工夫し、英語で看護するときに行われる主なアプローチ法を学ぶ。			
科目目標		1. 医療・看護場面で活用できる英語表現力を身につける。 2. 広く国際的な知見を取り入れる姿勢を養う。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	主な症状時の表現と対応	First Visit やさしい医療英語でケアする力を高める			[やり取り]
第 2 回	診察室でボキャブラリー	At the Examination Room ロールプレイ			[やり取り]
第 3 回	インフルエンザの症状ボキャブラリー	Flu Symptoms ロールプレイ			毎回 [アクティブラーニング・発表]
第 4 回	痛みへ	Pain Problems ボキャブラリー			
第 5 回	胃	Stomachache ボキャブラリー			
第 6 回	腹痛	Abdominal Pain ボキャブラリー			
第 7 回	尿検査	Urinalysis ボキャブラリー			
第 8 回	コレステロールボキャブラリー	Cholesterol ボキャブラリー			
第 9 回	貧血	Anemia ボキャブラリー			
第 10 回	怪我ボキャブラリー	Injury ロールプレイ			
第 11 回	病院の予約をする	Operation Period ボキャブラリー			
第 12 回	アルコール中毒ボキャブラリー	Alcohol Poisoning リーディング			
第 13 回	超音波、検査時の対応	Ultrasound Examination ロールプレイ			
第 14 回	付属書 最新の話題を取り上げ	巻末の Appendix 1 & 2 では、医療現場で役立つ重要な語句や表現を掲載			「聞くこと」 「読むこと」
第 15 回	まとめ及び終講試験	ペーパーテスト			
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 終講試験、発表等による評価 3. 100 点満点中 60 点以上を可とする			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野：英語Ⅰ、心理学、コミュニケーション論、			1 年次前期
		基礎分野：民族と文化、家族と社会			1 年次後期
		看護の統合と実践：看護管理「国際看護」			3 年次後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		やさしい医療英語 Medical English Clinic (Nishihara, Mayumi & Toshiaki; Tony Brown : Cengage Learning)			
受講上のアドバイス		この授業は、将来、医療関係に従事する学生のために、最新の話題を取り上げ、ボキャブラリー、リスニング、リーディング、ライティングの 4 技能をバラ			

授業要項

	ンスよく盛り込み、実務に役立つ総合的な英語力の養成を目指します。 この授業も英語Ⅰと同様、英語で行われます。積極的に発表をし、同時に聴く力を身につけていきましょう。 また、テキストには 初級者に配慮した natural speed と slow speed の2つの異なるスピードで収録したCDが添付されており、予習復習に活用できます。 更に、各ユニットの最後のコラム(Supplement)では、テキスト本文についての補足的説明や語法的説明や 巻末の Appendix では、医療現場で役立つ重要な語句や表現を掲載しており、会話表現を広げることができます。
実務経験の内容	管理スタッフ、医師、看護師、患者とのコミュニケーションとロールプレイ (マクレイ・デビッドは鹿児島国際大学教授、元カナダの病院管理者です)

授業要項

基礎分野		科目	健康と活動	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	3 0 時間	講師名	與儀 幸朝
科目概要		ストレスの多い社会に対応するために、集中力・心身のリフレッシュの方法を学習し、他者の健康管理へ応用するための基礎的能力を養う。			
科目目標		1. 健康を維持・増進させるための身体運動の意義と方法を理解する。 2. 身体運動をとおして自己の健全な心身の発達と、より健康的なライフスタイルを形成する基礎を養う。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	実技①		ストレッチ、体ほぐしの運動、有酸素運動、体力に応じた運動の行い方など	実技	
第 2 回	実技②				
第 3 回	実技③		体幹トレーニング、自重トレーニング、脂肪燃焼に効果的な運動処方など	実技	
第 4 回	実技④				
第 5 回	実技⑤		スポーツ実践①（バドミントン、サッカー、フライングディスクなど）	実技	
第 6 回	実技⑥				
第 7 回	健康の概念		健康の定義、健康の捉え方	講義	
第 8 回	実技⑨		スポーツ実践②（バドミントン、サッカー、フライングディスクなど）	実技	
第 9 回	実技⑩				
第 10 回	運動の種類		運動の定義、運動の種類、運動の実践方法	講義	
第 11 回	体力・運動能力		体力の時代差・個人差とその発生要因	講義	
第 12 回	筋収縮とエネルギー供給系		動きの発生、筋肉の種類、ATP 供給系	講義	
第 13 回	身体組成と肥満		肥満の定義、測定方法、肥満の解消方法	講義	
第 14 回	発育発達と運動		スキヤモンの発達曲線、運動の適時性	講義	
第 15 回	まとめ、終講試験		学習のまとめ	講義・試験	
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 講義の際に使用するワークシートを毎回提出すること。			
関連科目		関連科目		履修時期	
		専門分野Ⅰ：看護学概論、基礎看護技術Ⅲ「活動と休息」		1 年次前期	
		専門分野Ⅱ：成人保健		1 年次後期	
事前・事後学習		・ 次回の講義内容について自分の考えをまとめておく。 ・ 学んだ内容を振り返り、要点を整理する。			
使用テキスト 参考文献等		特になし。			
受講上のアドバイス		この授業は、実技も行いながら、運動が健康に及ぼす影響や活動の方法を理解し、看護実践に関連・活用していく内容です。 実技に関しては、鴨池ドームで行います。その際は運動しやすい服装で参加してください。講義の順番に多少前後します。			
実務経験の内容		鹿児島大学 法文教育学域教育学系 教育学部 学校教育教員養成課程（保健体育）、講師			

授業要項

専門基礎分野		科目	解剖生理学 細胞・骨格・筋・皮膚・生殖	単位数	3 単位
時期	1 年次前期	時間数	90 時間（内 29 時間）	講師名	今村英仁
科目概要		人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助の根拠を理解するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の構造（細胞・骨格・筋・皮膚・生殖）について理解する。 2. 人体の各器官・系統（細胞・骨格・筋・皮膚・生殖）の構造と生理機能について理解する。 3. 生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	看護の土台となる解剖生理を学ぶ意義 生体リズムと内部環境の恒常性	1. 解剖学とは、生理学とは 2. 解剖学的用語 3. 生体リズム：サーカディアンリズム 4. 内部環境の恒常性：ホメオスタシス 5. フィードバック機構			講義
第 2 回～ 第 3 回	細胞と組織	1. 細胞の構造（細胞膜と細胞質、核、細胞小器官と細胞骨格） 2. 遺伝子と遺伝情報 3. 細胞分裂（有糸分裂、減数分裂） 4. 組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織） 5. 細胞内情報伝達			講義
第 4 回	皮膚の構造と機能	1. 皮膚の組織構造 2. 皮膚の付属器 3. 皮膚の血管と神経			講義
第 5 回～ 第 8 回	身体の支持と機能 ・骨格の構造と機能 ・骨格筋の構造と機能	1. 骨の形態と構造、骨の組織、骨の発生と成長 骨の生理的機能 2. 骨格筋（筋の構造、作用、神経支配） 3. 体幹の骨格と筋（脊柱、胸郭、背部、胸部、腹部） 4. 上肢の骨格と筋、 上肢の運動機能 5. 下肢の骨格と筋 下肢の運動機能 6. 頭頸部の骨格と筋 頭部の骨格と筋、頸部の筋 7. 筋の収縮（骨格筋の収縮機構）			講義 ワーク
第 9 回～ 第 11 回	生殖器系の構造と機能	1. 女性の生殖器系の構造と機能 卵巣、卵管、子宮、膣、乳腺、生殖機能 2. 男性の生殖器系の構造と機能 精巣、精路と付属生殖腺、生殖機能 3. 受精と胎児の発生、着床			講義
第 12 回	成長と老化	1. 成長による変化 2. 老化による変化			講義
第 13 回 第 14 回	解剖見学実際 まとめ（見学後レポート）	1. 病理解剖臓器の見学し、人体の臓器、組織の理解を深め今後の学習に活かす。			演習 坂江先生
第 15 回	終講試験（50 分）				

授業要項

単位認定の方法	1. 解剖生理学全体 90 時間を通して 60 時間以上の出席があること 2. 解剖生理学は、 <u>全ての機能分野の終講試験を 3 分野で構成し 300 点満点中 180 点以上で合格</u> となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは解剖生理学 3 単位を取得できる ☆本授業科目は 100 点の終講試験を行う。	
関連科目	関連科目	履修時期
	解剖生理学（細胞・骨格・筋・皮膚・生殖）はすべての専門基礎分野、専門分野の土台となる。病理学、各病態論Ⅰ（運動器系疾患）、病態論Ⅲ（皮膚・アレルギー疾患）、病態論Ⅳ（女性生殖器疾患）につなぐ	1 年前期～ 2 年前期
	専門分野Ⅰ：基礎看護学（感染予防、フィジカルアセスメント、活動・休息の各援助技術）	1 年前期 1 年後期
	専門分野Ⅱ（成人方法Ⅳ：運動機能障害看護） 専門分野Ⅱ（母性看護学）	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学、医学書院.	
受講上のアドバイス	この授業、解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育において最重要の基礎となります。医療は、人体の不具合を治し、生命の維持と健康の増進を目指して行われています。看護の対象であるヒトの正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護が行われます。単に覚える学習ではなく、構造と機能を意識しながら学ぶことで、機能障害の理解、提供する看護の必要性の理解へとつながっていきます。自分の身体や生活行動を一つひとつ関連付けながら意味ある学習を行いましょう。	
実務経験の内容	医師	

授業要項

専門基礎分野		科目	解剖生理学 血液・免疫・神経・感覚器	単位数	3 単位
時期	1 年次前期	時間数	90 時間（内 25 時間）	講師名	納 光弘
科目概要		人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助の根拠を理解するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の構造（血液・免疫・神経・感覚器）について理解する。 2. 人体の各器官・系統（血液・免疫・脳神経・感覚器）の構造と生理機能について理解する。 3. 生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	イントロダクション ☆看護学生としての心構え		1. 看護を学ぶ姿勢・・レポート 2. 講師の歩みにふれる	講義	
第 2 回	血液 P141 ・血液の成分と機能 ・止血機構 ・血液型		1. 血液の組成と機能 2. 赤血球（数、ヘモグロビン、ヘマトクリット） 赤血球の新生、破壊、貧血 3. 白血球（顆粒球、リンパ球、単球） 4. 血小板 5. 血漿タンパク質 6. 血液の凝固 7. 血液型（ABO 式、Rh 式）		
第 3 回	生体の防御機構 P468 ・免疫系（特異的生体防御反応）		1. 免疫系の細胞 2. 抗原と抗体 3. 補体 4. 液性免疫、細胞性免疫 5. アレルギー反応 6. 組織適合性抗原（HLA）	講義 ミクロの戦士たち（DVD）	
第 4 回	情報の受容と処理 P385～ ・神経系の構造と機能		1. 神経細胞と支持細胞 2. ニューロンでの興奮の伝導 3. 神経系の構造	講義	
第 5 回～ 第 8 回	・脳の構造と機能 P397 ・脳神経の構造と機能 P414 ・脊髄の構造と機能 ・脊髄神経の構造と機能		1. 大脳の構造、機能 2. 視床、視床下部の構造、機能 3. 中脳、橋、延髄の構造、機能 4. 小脳の構造、機能 5. 脳神経の主な支配域、機能 6. 脊髄の構造、機能 7. 脊髄神経の主な支配域、機能 8. 脳の高次脳 9. 運動機能と下行伝導路	講義 ワーク	
第 9 回～ 第 12 回	・感覚機能 P431 ・目の構造と視覚 ・耳の構造と聴覚・平衡覚		1. 感覚機能と上行伝導路 感覚の種類、性質、上行伝導路 2. 眼球の構造 3. 眼球付属器 4. 視覚 5. 耳の構造 6. 聴覚	講義	

授業要項

	・味覚と嗅覚	7. 平衡覚 8. 味覚器と味覚 9. 嗅覚器と嗅覚	
第 13 回	終講試験（70 点）50 分		
単位認定の方法	1. 解剖生理学全体 90 時間を通して 60 時間以上の出席があること 2. 解剖生理学は、 <u>全ての機能分野の終講試験を 3 分野で構成し 300 点満点中 180 点以上で合格となる。</u> 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは解剖生理学 3 単位を取得できる ☆本授業科目は 70 点の終講試験を行う。呼吸器 30 点と合わせて 100 点満点		
関連科目	関連科目		履修時期
	解剖生理学（血液・免疫・神経・感覚器）はすべての専門基礎分野、専門分野の土台となる。病理学、各病態論Ⅱ（血液・造血器疾患）、病態論Ⅱ（脳神経系疾患）、病態論Ⅲ（感覚器：耳鼻咽喉頭疾患）（感覚器：眼疾患）につなぐ。		1 年前期～ 2 年前期
	専門分野Ⅰ：基礎看護学（感染予防、フィジカルアセスメント、臨床看護論の診療補助技術（検査・採血等）につなぐ。		1 年前期～ 2 年前期
	専門分野Ⅱ（成人方法Ⅳ：脳神経障害看護）（成人方法Ⅴ：身体防御機能障害看護）		2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学、医学書院.		
受講上のアドバイス	この授業、解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育において最重要の基礎となります。医療は、人体の不具合を治し、生命の維持と健康の増進を目指して行われています。看護の対象であるヒトの正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護が行われます。単に覚える学習ではなく、構造と機能を意識しながら学ぶことで、機能障害の理解、提供する看護の必要性の理解へとつながっていきます。自分の身体や生活行動を一つひとつ関連付けながら意味ある学習を行いましょう。		
実務経験の内容	脳神経内科医		

授業要項

専門基礎分野		科目	解剖生理学 呼吸器	単位数	3 単位
時期	1 年次後期	時間数	90 時間（内 8 時間）	講師名	山中 淳之
科目概要		人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助の根拠を理解するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の構造（呼吸器）について理解する。 2. 人体の各器官・系統（呼吸器）の構造と生理機能について理解する。 3. 生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	呼吸器の構造		1. 呼吸器の構成 2. 上気道（鼻、咽頭、喉頭、発声と構音） 3. 下気道と肺（気管・気管支） 4. 胸膜・縦隔	講義	
第 2 回	呼吸のしくみ		1. 内呼吸と外呼吸 2. 呼吸器と呼吸運動（気道の機能、肺胞の呼吸、呼吸のメカニズム、呼吸筋） 3. 呼吸気量（呼吸数、1 回換気量・死腔・肺胞換気量、肺活量、残気量） 4. ガス交換とガスの運搬	講義 ワーク	
第 3 回	呼吸のしくみ		1. 肺の循環と血流（肺循環、換気血流比不均等の調節） 2. 呼吸運動の調節（呼吸の神経性調節、化学受容器、呼吸運動の異常と病的呼吸	講義	
第 4 回	呼吸器系の病態生理		1. 換気障害 2. 拡散障害 3. 換気血流比不均等 4. 右-左短絡	講義	
	単元終講テスト（30 点）				
単位認定の方法		1. 解剖生理学全体 90 時間を通して 60 時間以上の出席があること 2. 解剖生理学は、全ての機能分野の終講試験を 3 分野で構成し 300 点満点中 180 点以上で合格となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは解剖生理学 3 単位を取得できる ☆本授業科目は 30 点の終講試験を行う。血液・神経・感覚 70 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理学（呼吸器）はすべての専門基礎分野、専門分野の土台となる。病理学、各病態論Ⅰ（呼吸器疾患）につなぐ。			1 年前期～ 1 年後期
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント、活動休息援助技術、）、臨床看護論（呼吸維持援助技術）につなぐ。			1 年前期～ 1 年前期
		専門分野Ⅱ（成人方法Ⅱ：呼吸機能障害看護）			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学、医学書院.			
受講上のアドバイス		この授業は、解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師			

授業要項

	を含む医療専門職の教育において最重要の基礎となります。医療は、人体の不具合を治し、生命の維持と健康の増進を目指して行われています。看護の対象であるヒトの正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護が行われます。単に覚える学習ではなく、構造と機能を意識しながら学ぶことで、機能障害の理解、提供する看護の必要性の理解へとつながっていきます。自分の身体や生活行動を一つひとつ関連付けながら意味ある学習を行いましょう。
実務経験の内容	医師

授業要項

専門基礎分野		科目	解剖生理学 (循環器)	単位数	3 単位
時期	1 年次前期	時間数	90 時間（内 10 時間）	講師名	木佐貫 彰
科目概要		人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助の根拠を理解するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の構造（循環器）について理解する。 2. 人体の各器官・系統（循環器）の構造と生理機能について理解する。 3. 生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	心臓の構造と機能 ・ 循環器系の構成 ・ 心臓の構造		1. 循環器系の構成 2. 心臓の構造（心臓の位置と外形、心臓の 4 つの部屋と 4 つの弁、心臓壁、心臓の血管と神経）	講義	
第 2 回	・ 心臓の機能 ・ 刺激伝導系		1. 心臓の拍出機能 2. 心臓の興奮とその伝番（心臓の自動性と歩調取り、興奮の伝番、リズムの変化） 3. 心電図（心電図の誘導、心電図の波形とその意味、不整脈、心停止とみなされる 4 つの状態） 4. 心臓の収縮（心拍出量と血圧、心音と心雑音）	講義 ワーク	
第 3 回	血管系の構造と機能		1. 血管の構造（動脈、毛細血管、静脈、側副路と吻合、血管の神経） 2. 肺循環の血管（肺動脈、肺静脈） 3. 体循環の動脈（上行大動脈、大動脈弓、胸大動脈、腹大動脈、総腸骨動脈とその枝） 4. 体循環の静脈（上・下大静脈、頭頸部の静脈、上肢の静脈、骨盤と腹部の静脈、門脈系）	講義	
第 4 回	血液循環の調節 リンパ管の構造と機能		1. 血圧（動脈圧）最高血圧、最低血圧 2. 血液の循環 3. 血圧・血流量の調節 4. 微小循環（物質交換の機序、浮腫のメカニズム） 5. リンパ液、リンパ管の構造、機能 6. 胸管	講義	
第 5 回	循環器系の病態生理 機能が障害されたときの影響を知る。		1. チアノーゼ 2. 起立性低血圧 3. うっ血性心不全 4. 急性心不全 5. 高血圧		
	単元終講テスト（30 点）				
単位認定の方法		1. 解剖生理学全体 90 時間を通して 60 時間以上の出席があること 2. 解剖生理学は、全ての機能分野の終講試験を 3 分野で構成し 300 点満点中 180 点以上で合格となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは解剖生理学 3 単位を取得できる ☆本授業科目は 30 点の終講試験を行う。消化・内分泌 40 点と腎泌尿器 30 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理学（循環器）はすべての専門基礎分野、専門分野の土台と			1 年前期～

授業要項

	なる。病理学、各病態論Ⅰ（循環器疾患）につなぐ。	1年後期
	専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント、活動休息援助技術、清潔援助技術）、臨床看護論（診察検査援助、採血）につなぐ。	1年前期～ 1年後期
	専門分野Ⅱ（成人方法Ⅱ：循環機能障害看護）	2年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学、医学書院.	
受講上のアドバイス	この授業、解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育において最重要の基礎となります。医療は、人体の不具合を治し、生命の維持と健康の増進を目指して行われています。看護の対象であるヒトの正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護が行われます。単に覚える学習ではなく、構造と機能を意識しながら学ぶことで、機能障害の理解、提供する看護の必要性の理解へとつながっていきます。自分の身体や生活行動を一つひとつ関連付けながら意味ある学習を行いましょう。	
実務経験の内容	循環器科医師	

授業要項

専門基礎分野		科目	解剖生理学 消化・内分泌	単位数	3 単位
時期	1 年次前期	時間数	90 時間（内 10 時間）	講師名	今村 尚子
科目概要		人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助の根拠を理解するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の構造（消化・内分泌）について理解する。 2. 人体の各器官・系統（消化・内分泌）の構造と生理機能について理解する。 3. 生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	栄養の消化と吸収 ・口・咽頭・食道の構造と機能 ・腹部消化管の構造と機能		1. 口の構造と機能	講義	
第 2 回			2. 咽頭と食道の構造と機能 3. 胃の構造と機能 4. 小腸の構造と機能 5. 栄養素の消化と吸収 6. 大腸の構造と機能		
第 3 回	・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能		1. 膵臓の構造と機能 2. 肝臓と胆嚢の構造と機能 3. 腹膜と腸間膜の構造と機能 4. 腹膜と内臓の位置関係	講義	
第 4 回	内分泌機能の調節 ・全身の内分泌腺の機能		1. 内分泌とホルモン 2. ホルモンの構造と作用機序 3. 視床下部—下垂体系の機能とホルモン 4. 甲状腺と副甲状腺の構造、ホルモン	講義	
第 5 回	・全身の内分泌の機能 ・ホルモン分泌の調整		1. 膵臓の構造、機能、 2. 副腎の構造、機能 3. 性腺の構造、機能 4. ホルモン分泌の調整 5. 負のフィードバック、正のフィードバック 6. ホルモンによる調節の実際 糖代謝、カルシウム代謝、ストレスとホルモン 高血圧をきたすホルモン	講義	
	単元終講テスト（40 点）				
単位認定の方法		1. 解剖生理学全体 90 時間を通して 60 時間以上の出席があること 2. 解剖生理学は、全ての機能分野の終講試験を 3 分野で構成し 300 点満点中 180 点以上で合格となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは解剖生理学 3 単位を取得できる ☆本授業科目は 40 点の終講試験を行う。循環器 30 点、腎泌尿器 40 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目		履修時期	
		解剖生理学（消化・内分泌）はすべての専門基礎分野、専門分野の土台となる。病理学、各病態論Ⅰ（消化器疾患）、病態論Ⅱ（内分泌・栄養代謝疾患）、病態論Ⅲ（感覚器：耳鼻咽喉疾患）（感覚器：眼疾患）につなぐ。		1 年前期～ 2 年前期	
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント、食生活援助技術、）につなぐ。		1 年前期～ 1 年前期	

授業要項

	専門分野Ⅱ（成人方法Ⅲ：消化・栄養機能障害看護）（成人方法Ⅲ：糖代謝・内分泌機能障害看護）	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学、医学書院.	
受講上のアドバイス	この授業は、解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育において最重要の基礎となります。医療は、人体の不具合を治し、生命の維持と健康の増進を目指して行われています。看護の対象であるヒトの正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護が行われます。単に覚える学習ではなく、構造と機能を意識しながら学ぶことで、機能障害の理解、提供する看護の必要性の理解へとつながっていきます。自分の身体や生活行動を一つひとつ関連付けながら意味ある学習を行いましょう。	
実務経験の内容	糖尿病専門医	

授業要項

専門基礎分野		科目	解剖生理学 腎・泌尿器	単位数	3 単位
時期	1 年次前期	時間数	90 時間（内 8 時間）	講師名	
科目概要		人体の各器官・系統の構造と生理機能を系統立てて学び、生活を支える看護援助の根拠を理解するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 人体の構造（腎臓・泌尿器）について理解する。 2. 人体の各器官・系統（腎臓・非尿器）の構造と生理機能について理解する。 3. 生活行動に関連する人体の構造とメカニズムについて理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	体液の調節の尿の生成 ・腎臓の構造と機能	1. 腎臓の構造と機能（腎臓の構造、腎臓の機能） 2. 糸球体の構造と機能（糸球体の組織構造、糸球体ろ過） 3. 尿細管の構造と機能（尿細管の組織構造、尿細管の機能）			講義
第 2 回	・体液量の調節 （糸球体濾過機能に関係するホルモン）	1. 傍糸球体装置（レニン－アンギオテンシン－アルドステロン系） 2. 抗利尿ホルモンの作用 3. クリアランスと糸球体濾過 4. 腎臓から分泌される生理活性物質（エリスロポエチン、ビタミン D の活性化）			講義
第 3 回	排尿路の構造と機能	1. 排尿路の構造、機能（尿管、膀胱、尿道） 2. 尿の貯蔵と排尿（尿の輸送と貯蔵、排尿の機序、尿の成分と性状） 3. 尿・排尿の異常			講義
第 4 回	体液の調節	1. 水の出納 2. 脱水のメカニズム 3. 電解質の異常 4. 酸塩基平衡			講義
	単元終講テスト（30 点）				
単位認定の方法		1. 解剖生理学全体 90 時間を通して 60 時間以上の出席があること 2. 解剖生理学は、 <u>全ての機能分野の終講試験を 3 分野で構成し 300 点満点中 180 点以上で合格となる。</u> 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは解剖生理学 3 単位を取得できる ☆本授業科目は 30 点の終講試験を行う。消化・内分泌 40 点と循環器 30 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理学（腎泌尿器）はすべての専門基礎分野、専門分野の土台となる。病理学、各病態論Ⅲ（腎疾患）、病態論Ⅳ（泌尿器疾患）につなぐ。			1 年前期～ 1 年後期
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント）、臨床看護論（排泄援助技術、診察検査援助、）につなぐ。			1 年前期～ 1 年前期～ 1 年後期
		専門分野Ⅱ（成人方法Ⅳ：体液調節機能障害看護）			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			

授業要項

使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学、医学書院.
受講上のアドバイス	この授業、解剖生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育において最重要の基礎となります。医療は、人体の不具合を治し、生命の維持と健康の増進を目指して行われています。看護の対象であるヒトの正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護が行われます。単に覚える学習ではなく、構造と機能を意識しながら学ぶことで、機能障害の理解、提供する看護の必要性の理解へとつながっていきます。自分の身体や生活行動を一つひとつ関連付けながら意味ある学習を行いましょう。
実務経験の内容	泌尿器科医師

授業要項

専門基礎分野		科目	臨床生化学	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	3 0 時間	講師名	内尾 康人
科目概要		「生化学」の知識を臨床看護につなげてとらえられるよう、「代謝」を軸に学習する。さまざまな栄養素からエネルギーを取り出し、生体成分を合成する代謝回転のうえに恒常性が保たれ、生命が維持されていることを学習する。また、遺伝に関連し、再生医療や遺伝子診断についても学習する。			
科目目標		1. 人体の構成成分と生物化学的反応を学び、生物化学的反応が、人間の、健康で安全、快適な日常生活と密接に関係していることを理解する。 2. 細胞内の物質の変化と病態との関連を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	生化学を学ぶための基礎知識	1) 生化学とは 2) 生体の化学の基礎知識 3) 生命とは 4) 細胞の構造と機能 ・核			
第 2 回	代謝の基礎と酵素・補酵素	1) 代謝と生体のエネルギー ①三大栄養素の代謝の概要 2) 酵素の基礎知識 3) 補因子 4) ビタミン ①ビタミンとは ②水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン 5) 酵素の反応速度 6) 酵素の阻害			
第 3 回	糖の構造と機能	1) 糖質とは 2) 単糖の構造と機能 3) 二糖の構造と機能 4) 多糖の構造と機能			
第 4 回	糖質代謝	1) 糖質の消化と吸収 ①唾液と膵液による分解 ②腸での分解 2) 吸収 3) 血糖調節とインスリン ①血糖値とインスリン ②インスリンの分泌 ③インスリンの作用 4) グルコースの分解 5) グリコーゲン代謝			

授業要項

		6) ペントースリン酸回路 7) 糖新生 8) 糖質代謝に関する遺伝性疾患	
第 5 回	脂質の構造と機能	1) 脂質とは 2) 脂質の種類 3) リポタンパク質	
第 6 回	脂質代謝	1) 脂質の消化と吸収 2) 脂肪酸の分解 3) 脂質の合成 4) 脂質代謝に関する遺伝性疾患	
第 7 回	タンパク質の構造と機能	1) タンパク質とは 2) アミノ酸 3) タンパク質の構造	
第 8 回	タンパク質代謝	1) タンパク質の消化と吸収 ①タンパク質の消化 ②アミノ酸の吸収 2) アミノ酸の分解 3) 非必須アミノ酸の合成	
第 9 回	ポルフィリン代謝と異物代謝	1) ポルフィリン ①ポルフィリンの構造 ②ヘムを含む生体分子 ③ヘムの合成 ④ヘムの分解とビリルビン代謝 2) 生体異物代謝 3) 活性酵素とその除去反応	
第 10 回	遺伝と核酸	1) 遺伝情報 2) 遺伝学の基礎知識 ①細胞分裂 ・体細胞分裂と減数分裂 ②染色体 ③メンデル遺伝学 ・メンデルの法則に従う遺伝病 ・モザイクとキメラ 3) 核酸の構造と機能 4) 核酸の代謝	
第 11 回	遺伝子の複製・修復・組換え	1) DNAの複製 2) DNAの修復 ①DNA損傷 3) DNAの組換え	

授業要項

		4) DNA修復機構の異常による遺伝性疾患 5) 遺伝子多型 ①ハプロタイプ 6) 転写	
第 12 回	翻訳と翻訳後修飾	1) 翻訳の概要 2) 翻訳のメカニズム ①翻訳の制御と抗生物質 3) タンパク質の折りたたみと輸送・修飾 4) 翻訳後修飾 5) 細胞内輸送シグナル	
第 13 回	シグナル伝達	1) シグナル伝達の概要 2) 細胞内シグナル伝達の機序 ①イオンチャネル内蔵型受容体によるシグナル伝達 ②Gタンパク質共役型受容体によるシグナル伝達 ③酵素共役型受容体によるシグナル伝達 ・Ras-MAP キナーゼシグナル伝達経路 ・JAK-STAT シグナル伝達経路 3) 内分泌の生化学的基盤 ①ホルモンの受容体とフィードバック調整 ②視床下部ホルモン ③下垂体ホルモン ④末梢ホルモン ・甲状腺ホルモン ・副甲状腺ホルモン ・副腎皮質ホルモン ・副腎髄質ホルモン ・性ホルモン 4) ホルモンの異常による疾患	
第 14 回	がん	1) がんの性質 2) 細胞周期とがん 3) がん遺伝子 4) がん抑制遺伝子 5) 染色体転座 6) がん薬物療法	
第 15 回	終講試験とまとめ		
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは生化学の 1 単位を取得できる	

授業要項

関連科目	関連科目	履修時期
	基礎分野：生命科学	1 年次前期
	専門基礎分野：解剖生理学	1 年次前期
	専門基礎分野：薬理学、病理学	1 年次後期
	専門基礎分野：病態論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	1 年次後期 2 年次前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野「生化学」 医学書院	
受講上のアドバイス	生命科学で学ぶ生物体としての細胞レベルの学習や解剖生理学での細胞の機能やホルモン等の知識と関連付けながら生体内での化学反応を学び病態論につなげ、人体を深く理解する授業です。 関連科目の学習を意識しながら学習することで、人体のち密なメカニズムについて理解することができます。	
実務経験の内容	・ 鹿児島大学 医学部 名誉教授 ・ 専門分野 天然物有機化学	

授業要項

専門基礎分野		科目	病理学	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	30 時間	講師名	坂江 清弘
科目概要		機能的に人体を捉え、その機能の不調がなぜ起こり、どのように現れるのかを学習する。臨床場面での対象の病態を理解するための基礎とする。 生体で起こる種々の病気について、その原因、成り立ち、経過および転帰などその本質を理解する。それとともに、そこに提示される病理的な医学用語の正しい意味と使い方を学び取る。			
科目目標		1. 病理学の概要について理解する。 2. 人体の正常な機能が異常をきたし、調節機能が破綻しておきる身体機能の状態を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	病理学総論 ・看護において病理学を学ぶ意義	1. 病気とは 2. 病理学とは 3. 医療における病理学の役割 4. 看護において病理学を学ぶ意義 5. 病気の原因：内因、外因、公害病 6. 病気の分類と病理学の学び方			講義
第 2 回	・細胞の障害（第 2 章）	1. 萎縮、変性、肥大 2. 壊死（ネクロシス）とアポトーシス 3. 創傷と治癒			講義
第 3 回	・生体の障害（第 3 章） 循環障害、臓器不全	1. 虚血 2. 充血 3. うっ血、側副循環 4. 出血、 5. 血栓症、塞栓症、梗塞 6. ショック 7. 浮腫			講義
第 4 回	・生体の障害（第 4 章） 炎症、損傷	1. 炎症とは、炎症の各型 2. 免疫と免疫不全 3. 免疫に関与する細胞 4. 液性免疫と細胞性免疫 5. 免疫不全症			講義
第 5 回	・生体の障害 アレルギーと自己免疫疾患	1. アレルギー Ⅰ型（即時型）、Ⅱ型（細胞障害型）、Ⅲ型（免疫複合型）Ⅳ型（遅延型） 2. 自己免疫疾患			講義
第 6 回	・生体の障害 移植と再生医療	1. 移植と再生医療 2. 移植と拒絶反応 3. 臓器移植			講義
第 7 回	・生体の障害（第 6 章） 代謝異常	1. 脂質代謝障害 肥満、動脈硬化、脂肪肝、脂質異常症 2. タンパク質代謝障害 高アンモニア血症、アミロイドーシス ○糖代謝異常病態は病態論で詳しく学ぶため省く 3. その他の代謝異常			講義

授業要項

		痛風、黄疸、結石	
第 8 回	・ 生体の障害（第 7 章） 老化と死	1. 個体の老化と老年症候群 2. 加齢に伴う諸臓器の変化 3. 個体の死と終末期医療 死の三徴候、死体の検案と解剖 4. 脳死と植物状態 脳死とその判定基準、遷延性意識障害（植物状態） 5. 尊厳死と緩和医療 尊厳死と安楽死	講義
第 9 回	・ 生体の障害（第 8 章） 先天異常、遺伝子異常	1. 遺伝の生物学 2. 染色体異常による疾患 常染色体異常症、性染色体異常症 3. 遺伝情報の変化と疾患 ○先天性疾患、胎児の異常については、小児方法論で学ぶ	講義
第 10 回	・ 生体の異常（第 9 章） 腫瘍	1. 腫瘍とは何か 2. 腫瘍の分類 3. 悪性腫瘍の広がりと影響 腫瘍の増殖、腫瘍の浸潤、腫瘍の広がり（リンパ行性転移、血行性転移、播種） がんの進行度（全身的にみた進行度、TNM 分類） 4. 腫瘍の発生病理 5. 腫瘍の発生活子	講義
第 11 回 ～ 第 13 回	病理学各論 代表的な疾患の病理学的状態	1. 早期がん 2. 食道がん 3. 子宮、乳腺 4. 循環器疾患 5. 造血器 6. 運動器 7. 脳 8. 皮膚 } 各病態論へつなぐ	講義
第 14 回	病理診断の実際（付章） 解剖見学後の学びを統合して深める。	9. 病理診断の意義 10. 細胞診断 11. 生検診断 12. 術中迅速診断 13. 病理解剖 14. 病理診断と看護の接点	講義
第 15 回	終講試験とまとめ		講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは病理学の 1 単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		専門基礎分野：人体の構造と機能（解剖生理学、臨床生化学）既習	1 年前期
		専門基礎分野：臨床薬理学、微生物学と並行して学ぶ	1 年後期

授業要項

	専門基礎分野：病態論Ⅰ（循環器、呼吸器、運動器、感染症、消化器）	1 年次
	専門基礎分野：病態論Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの各疾患と診断、治療	2 年前期
	○感染症は、微生物学で学ぶ ○病理学各論は、各病態論へつなぐ	
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学、医学書院.	
受講上のアドバイス	病理学は、基礎医学を構成する学問の一つであり、文字の通り人間の“病気の理（ことわり）”を考える学問です。つまり、病気の原因、病気の発症、進展の過程患者に対する影響などを学んでいきます。将来、看護師として働いていくためには、多くの病気について知識を身につける必要があります。 病理学を勉強していく中で、様々な病理学の専用用語が出てきます。それらを丸暗記ではなく、一つひとつ理解して覚えていくことが大切です。そして関連してくる病態論や看護学にしっかりつなげられるように学習しましょう	
実務経験の内容	病理診断部医師	

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅰ（循環器疾患）	単位数	2 単位
時期	1 年次前期	時間数	60 時間（内 16 時間）	講師名	木佐貫 彰
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態セリ、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○循環機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回 ～ 第 3 回	心臓の疾患の病態と診断・ 検査・治療		1. 先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、 動脈管開存症、ファロー四徴症） 2. 虚血性心疾患（狭心症、急性冠症候群；心筋梗塞） 冠状動脈造影検査、大動脈バルーンパンピング 3. 心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症） 4. 心不全（左心不全、右心不全） スワングアンツカテーテル検査 5. 心タンポナーデ	講義	
第 4 回			6. 不整脈（上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈 7. 不整脈（徐脈性不整脈） ペースメーカー治療 8. 炎症性疾患（感染性心内膜炎、心筋炎）		
第 5 回	血管系の疾患の病態と診断・ 検査・治療		1. 大動脈瘤、大動脈解離 2. 閉塞性動脈硬化症 3. 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症	講義	
第 6 回 第 7 回	血圧異常の病態と診断・検査・ 治療		1. 動脈硬化症 2. 本態性高血圧 3. 二次性高血圧 4. 起立性低血圧、	講義	
第 8 回	ショックの病態と診断・治療		1. 心源性ショック 2. 出血性ショック 3. 血流分布異常性ショック	講義	
	単元終講テスト（50 点）				
単位認定の方法		1. 病態論Ⅰは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅰは、全ての機能障害分野の終講試験を 2 分野で構成し 200 点満点中 120 点以上で合格となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅰ 2 単位を取得できる ☆本授業科目は 50 点の終講試験を行う。呼吸器疾患 30 点と感染症疾患 20 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目		履修時期	
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（循環器）をもとにつなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント）、臨床看護論（診察検査援助、）につなぐ。		1 年前期～ 1 年前期～	

授業要項

	専門分野Ⅱ（成人方法Ⅱ：循環機能障害看護）	2年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[3]循環器、医学書院.	
受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役目を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。	
実務経験の内容	循環器科医師	

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅰ（呼吸器疾患）	単位数	2 単位
時期	1 年次後期	時間数	60 時間（内 10 時間）	講師名	山中 淳之
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○呼吸機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	呼吸器系の疾患の病態と診断・検査・治療 ・炎症性疾患の病態、診断・治療	1. 気管支炎 2. 肺炎、間質性肺炎、誤嚥性肺炎 3. 胸膜炎 4. 気管支喘息 吸入療法			講義
第 2 回	・換気障害	5. 慢性閉塞性肺疾患の病態、検査、診断、治療			講義
第 3 回	・肺循環障害の病態、診断・治療	1. 肺高血圧症 2. 肺塞栓症 3. 肺結核			講義
第 4 回 第 5 回	・気胸 ・腫瘍	1. 気胸、自然気胸 胸腔ドレナージ、胸腔穿刺 2. 肺がん 手術療法 3. 中皮腫			講義
	単元終講テスト（30 点）				
単位認定の方法		1. 病態論Ⅰは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅰは、全ての機能障害分野の終講試験を 2 分野で構成し 200 点満点中 120 点以上で合格となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅰ 2 単位を取得できる ☆本授業科目は 30 点の終講試験を行う。循環器疾患 50 点と感染症疾患 20 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目			履修時期
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（呼吸器）をもとにつなぐ。			1 年前期～ 1 年後期
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント）、臨床看護論（呼吸維持援助技術、）につなぐ。			1 年前期～ 1 年前期～
		専門分野Ⅱ（成人方法Ⅱ：循環機能障害看護）			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[2]呼吸器、医学書院.			
受講上のアドバイス		病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護			

授業要項

	学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役目を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	医師

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅰ（感染症疾患）	単位数	2 単位
時期	1 年次前期	時間数	60 時間（内 6 時間）	講師名	有馬 丈洋
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態セリ、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○感染症疾患をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	感染症の病態生理と症状		1. さまざまなレベルにおける感染症 2. 敗血症と敗血症ショック 3. 感染症で見られる症状（気道の症状、胸痛、腹痛、感染性心内膜炎、皮疹、筋・骨症状、発熱、不明熱 4. 感染症治療（抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬	講義	
第 2 回	主な感染症の病態、診断、治療		1. HIV 感染症と日和見感染症 2. 多剤耐性菌感染症 3. 結核 4. MRSA 5. インフルエンザ 6. 食中毒（腸管出血性大腸菌感染症、ノロウイルス感染症） 7. アウトブレイクへの対応 8. サーベイランス		
第 3 回					
	単元終講テスト（20 点）				
単位認定の方法		1. 病態論Ⅰは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅰは、全ての機能障害分野の終講試験を 2 分野で構成し 200 点満点中 120 点以上で合格となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅰ 2 単位を取得できる ☆本授業科目は 50 点の終講試験を行う。呼吸器疾患 30 点と循環器疾患 50 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目		履修時期	
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（循環器）をもとにつなぐ。 微生物学で感染の成立、検査、発症予防など基本的知識は学んでいる。 薬理学：感染症に対応する薬物		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（感染予防の技術）、臨床看護論（検査）		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅱ（成人方法Ⅴ：身体防御機能障害看護）		2 年前期	
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[11]アレルギー/膠原病/感染症、医学書院.			

授業要項

受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	感染症医長

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅰ（消化器疾患）	単位数	2 単位
時期	1 年次後期	時間数	60 時間（内 8 時間）	講師名	
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○消化機能（消化管）障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	上部消化管の疾患の病態と 診断・検査・治療		1. 炎症性疾患 逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症 2. 潰瘍性疾患 胃潰瘍、十二指腸潰瘍（潰瘍食事療法）	講義	
第 2 回			3. 腫瘍 食道がん、胃がん	講義	
第 3 回	下部消化管の疾患の病態と 診断・検査・治療		1. 炎症性疾患 潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、痔瘻 2. イレウス	講義	
第 4 回			1. 腫瘍 大腸ポリープ、結腸癌、直腸がん 手術療法と術後管理 2. 排便障害（便秘・下痢）	講義	
	単元終講テスト（30 点）				
単位認定の方法		1. 病態論Ⅰは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅰは、全ての機能障害分野の終講試験を 2 分野で構成し 200 点満点中 120 点以上で合格となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅰ 2 単位を取得できる ☆本授業科目は 30 点の終講試験を行う。消化器疾患（消化器臓器）30 点と運動器疾患 40 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目		履修時期	
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（消化器）をもとにつなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント）、食生活援助技術、臨床看護論（排泄維持技術、）につなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅱ（成人方法Ⅲ：消化・栄養機能障害看護）		2 年前期	
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[5]消化器、医学書院.			
受講上のアドバイス		病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。			

授業要項

	ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	消化器内科医

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅰ（消化器疾患）	単位数	2 単位
時期	1 年次後期	時間数	60 時間（内 10 時間）	講師名	徳元 攻 医師
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○消化機能（消化臓器）障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・検査・治療 ・炎症性疾患の病態と治療		1. 炎症性疾患 肝炎（急性、慢性）、胆嚢炎、膵炎 インターフェロン療法、膵炎生活指導 胆道ドレナージ療法	講義	
第 2 回	・肝硬変の病態と治療		2. 肝硬変 肝生検、肝動脈塞栓療法、 食道静脈瘤の病態、硬化療法	講義	
第 3 回 第 4 回	・腫瘍の病態と治療		1. 腫瘍 肝がん、胆のうがん、胆管癌、膵癌 肝切除術、胆嚢摘出術、膵摘出術の術後管理	講義	
第 5 回	・脂肪肝、胆石症の病態と治療		1. 脂肪肝、アルコール性肝炎 2. 胆石症	講義	
第 9 回	単元終講テスト（30 点）				
単位認定の方法		1. 病態論Ⅰは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅰは、全ての機能障害分野の終講試験を 2 分野で構成し 200 点満点中 120 点以上で合格となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅰ 2 単位を取得できる ☆本授業科目は 30 点の終講試験を行う。消化器疾患（消化器）30 点と運動器疾患 40 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目		履修時期	
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（消化器）をもとにつなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント）、食生活援助技術、臨床看護論（排泄維持技術、）につなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅱ（成人方法Ⅲ：消化・栄養機能障害看護）		2 年前期	
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[5]消化器、医学書院.			
受講上のアドバイス		病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのよ			

授業要項

	うな苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	内科医

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅰ（運動器疾患）	単位数	2 単位
時期	1 年次前期	時間数	60 時間（内 10 時間）	講師名	上 蘭 直弘医師
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○運動機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	骨・関節の疾患の病態と診断・検査・治療		1. 骨折の病態、診断、治療 分類、症状、よくみられる症状、大腿頸部骨折 2. 脱臼（肩関節） 3. ねん挫と打撲	講義	
第 2 回			4. 骨粗鬆症 5. 腫瘍（骨肉腫） 6. 先天性疾患（先天性股関節脱臼、内反足）	講義	
第 3 回			1. 変形性関節症 2. 慢性関節リウマチ	講義	
第 4 回			1. 腰痛症 椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症 2. 炎症性疾患 骨・骨髄炎、関節炎	講義	
第 5 回	運動機能障害疾患の診断に必要な検査		1. 関節可動域測定 2. 徒手筋力テスト 3. ミエログラフィー	講義	
	単元終講テスト（40 点）				
単位認定の方法		1. 病態論Ⅰは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅰは、全ての機能障害分野の終講試験を 2 分野で構成し 200 点満点中 120 点以上で合格となる。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅰ 2 単位を取得できる ☆本授業科目は 30 点の終講試験を行う。消化器疾患 60 点と合わせて 100 点満点			
関連科目		関連科目		履修時期	
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、薬理学、解剖生理学（骨・筋・神経）をもとにつなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント）、活動・休息援助技術につなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅱ（成人方法Ⅳ：運動機能機能障害看護） （老年方法Ⅰ：リハビリテーション看護）		2 年前期	
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[10]運動器、医学書院.			
受講上のアドバイス		病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機			

授業要項

	能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	整形外科医

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅱ (血液・造血器疾患)	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	60 時間 (内 20 時間)	講師名	中野伸亮 他
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○ <u>血液・造血機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。</u>			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	血液・造血器の疾患の病態と診断・検査・治療 ・血液・造血器総論		1. 造血のしくみ、血液像の特徴および機能（復習） 2. 血液疾患の検査（骨髄穿刺） 3.	講義	
第 2 回	・貧血		1. 鉄欠乏性貧血 2. 巨赤芽球性貧血 3. 溶血性貧血 4. 骨髄異形成症候群	講義	
第 3 回	・出血性疾患		1. 血栓性血小板減少性紫斑病（TTP） 2. 免疫性血小板減少性紫斑病（ITP） 3. 播種性血管内凝固（DIC）	講義	
第 4 回	・主な治療		1. 造血幹細胞移植 2. 化学療法	講義	
第 5 回 第 6 回	・悪性リンパ症		1. 悪性リンパ腫の病態、診断、治療（総論、症例）	講義	
第 7 回 第 8 回	・白血病		1. 白血病の病態、診断、治療（総論、AML, ALL, CML, CLL）	講義	
第 9 回	・多発性骨髄腫		1. 多発性骨髄腫の病態、診断、治療	講義	
第 10 回	・成人 T 細胞性白血病		1. ATL の病態、診断、治療	講義	
単位認定の方法		1. 病態論Ⅱは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅱは、各機能障害分野の終講試験を 100 点満点で実施。3 機能分野 300 点満点中の平均点が 60 点以上であること 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅱ 2 単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（血液）をもとにつなぐ。			1 年前期～ 1 年後期
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント）、臨床看護論（診察検査援助、）をもとにつなぐ。			1 年前期～ 1 年後期
		専門分野Ⅱ（成人方法Ⅱ：身体防御障害看護）			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[4]血液・造血器、医学書院.			
受講上のアドバイス		病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んで			

授業要項

	いきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	日本内科学会認定医 / 日本血液学会専門医 日本造血細胞移植学会移植認定医

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅱ (脳神経系疾患)	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	60 時間 (内 20 時間)	講師名	納 光弘
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○ <u>脳神経機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。</u>			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回 第 2 回	中枢神経系の疾患の病態と 診断・検査・治療 ・脳血管障害		1. 脳内出血 2. クモ膜下出血 3. 脳梗塞 4. もやもや病	講義	
第 3 回	・頭蓋内圧亢進症		1. 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 2. 脳圧の異常による障害 3. 脳腫瘍	講義	
第 4 回	・変性疾患		1. パーキンソン病 2. 筋委縮性側索硬化症 (A L S)	講義	
第 5 回	・認知症		1. アルツハイマー型認知症 2. 血管性認知症 3. レビー小体型認知症	講義	
第 6 回 第 7 回	・脊髄損傷 ・機能性疾患		1. 脊髄損傷 2. 重症筋無力症 3. てんかん	講義	
第 8 回 第 9 回	抹消神経系の疾患の病態と 診断・検査・治療		1. ギランバレー症候群 2. 顔面神経麻痺 3. 自律神経失調症 4. 圧迫性神経障害	講義	
第 10 回	終講試験、まとめ		1. 試験とまとめ		
単位認定の方法		1. 病態論Ⅱは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅱは、各機能障害分野の終講試験を 100 点満点で実施。3 機能分野 300 点満点中の平均点が 60 点以上であること 3. 上記 (1・2) の条件を満たしたものは病態論Ⅱ 2 単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学(脳神経)をもとにつなぐ。			1 年前期～ 1 年後期
		専門分野Ⅰ：基礎看護学(フィジカルアセスメント)、臨床看護論(診察検査援助、)をもとにつなぐ。			1 年前期～ 1 年後期
		専門分野Ⅱ(成人方法Ⅳ：脳・神経機能障害看護)			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[7]脳・神経、医学書院.			

授業要項

受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	脳神経内科医

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅱ (内分泌・栄養代謝疾患)	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	60 時間（内 20 時間）	講師名	今村 尚子
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○ <u>内分泌・栄養代謝機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。</u>			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	内分泌系の疾患の病態と診断・検査・治療 ・視床下部、下垂体疾患		1. 内分泌系の機能（復習） 2. 下垂体ホルモンの検査 3. 視床下部—下垂体前葉系疾患 4. 視床下部—下垂体後葉系疾患 5. 下垂体腫瘍	講義	
第 2 回 第 3 回	・甲状腺疾患 ・副甲状腺疾患		1. 甲状腺ホルモンの検査 2. 甲状腺機能亢進症 3. 甲状腺機能低下症 4. 甲状腺炎 5. 甲状腺がん 6. 副甲状腺（上皮小体）疾患	講義	
第 4 回	・副腎皮質・髄質疾患		1. 副腎皮質・髄質の働きとその異常 2. 副腎の疾患 3. 副腎のホルモンの検査	講義	
第 5 回	代謝異常の疾患の病態と診断・検査・治療 ・糖尿病の診断・治療		1. 糖尿病の分類（1 型、2 型） 2. 診断 3. 治療（食事療法）	講義	
第 6 回			1. 治療（運動療法） 2. 治療（薬物療法）	講義	
第 7 回 第 8 回	・糖尿病合併症		1. 3 大合併症（腎症、網膜症、神経症） 2. 大血管合併症 3. 急性合併症 4. 妊娠合併症	講義	
第 9 回	・資質異常症他		1. 脂質異常症 2. 肥満 3. 高尿酸血症		
第 10 回	終講試験、まとめ		1. 試験とまとめ		
単位認定の方法		1. 病態論Ⅱは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅱは、各機能障害分野の終講試験を 100 点満点で実施。3 機能分野 300 点満点中の平均点が 60 点以上であること 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅱ 2 単位を取得できる			
関連科目		関連科目		履修時期	
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（消化・内分泌）をもとにつなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	

授業要項

	専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント、食生活援助）、をもとにつなぐ。	1 年前期～ 1 年後期
	専門分野Ⅱ（成人方法Ⅲ：糖代謝・内分泌機能障害看護）	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝、医学書院.	
受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。	
実務経験の内容	糖尿病専門医	

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅲ (腎疾患)	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	60 時間 (内 15 時間)	講師名	竹之内 聖三
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○腎機能機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	腎疾患の病態と診断・検査・治療 ・腎機能の検査と治療	1. 腎機能検査 クレアチニン及び血中尿素の測定、クリアランス試験、糸球体濾過量 (GFR) フィッシュバーグ濃縮試験、PSP 排泄試験 2. 画像検査 (IVU, RP) 3. 腎疾患の内科治療の基本			講義
第 2 回 第 3 回	・腎疾患の治療	1. 血液透析療法 血液透析の原理、バスキュラーアクセス内シャント形成術 2. 血液透析患者にみられる合併症 透析導入時合併症、慢性合併症 3. 腹膜透析 腹腔カテーテルの造設と腹膜透析液 腹膜透析の実施法 (CAPD, IPD) 4. 持続血液透析濾過法 (CHDF) 5. 腎移植 組織適合試験、移植手術、手術と免疫抑制療法			講義
第 4 回 第 5 回	・疾患の理解 腎不全と AKI・CKD	1. 急性腎不全 (ARF) 2. 急性腎障害 (AKI) 3. 慢性腎不全 (CRF) 4. 慢性腎臓病 (CKD)			講義
第 6 回	・ネフローゼ症候群 ・腎炎	1. ネフローゼ症候群 2. 糸球体腎炎：急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎のタイプと治療			講義
第 7 回	・全身性疾患による腎障害	1. 全身性エリテマトーデスによるループス腎炎 2. 高尿酸血症に続発する腎障害 3. 腎血管性病変			講義
第 8 回	終講試験 (50 点)	1. 試験とまとめ			
単位認定の方法		1. 病態論Ⅲは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅲは、各機能障害分野の終講試験 5 分野を 200 点満点。この分野は、 <u>皮膚・アレルギー疾患 50 点と合わせて 100 点の試験を実施する。</u> <u>他の 3 分野 (感覚器 (目・耳鼻咽喉疾患) と歯科口腔外科の 100 点との平均点が 60 点いじょうであること</u> 3. 上記 (1・2) の条件を満たしたものは病態論Ⅱ 2 単位を取得できる			

授業要項

関連科目	関連科目	履修時期
	病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（腎・泌尿器）、薬理学をもとにつなぐ。	1 年前期～ 1 年後期
	専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント）臨床看護論、（排泄維持援助、診察検査）、を活かす	1 年前期～ 2 年前期
	専門分野Ⅱ（成人方法Ⅳ：腎機能障害看護）	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院.	
受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役目を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。	
実務経験の内容	腎臓内科医	

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅲ (皮膚・アレルギー疾患)	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	60 時間 (内 15 時間)	講師名	米倉・武田
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○ <u>皮膚・アレルギー、膠原病疾患をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。</u>			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	皮膚・アレルギー疾患の病態と診断・検査・治療		1. 皮膚の構造と機能 免疫機能、保湿作用、体温調節作用 知覚作用、分泌・排泄作用 2. 症状と治療検査 発疹、掻痒 アレルギー検査 3. 病原微生物の検査	講義	
第 2 回	・皮膚疾患の治療・処置		1. 手術療法 2. 全身療法、外用療法 3. 光線療法、レーザー療法 4. 電気外科、凍結療法、ケミカルピーリング	講義	
第 3 回 第 4 回	・疾患の理解		1. 表在性皮膚疾患 湿疹、皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎 紅斑症 2. 上皮系腫瘍 3. 感染症 4. 熱傷 5. アナフィラキシーショック 6. 花粉症	講義	
第 5 回 第 6 回 第 7 回	自己免疫疾患の病態と診断・治療		1. 全身性エリテマトーデス (SLE) 2. 強皮症 3. 関節リウマチ 4. シェーグレン症候群 5. 上記疾患の診断に必要な検査、治療 6. 免疫グロブリン等免疫学的検査 7. 薬物療法 (ステロイド療法 8. 症状と病態 関節痛、レイノー現象、発熱、蛋白尿、筋力低下	講義	
第 8 回	終講試験 (50 点)		1. 試験とまとめ		
単位認定の方法		1. 病態論Ⅲは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅲは、各機能障害分野の終講試験 5 分野を 200 点満点。この分野は、 <u>腎疾患 50 点と合わせて 100 点の試験を実施する。</u> <u>他の 3 分野 (感覚器 (目・耳鼻咽喉疾患) と歯科口腔外科の 100 点との平均点が 60 点以上であること</u> 3. 上記 (1・2) の条件を満たしたものは病態論Ⅱ 2 単位を取得できる			

授業要項

関連科目	関連科目	履修時期
	病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（腎・泌尿器）、薬理学をもとにつなぐ。	1 年前期～ 1 年後期
	専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント、清潔援助技術）を活かす	1 年前期～ 2 年前期
	専門分野Ⅱ（老年方法Ⅰ：皮膚、褥創ケア）	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[11] アレルギー膠原病、医学書院。 系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[12] 皮膚、医学書院。	
受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役目を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。	
実務経験の内容	皮膚科医	

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅲ (感覚器;耳鼻咽喉頭疾患)	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	60 時間 (内 10 時間)	講師名	田中 紀充
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○耳鼻咽喉疾患をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	耳鼻咽喉頭疾患の病態と診断・検査・治療 ・耳鼻咽喉・頸部の構造と機能		1. 耳の構造と機能 耳の構造、聴覚、平衡覚 2. 鼻の構造と機能 3. 口腔と唾液腺の構造と機能 3. 咽頭の構造と機能	講義	
第 2 回	・症状と病態生理		1. 耳にあらわれる症状と病態生理：平衡感覚障害 伝音性難聴と感音性難聴 2. 鼻にあらわれる症状と病態生理 3. 口腔、唾液腺、咽頭にあらわれる症状と病態生理 4. 喉頭にあらわれる症状と病態生理	講義	
第 3 回	・検査と治療		1. 診察と診断の流れ 2. 主な検査：聴力検査 3. 主な治療 4. 手術療法：副鼻腔手術、鼓室形成術	講義	
第 4 回 第 5 回	・疾患の理解		1. 耳疾患：中耳炎、メニエール病他 2. 鼻疾患：鼻腔疾患、副鼻腔弛疾患 3. 口腔・咽喉頭疾患：口内炎、舌癌 咽頭炎、扁桃腺炎、咽頭がん 流行性耳下腺炎 4. 気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害	講義	
	終講試験 (30 点)				
単位認定の方法		1. 病態論Ⅲは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅲは、各機能障害分野の終講試験 5 分野を 200 点満点。この分野は、 <u>眼科疾患 20 点、歯科・口腔外科疾患 50 点と合わせて 100 点の試験を実施する。</u> <u>他の 2 分野（腎疾患と皮膚アレルギー疾患）の 100 点との平均点が 60 点以上であること</u> 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅲ 2 単位を取得できる			
関連科目		関連科目		履修時期	
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学(感覚器)、薬理学をもとにつなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント、診察検査技術）を活かす		1 年前期～ 2 年前期	
				2 年前期	
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			

授業要項

使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[14]耳鼻咽喉頭、医学書院.
受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役目を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	耳鼻咽喉科医

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅲ (感覚器;眼疾患)	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	60 時間 (内 8 時間)	講師名	土居 範仁
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○ <u>眼疾患をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。</u>			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	眼疾患の病態と診断・検査・治療 ・眼の構造と機能 ・症状とその病態生理		1. 眼球：角膜・強膜、ぶどう膜、網膜、水晶体、硝子体、前房、後房 2. 視神経・視路 3. 眼球付属器 4. 視機能に関連した症状:視力障害、視野異常、色覚異常 5. 視機能に関連しない症状:充血、流涙、眼脂、羞明、異物感、掻痒感、眼痛	講義	
第 2 回	・検査と治療処置		1. 診察と診断の流れ 2. 検査:視力検査、眼圧測定、瞳孔検査、視野検査 3. 治療：点眼法、洗眼法、涙管ブジー、光凝固屈折矯正、視能矯正、麻酔、手術	講義	
第 3 回	・疾患の理解と治療		1. 機能の障害 屈折の異常、調節の異常、色覚の異常、弱視 2. 部位別の異常と治療 眼瞼の疾患、結膜の疾患、角膜の疾患 網膜・硝子体の疾患 硝子体手術 白内障手術と管理 緑内障手術 3. 全身疾患との関連	講義	
第 4 回					
	終講試験 (20 点)				
単位認定の方法		1. 病態論Ⅲは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅲは、各機能障害分野の終講試験 5 分野を 200 点満点。この分野は、 <u>耳鼻咽喉頭疾患 30 点、歯科・口腔外科疾患 50 点と合わせて 100 点の試験を実施する。</u> <u>他の 2 分野（腎疾患と皮膚アレルギー疾患）の 100 点との平均点が 60 点以上であること</u> 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅲ 2 単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学(感覚器)、薬理学をもとにつなぐ。			1 年前期～ 1 年後期
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント、診察検査技術）を活かす			1 年前期～ 2 年前期

授業要項

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[13]眼、医学書院.
受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	眼科医

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅲ (歯・口腔外科疾患)	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	60 時間 (内 15 時間)	講師名	三島 優美子
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○ <u>歯・口腔外科疾患をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。</u>			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	歯・口腔外科疾患の病態と 診断・検査・治療 ・歯・口腔の構造と機能		1. 歯科・口腔の看護を学ぶにあたって 2. 歯及び歯周組織 3. 口唇及び頬部 4. 口蓋、舌 5. 顎および顎関節	講義	
第 2 回	・症状と病態生理		1. 口腔症状 2. 腫脹、口腔出血 3. 歯の欠損、 4. 口臭、口臭症 5. 顎口腔機能障害	講義	
第 3 回	・検査と治療・処置		1. 診察と診断の流れ 2. 検査：口腔内検査、画像検査 3. 歯科・口腔外科的検査 4. 治療・処置 齲歯の治療 歯周疾患の治療 口腔外科外来治療，入院治療（手術治療） 補綴治療 小児の治療、高齢者の治療	講義	
第 5 回 第 6 回	・疾患の理解 ・口腔ケアの基本		1. 歯の異常と疾患：齲歯 2. 歯周組織の疾患：歯周病 3. 口腔粘膜の疾患 4. 口腔領域の悪性疾患 5. 歯と顎骨の外傷 6. 口腔領域の先天異常及び発育異常 7. 口腔ケアの方法		
第 7 回	終講試験（50 点）とまとめ		終講試験とまとめ		
単位認定の方法		1. 病態論Ⅲは全体 60 時間を通して 36 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅲは、各機能障害分野の終講試験 5 分野を 200 点満点。この分野は、 <u>耳鼻咽喉頭疾患 30 点、眼疾患 20 点と合わせて 100 点の試験を実施する。</u> <u>他の 2 分野（腎疾患と皮膚アレルギー疾患）の 100 点との平均点が 60 点以上であること</u> 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅲ 2 単位を取得できる			
関連科目		関連科目		履修時期	
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、薬理学をもとにつなぐ。 <u>解剖生理学では学習していない領域である。</u>		1 年前期～ 1 年後期	

授業要項

	専門分野Ⅰ：基礎看護学（食生活援助技術）を活かす	1 年前期～ 2 年前期
	各看護学方法論につなぐ	
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[15] 歯・口腔、医学書院.	
受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。	
実務経験の内容	歯科医	

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅳ (女性生殖器疾患)	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	30 時間 (内 20 時間)	講師名	比良高明、市成
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○女性生殖器系に障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	女性生殖器の構造と機能		1. 女性生殖器の構造 2. 女性生殖器の機能 性周期と性ホルモン、月経周期とホルモン動態 妊娠の成立、妊娠の診断		講義
第 2 回	症状と病態生理		1. ショック 2. 出血、帯下 3. 疼痛、発熱 4. 外陰部搔痒感、排尿障害 5. 自律神経症状、リンパ浮腫		講義
第 3 回 第 4 回	診察・検査と治療・処置 ・		1. 理学的検査 2. 病理検査 3. 画像検査 4. 内視鏡検査 5. 治療・処置 膣洗浄、ダグラス窩穿刺、ホルモン療法 6. 手術療法 複式単純子宮全摘出術、子宮全摘出術 その他の手術療法 7. 避妊		講義
第 5 回 第 6 回	女性生殖器系疾患の病態と 診断・検査・治療 ・臓器別疾患		1. 外陰の疾患 2. 膣の疾患 3. 子宮の疾患 4. 卵管の疾患		講義
第 7 回	・機能的疾患		1. 月経異常 2. 更年期障害 3. 不妊症 4. 不育症		
第 8 回	・感染症		1. 性感染症 性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペス、コンジローマ、膣トリコモナス症、カンジダ HIV 感染症		
第 9 回	子宮がん患者の看護		1. 周術期の経過と看護 2. 化学療法を受ける患者の看護		教員、市成
第 10 回	帝王切開術の看護		1. 周術期の経過と看護 2. 母児支援の看護		教員、市成

授業要項

	終講試験（50 点）		
単位認定の方法	1. 病態論Ⅳは 30 時間を通して 20 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅳは、泌尿器疾患と合わせて 100 点満点。60 点以上であること。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅳ 1 単位を取得できる		
関連科目	関連科目		履修時期
	病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（生殖器）、薬理学をもとにつなぐ。		1 年前期～ 1 年後期
	専門分野Ⅰ 看護技術（清潔援助）、臨床看護論（排泄維持技術）をもとにつなぐ。		1 年前期～ 1 年後期
	専門分野Ⅱ 母性看護学（概論、保健、方法論Ⅰ・Ⅱ）		1 年前期～ 2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[9]女性生殖器、医学書院.		
受講上のアドバイス	病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役目を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。		
実務経験の内容	婦人科医		

授業要項

専門基礎分野		科目	病態論Ⅳ (泌尿器疾患)	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	30 時間（内 10 時間）	講師名	
科目概要		解剖生理学、病理学の知識を基に、系統機能別に疾患の病態、診断、治療について学び、それぞれの治療に伴う看護を実践するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 主たる身体の機能障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療について学び、これらの治療に伴う看護を考えるための基礎的知識を身につける。 ○泌尿器系に障害をもつ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	泌尿器系疾患の病態と診断・検査・治療 ・泌尿器系の検査と治療		1. 尿の肉眼的異常 2. 画像検査：膀胱造影（CG）、尿道造影（RP） 精巣造影 3. 超音波検査、核医学的診断法	講義	
第 2 回 第 3 回	・治療と処置		1. 経尿道的操作及び内視鏡検査 術前処置、器具を用いる検査 2. 尿流動態検査（ウロダイナミックスタディ） 3. 生検 4. 尿路感染症の治療 5. 手術療法：尿路変更術 6. 泌尿器がんの治療 7. 排尿管理；清潔間欠導尿	講義	
第 4 回 第 5 回	・疾患の理解 ・		1. 尿路の通過障害と機能障害 2. 尿路結石症 3. 尿路・性器の腫瘍 腎がん、膀胱がん 尿道がん、前立腺がん 4. 男性性機能障害	講義	
	終講試験（50 点）		1.		
単位認定の方法		1. 病態論Ⅳは 30 時間を通して 20 時間以上の出席があること 2. 病態論Ⅳは、女性生殖器疾患と合わせて 100 点満点。60 点以上以上であること。 3. 上記（1・2）の条件を満たしたものは病態論Ⅳ 1 単位を取得できる			
関連科目		関連科目		履修時期	
		病態論は専門分野を学ぶ土台となる。病理学、解剖生理学（腎・泌尿器）、薬理学をもとにつなぐ。		1 年前期～ 1 年後期	
		専門分野Ⅰ：基礎看護学（フィジカルアセスメント）臨床看護論、（排泄維持援助、診察検査）、を活かす		1 年前期～ 2 年前期	
		専門分野Ⅱ（成人方法Ⅳ：腎機能障害看護）		2 年前期	
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院.			
受講上のアドバイス		病態論は、既習の解剖生理学や病理学、臨床生化学の知識を基に、人体の正常な			

授業要項

	機能や調節機能が破綻して起きる機能障害の診断・検査・治療を具体的に学んでいきます。疾病回復を支えるには、どのような看護が必要となってくるのか各看護学の学びにつなげられるように、学習しましょう。 ある疾病を持った対象の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、また、その異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければなりません。看護学で必要とされる学習科目には、解剖生理学のような専門基礎分野と成人看護学のような専門分野などに分かれて設定していますが、本科目の病態論は、この両分野の知識をつなぐ橋渡しの役割を担う科目です。実習で担当する患者のアセスメントや看護ケア、臨床判断力につなげて活きましょう。
実務経験の内容	泌尿器科医

授業要項

専門基礎分野		科目	微生物学	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	3 0 時間	講師名	三島 優美子
科目概要		微生物が人体に与える影響を理解し、看護における感染予防の原則と対応について理解するための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 感染症の原因としての病原体を理解する 2. 対象の体内でどのように病原体と闘い、排除しようとしているのか理解する 3. 感染症の検査について理解する 4. 感染・発症予防の基礎的知識を理解する			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	微生物と微生物学		1. 微生物の性質 1) 微生物の種類と特徴 2) 微生物の生物学的位置 2. 微生物と人間 3. 微生物学の対象と目的		講義
第 2 回	細菌の性質		1. 細菌の形態と特徴 1) 大きさ・形・空間配列 2) 染色性 3) 構造と機能 4) 菌体の化学的組成 2. 培養環境と栄養 3. 細菌の遺伝 4. 細菌の分類 5. 常在細菌叢		講義
第 3 回	真菌の性質、原虫の性質		1. 真菌の形態と特徴 1) 細菌との違い 2) 形態 3) 菌体の構造 2. 真菌の増殖 3. 原虫の特徴と基本構造 1) 原虫とは 2) 原虫の基本構造 3) 原虫の増殖 4. 病原原虫の種類		講義
第 4 回	ウイルスの性質		1. ウイルスの特徴 2. ウイルスの構造と各部分の機能 3. ウイルスの増殖 4. ウイルスの分類		講義
第 5 回	感染と感染症		1. 微生物感染の機構 1) 感染とは 2) 生体と病原体 2. 感染の成立から発症・治癒まで 1) 病原体の侵入とその経過 2) 付着・侵入から発症まで 3) 発症後の経過 3. 細菌感染の機構		講義

授業要項

		4. 真菌感染の機構 5. 原虫感染の機構 6. ウイルス感染の機構	
第 6 回	感染に対する生体防御機構	1. 自然免疫のしくみ 2. 獲得免疫のしくみ 3. 粘膜免疫のしくみ 4. 感染の徴候と症状	講義
第 7 回	感染源・感染経路からみた感染症 滅菌と消毒	1. 経口感染 2. 経気道感染 3. 接触感染 4. 経皮感染 5. 母児感染 6. バイオハザードとバイオセーフティ 7. 滅菌・消毒の意義と定義 8. 滅菌法 9. 消毒と消毒薬	講義
第 8 回	感染症の検査・治療	1. 病原体を検出する方法 2. 生体の反応から診断する方法 3. 化学療法の基礎 1) 薬剤耐性（薬物耐性） 2) 副作用 4. 各種の化学療法薬 1) 抗細菌薬（抗菌薬） 2) 抗真菌薬 3) 抗原虫薬 4) 抗ウイルス薬	講義
第 9 回	感染症の現状と対策	1. 感染症の現状と問題点 1) 新興・再興感染症 2) 院内感染とその特徴 2. 感染症への対策 1) 感染症法および関連する法律 3. 感染予防の理念と実際 1) 標準予防策 2) 感染経路別予防策 3) 医療関連感染の制御 4. ワクチンと予防接種	講義
第 10 回	代表的な感染症と臨床微生物	1. 呼吸器感染症 2. 結核 3. 消化器系感染症・食中毒	講義
第 11 回	代表的な感染症と臨床微生物	1. 肝炎 2. 尿路感染症 3. 性感染症	講義
第 12 回	代表的な感染症と臨床微生物	1. 皮膚・粘膜の感染症 2. 皮膚に発疹が出現するウイルス感染症とリケッチア感染症 3. 脳・神経系感染症	講義
第 13 回	代表的な感染症と臨床微生物	1. 人畜共通感染症	

授業要項

	物	2. 寄生虫感染症 3. 小児の感染症 4. 母子感染 5. 高齢者の感染症	
第 14 回	代表的な感染症と臨床微生物	1. 日和見感染症 2. 移植患者と感染症 3. 術後感染症・創傷感染症 4. 血管カテーテル関連感染症 5. 針刺し感染症 6. 薬剤耐性菌	
第 15 回	終講試験・まとめ		試験・講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは微生物学の単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		専門基礎分野：解剖生理学（第 7 章、第 9 章）、病理学（第 4 章、第 5 章、第 13 章）病態論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床薬理学（第 4 章）、公衆衛生（第 4 章、第 7 章）	1 年前期～ 2 年前期
		専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅰ（第 13 章）	1 年前期
		専門分野Ⅱ：成人看護学（感染症、皮膚、アレルギー、膠原病消化器）	1 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学、医学書院.	
受講上のアドバイス		この授業は、地球環境を保つ微生物や有用微生物、病原微生物など生まれた時から付き合う微生物を知り、病原微生物が私達にどのような病気をおこすのか、それに対してどのように対処すべきか、感染症の仕組みと予防、治療について学びます。微生物学の知識は、看護を行う上で有用です。看護に活かされるようしっかり学習しましょう。	
実務経験の内容		歯科医師	

授業要項

専門基礎分野		科目	臨床薬理学	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	3 0 時間	講師名	南英樹 松田崇浩
科目概要		医療安全の立場からも、臨床での薬剤に関する知識の獲得は看護師にとって重要である。薬剤の人体への影響を学び、薬物療法における対象の安全を確保し、責任を持って診療の補助を行うための基礎的知識を養う。			
科目目標		1. 薬理作用の基礎的知識を学び、臨床でよく用いられる薬物の作用、人体への影響について理解する。 2. 臨床でよく用いられる薬剤が、その疾患の治療に用いられる理由を理解する。 3. 臨床でよく用いられる薬剤が、生命に直結する薬剤について、看護における観察や使用上の留意点などを理解する。 4. 重篤な薬物有害反応の自覚症状や他覚症状について理解する。 5. 薬剤の投与量の計算方法を理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	薬理学総論		1. 薬理学とはなにか ①薬物とはなにか 2. 薬による病気の治療 ①薬物の使用目的 ②薬物療法における看護師の役割		講義
第 2 回	薬理学総論		1. 薬が作用するしくみ ①薬物受容体 2. 薬の体内挙動（薬物動態学） ①薬物の投与経路 ②薬物の吸収 ③薬物の代謝と排泄 3. 薬効の個人差に影響する因子 4. 薬物の副作用 5. 医薬品に関する法律		講義
第 3 回	抗感染症薬		1. 感染症治療に関する基礎事項 ①薬物耐性 2. 抗感染症薬各論 ①βラクタム系抗菌薬 ②アミノグリコシド系抗菌薬 ③テトラサイクリン系抗菌薬 ④マクロライド系抗菌薬 ⑤合成化学療法薬 3. 特殊な感染症の治療薬 ①抗結核薬 ②抗真菌薬 ③抗ウイルス薬 4. 感染症の治療における問題点		講義
第 4 回	抗がん薬		1. がん治療に関する基礎事項 ①抗がん作用のしくみ ②抗がん薬の有害作用 ③薬物耐性 2. 抗がん薬各論		講義

授業要項

		①アルキル化薬 ②代謝拮抗薬 ③抗生物質 ④食物アルカロイド ⑤性ホルモンおよび性ホルモン拮抗薬 ⑥分子標的薬	
第5回	免疫治療薬	1. 免疫系の基礎知識 ①自然免疫系と獲得免疫系 ②免疫反応のしくみ 2. 免疫抑制薬 3. 免疫増強薬・予防接種薬	講義
第6回	抗アレルギー薬・抗炎症薬	1. 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2. 炎症と抗炎症薬 ①非ステロイド性抗炎症薬 ②ステロイド性抗炎症薬 ③関節リウマチ治療薬 3. 痛風・高尿酸血症治療薬 4. 片頭痛治療薬	講義
第7回	末梢での神経活動に作用する薬物	1. 神経系による情報伝達 2. 自律神経系作用薬 3. 交感神経作用薬 4. 副交感神経作用薬 5. 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義
第8回	中枢神経系に作用する薬物	1. 中枢神経系のはたらきと薬物 2. 全身麻酔薬 3. 催眠薬・抗不安薬 4. 抗精神病薬 5. 気分障害治療薬 6. パーキンソン症候群治療薬 7. 抗てんかん薬 8. 麻薬性鎮痛薬	講義
第9回	心臓・血管系に作用する薬物	1. 抗高血圧薬 2. 狭心症治療薬 3. 心不全治療薬 4. 抗不整脈薬	講義
第10回	心臓・血管系に作用する薬物	1. 利尿薬 2. 脂質異常症治療薬 3. 血液に作用する薬物 ①貧血治療薬 ②造血因子の臨床応用 ③血液悪性腫瘍治療薬 ④抗血液凝固薬 ⑤血栓溶解薬 ⑥止血薬	講義
第11回	呼吸器・生殖系に作用する薬物	1. 呼吸器系に作用する薬物 ①気管支喘息治療薬 ②鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬	講義

授業要項

		2. 生殖器・泌尿器系に作用する薬物	
第 12 回	消化器系に作用する薬物	1. 消化器系に作用する薬物 ①消化性潰瘍治療薬 ②健胃・消化薬と消化管運動促進薬 ③制吐薬 ④下剤と止痢薬 ⑤潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬 ⑥駆虫薬	講義
第 13 回	物質代謝に作用する薬物 皮膚科用薬・眼科用薬	1. ホルモンとホルモン拮抗薬 ①糖尿病治療薬 ②甲状腺疾患治療薬 ③視床下部・下垂体ホルモン ④骨粗鬆症の治療薬 2. 治療薬としてのビタミン 3. 皮膚に作用する薬物 4. 眼科用薬	講義
第 14 回	救命救急時に使用する薬 消毒薬 輸液製剤・輸血剤	1. 救急に用いられる薬物 2. 急性中毒に対する薬物 3. 消毒薬 4. 輸液製剤 5. 輸血剤	講義
第 15 回	終講試験・まとめ		テスト・講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは臨床薬理学の単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		専門基礎分野：解剖生理学、臨床生化学、微生物学、病理学 病態論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、	1 年前期～ 後期
		専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅰ、臨床看護論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	1 年前期～ 2 年前期
		専門分野Ⅱ：成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	2 年前期～
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学、医学書院.	
受講上のアドバイス		現代の医療には薬物療法が不可欠である。患者に接する時間が多い看護師は、薬物の作用や副作用、投与するときの注意点などの理解が必要であり、かつ医療事故防止にも努めなければならない。看護を行う上で、最低限知っておきたい薬物一般に共通する知識や薬物の使用目的や作用、有害作用・禁忌などを学習し、臨床の場で薬物療法がどのように実施されているのか、どのような問題があり、どんな点に気をつければよいのかを学ぶ講義である。薬理学を習得することは全ての専門科目の理解を助けることにつながる。専門科目全てにおいて、薬物の作用・副作用についての基礎知識は関連しており、薬物療法と薬物の作用・副作用を理解するためには解剖学・生理学、生化学などの基礎知識の理解と応用が必要である。受講にあたっては、講義前にこれらの基礎科目の復習と薬理学の教科書等により予習し、講義終了後、教科書や配布資料等を用いて復習を行う必要がある。	
実務経験の内容		薬剤師	

授業要項

専門基礎分野		科目	栄養学	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	1 5 時間	講師名	加藤 実穂
科目概要		健康にとっての栄養の意義と健康増進、健康障害の治療のための食事指導の実際を学習し、臨床の場での看護実践の基礎とする。			
科目目標		1. 健康にとっての栄養の意義を学ぶ。 2. 食事療法の意義と食事指導の必要性を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	人間栄養学と看護 栄養素の種類とはたらき		1. 保健・医療における栄養学 2. 看護と栄養 ①食事における看護師の役割 ②経口摂取と栄養補給法 ③食欲を低下させる原因 ④チーム医療・地域医療における栄養ケア 3. 栄養素の種類とはたらき	講義	
第 2 回	食物の消化と栄養素の吸収・代謝 エネルギー代謝		1. 食物の消化 ①消化器系のしくみとはたらき ②機械的消化と化学的消化 ③三大栄養素の消化 2. 栄養素の吸収 3. 血漿成分と栄養素 4. 栄養素の代謝 5. 吸収・代謝産物の排泄 6. 基礎代謝	講義	
第 3 回	食事と食品 栄養ケア・マネジメント 栄養状態の評価・判定		1. 日本人の食事摂取基準 2. 特別用途食品 3. 栄養アセスメントの目的 4. 栄養スクリーニング 5. 栄養アセスメント・ケア計画 6. 栄養状態の評価・判定	講義	
第 4 回	ライフステージと栄養		1. 乳児期における栄養 2. 幼児期における栄養 3. 学童期における栄養 4. 思春期・青年期における栄養 5. 成人期における栄養 6. 妊娠期における栄養 7. 授乳期における栄養 8. 更年期における栄養 9. 高齢期における栄養	講義	
第 5 回	臨床栄養		1. 栄養補給法 2. 病院食 3. 経腸栄養製品 4. 静脈栄養剤	講義	
第 6 回	臨床栄養		1. 疾患・症状別食事療法の実際	講義	
第 7 回	健康づくりと食生活		1. 食生活の変遷と栄養の問題点 2. 生活習慣病の予防	講義	

授業要項

		3. 食生活の改善への施策 4. 食の安全性と表示	
第 8 回	終講試験		
単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは栄養学の単位を取得できる		
関連科目	関連科目		履修時期
	専門基礎分野：解剖生理学（消化器・内分泌）、臨床生化学、臨床薬理学、病態論Ⅰ（消化器）・Ⅱ（内分泌・栄養・代謝）、公衆衛生学（生活習慣病対策）		1 年前期～ 2 年前期
	専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅳ（食生活の援助技術）、臨床看護論Ⅱ（消化・排泄障害のある患者の看護）		1 年前期～ 後期
	専門分野Ⅱ：成人看護学方法論Ⅲ・Ⅳ（腎機能障害看護）、老年看護学概論（フレイル）老年看護学方法論Ⅰ（食生活の支援、サルコペニア）、小児看護学概論（学童期・思春期の栄養、食生活、生活習慣病の予防）母性看護学方法論Ⅰ（妊娠中の食生活、褥婦の身体の状態）、在宅看護論方法論Ⅰ（食生活・嚥下に関するアセスメント、食生活・嚥下への援助のポイント、経管栄養法、在宅中心静脈栄養法）		2 年前期～ 後期
	看護の統合と実践：医療安全（中心静脈ラインの管理における主な危険とその要因）		3 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学、医学書院。 参考図書：系統看護学講座 別冊 栄養食事療法、医学書院。 糖尿病食事療法のための食品交換表、文光堂。		
受講上のアドバイス	人間が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むために体外から取り入れるべき必須物質が栄養素である。栄養学はこれまでは、食物や栄養素が着目されてきたが、近年の栄養問題である生活習慣病や高齢者などの低栄養障害を治療したり、予防を行うためには人間の栄養状態をみることが重要である。目の前の人間を見て健康・栄養状態を考えることは看護を実践する上で大切である。予習・復習を行うのはもちろん、多くの科目と関連があるため特に、解剖生理学、臨床生化学と連動させて学習して欲しい。		
実務経験の内容	管理栄養士		

授業要項

専門基礎分野		科目	総合保健医療論	単位数	1 単位
時期	3 年次前期	時間数	1 5 時間	講師名	今村 英仁
科目概要		保健・医療の新しい展開について学び、看護師として果たすべき役割を理解する。			
科目目標		1. 健康の概念をもとに保健・医療の新しい展開について理解する。 2. 保健医療福祉の中で看護師として果たすべき具体的な役割を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	医療と看護の原点	はじめに－看護の「心」援助と共感 1. 命について考える 2. 健康とは：QOL について考える 3. 病の体験：ストレス、老いと病について 4. 癒し 5. チーム医療とマネジメント			講義
第 2 回	医療の歩みと医療観の変遷	1. 現代医学の起源 2. 医療の変遷 3. 医療観の変遷			講義
第 3 回	私たちの生活と健康	1. 救急医療と蘇生術 2. 診療所と病院 3. 薬と安全性 4. 保健・福祉行政 5. 疾病の一次予防と健康増進 6. 少子高齢化と人口減少 7. 障害者のノーマライゼーション 8. 心の健康と精神医療			講義
第 4 回	科学技術の進歩と現代医療の最前線	1. がん診療最前線 2. 移植医療 3. 人工臓器の開発 4. 体外受精と出生前診断 5. 再生医療			講義
第 5 回	現代医療の新たな課題	1. 薬の副作用 2. 延命治療への疑問 3. 生命倫理学と臨床倫理学の展開 4. 産業社会 5. インフォームドコンセントと医療情報の開示 6. 医療情報の開示と診療録（カルテ）			講義
第 6 回	医療を見つめ直す新しい視点	1. 臨床疫学 2. 患者の安全 3. 医療の管理と評価 4. 先端医療開発 5. 情報化社会と医療			講義
第 7 回	保健・医療・福祉の潮流	1. 新時代の保健・医療の担い手 2. プライマリケア 3. 医療におけるケアの視点 4. 地域包括医療システムの新しい展開 5. 保健・医療・福祉におけるボランティア活動の意義			講義

授業要項

第 8 回	筆記試験		試験
単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは関係法規の単位を取得できる		
関連科目	関連科目		履修時期
	基礎分野：心理学		1 年前期
	専門基礎分野：公衆衛生、社会福祉、関係法規、病理学、病態論Ⅱ		2 年前期～ 3 年前期
	専門分野Ⅰ：看護学概論、成人保健、母性保健、精神看護学概論、精神保健、在宅看護概論		1 年前期～ 1 年後期
	看護の統合と実践：看護管理		3 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 総合保健医療論、医学書院.		
受講上のアドバイス	求められる看護師像は、社会の在り方や人々の意識を反映して時代と共に変遷する。この授業では、保健・医療の現場で問われている課題を取り上げ、医療・看護の問題をより深く理解できるように進めていく。移植医療や遺伝子診断などの先端医療技術がもたらしたジレンマについても一人一人がじっくり考える機会にして欲しい。また、授業を通してよい看護とはどのような看護か、よい看護師にはどのような資質が必要かなど、つねに振り返る必要性を考えて欲しい。 授業内容の理解を深めるためには、予習と復習をしっかりと行って欲しい。ニュースを見る、新聞を読む習慣をつけ、社会のニーズや医療・看護問題に関連する情報にも関心を持って欲しい。		
実務経験の内容	医師		

授業要項

専門基礎分野		科目	公衆衛生学	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	3 0 時間	講師名	児島 淳子
科目概要		保健活動の動向及び組織的保健活動を知り、人々の健康を支援する意義と方法を理解する。			
科目目標		1. 人々の健康を保持・増進させるための保健・医療の現状を理解する。 2. 保健活動の動向及び組織的保健活動について理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	公衆衛生の重要性	1. 公衆衛生のテキストから、その重要性に気づく。 2. 「1・2・3次予防」の理解			講話
第 2 回	公衆衛生の特性	1. みんなの健康 2. 公衆衛生とはなにか 3. 日本の職業病対策 4. 日本国憲法のなかの公衆衛生 5. 日本国憲法と世界人権宣言における健康と人権 6. プライマリヘルスケア（PHC） 7. ヘルスプロモーション ①オタワ憲章—健康は手段か			講義
第 3 回	公衆衛生の活動対象 公衆衛生のしくみ	1. 自分の生活と健康に関係する社会集団 2. 看護職の公的責任と活動対象 ①看護職は「みんな」の権利をまもる専門職 ②万国共通の看護職の公的責任 3. 社会集団をとらえる視座 ①ハイリスクとポピュレーションの複眼 4. 地域保健法と政策・施策・事業 5. 医療計画、健康日本 21 6. 国と地方自治体の役割 ①国レベル ②地方自治体レベル ③保健所と保健センター 7. 住民との協働 ①住民組織・自助グループ・サポートグループ ②NP0・民間セクター ③民生委員・母子保健推進員・健康推進員			講義
第 4 回	集団の健康をとらえるための手法	1. 疾患の発生状況を把握する ①有病率 ②罹患率 ③受領率 ④健康障害と母集団 2. 健康状態や医療水準を把握する ①平均余命、平均寿命、健康寿命 ②死亡率 ③死因 3. 健康指標の基礎資料—人口を把握する 4. 集団の健康をとらえるための統計資料 5. 疫学的因果関係			講義

授業要項

		6. エビデンスを使う、つくる	
第 5 回	環境と健康	1. 地球規模の環境と健康 ①地球温暖化 ②オゾン層の破壊 ③水質汚濁 ④大気汚染 ⑤土壌汚染 2. 身のまわりの環境と健康 ①室内環境の安全確保 ②食品の安全確保 ③家庭用品の安全確保 ④ごみ・廃棄物問題 ⑤バリアフリー対策	講義
第 6 回	感染症とその予防策	1. 感染症とその予防の基礎知識 ①感染とその発症 ②感染の成立の3大要因 ③感染症の予防 ④感染症の流行 2. わが国の感染症予防対策 ①感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 ②検疫 ③予防接種 3. 院内感染とその予防 ①院内感染とは ②注意すべき院内感染 ③院内感染対策 4. 公衆衛生上の重要な感染症とその対策 ①新型インフルエンザ ②結核 ③エイズ、HIV 感染症 ④多剤耐性菌 ⑤動物由来感染症 ⑥食中毒	講義
第 7 回	地域における公衆衛生の実践	1. 母子保健 ①日本の母子保健統計の動向 ②日本の母子保健の歩み ③日本の少子化対策 ④母体保護のための母子保健活動 ・妊娠届および母子健康手帳の交付 ・妊産婦保健指導・訪問指導 ⑤育児支援のための母子保健活動 ・乳幼児保健指導・訪問指導 ・乳幼児健康診査 ・育児支援 ⑥児童虐待防止のための母子保健活動 ⑦親性をはぐくむ母子保健活動（思春期含む） ⑧地域の母親によるエンパワーメント	

授業要項

第 8 回	成人保健	1. 成人保健の活動理念 ①疾病予防 ②ヘルスプロモーション 2. 健康づくり対策の変遷 ①健康日本 21（第二次） 3. 健康診断・検診 4. 生活習慣病対策 ①生活習慣病の現状と対策 ②特定健康診査・特定保健指導 5. がん対策 6. 健康教育 7. 家族のライフステージに応じた健康課題と健康づくり	講義
第 9 回	高齢者保健	1. 高齢化の現状と対策 2. 地域包括ケアシステムの構築 ①地域支援事業を活用した新たな事業の創出 3. 高齢者保健の課題 ①小家族化・孤立化対策—単独世帯や夫婦のみの世帯の増加 ②介護予防 ③認知症の人々の支援 ④終末期医療の意思決定支援—アドバンスケアプランニング ⑤介護者の健康、虐待予防 4. 地域コミュニティによる支えとは	講義
第 10 回	精神保健	1. 精神保健の活動理念 2. 地域生活を支えるためのしくみ ①精神の健康に困難を有する人の相談機関 ②地域での生活を支える制度 ③リカバリーを支えるしくみ ・就労支援 3. 精神科医療の動向 4. 自殺予防対策 ①自殺の現状 ②自殺の予防 5. 当事者の力	講義
第 11 回	歯科保健 障害者保健・難病保健	1. 各ライフステージにおける歯科・口腔保健 ①学童期の齲蝕予防 2. 障害・難病とは 3. 障害者保健・難病保健活動に関する法律 4. 障害者保健・難病保健の地域支援システム ①生活支援・療養支援 ②就学支援 ③就労支援 ④ノーマライゼーション ⑤医療支援 ・自立支援医療制度・療養介護医療費の支給 ・難病医療費助成制度	講義

授業要項

第 12 回	学校と健康	1. 学校保健とその構造 ①学校保健とは ②学校保健の対象 ③学校保健の場とそれを担う人々 ④学校保健の構造 ・保健教育 ・保健管理 ・保健組織活動 2. 現代の子どもの健康課題 3. 健康診断 4. 心の問題などのある児童生徒への対応 ①いじめ ②不登校 5. 特別な支援を必要とする子供たち	講義
第 13 回	職場と健康	1. 職場における健康 2. 日本の産業保健関連法令の変遷 3. 労働基準法に基づく労働災害の補償と予防 ①労働災害とその補償 ②労働災害の発生状況と防止対策 4. 労働安全衛生法に基づく職場での健康管理 5. 労働安全衛生法に基づく健康管理の実際 6. 職場の健康管理体制 ①職場の健康管理を担う人々 ②労働衛生管理の 3 管理と 5 領域 ③職場の労働衛生管理体制 7. 産業保健活動の実際 ①一次予防活動 ②二次予防活動 ③三次予防活動 ④個別支援から集団・組織支援活動へ 8. 働き方改革 9. 男女共同参画とワークライフバランス	演習
第 14 回	健康危機管理・災害保健	1. 健康危機管理 2. 災害保健 ①災害の定義 ②災害の種類 ③災害対策に関する制度 ・災害対策の法体系 ・災害時の保健・医療・福祉システム 3. 災害時の保健活動 4. 災害時に特別な配慮を必要とする人々の支援	講義
第 15 回	終講試験・まとめ		筆記試験 講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは公衆衛生学の単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期

授業要項

	専門基礎分野：病理学、臨床薬理学、社会福祉、総合保健医療論、関係法規	1 年後期～ 3 年前期
	専門分野Ⅰ：看護学概論、成人看護学概論、成人保健、老年保健、小児保健、母性保健、精神看護学概論、精神保健、在宅ケアシステム論	1 年後期～ 2 年前期
	看護の統合と実践：看護管理、国際看護、災害看護	3 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生、医学書院.	
受講上のアドバイス	受講生の皆さんは、『公衆衛生』という名前からして難しい科目ではないかと思うのではないのでしょうか。公衆衛生には、病気の人、弱者が、そのハンディキャップにかかわらず、人間としての誇りを持って生きていけるような社会システムにする「よき社会」への理想の扉を開く力があるという公衆衛生の専門家のメッセージがあります。「よき社会」に向かって何を学ぶのか興味を持って欲しいです。国民の健康に関する諸施策、各自治体の住民の健康を守る体制づくり、世界的な感染症リスクや気候変動からの公衆衛生課題について、一緒に学習していきましょう。 難しいかもしれませんが、国家試験にも多く出題される科目です。事前・事後学習も行ってください。	
実務経験の内容	保健師	

授業要項

専門基礎分野		科目	社会福祉	単位数	2 単位
時期	2 年次前期	時間数	3 0 時間	講師名	浜辺 恵里香
科目概要		より良い生活のための社会福祉制度の基本内容を理解し、生活を支える看護の視野を広げ、深める。			
科目目標		1. 社会福祉・社会保障の目的や機能、歴史を理解する。 2. 社会福祉の実践方法・社会資源の活用方法について理解する。 3. 地域包括ケアシステムを理解し、社会生活の中で社会保障や社会資源がどのように活用されているかについて理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	社会福祉と社会保障		1. 「福祉」について考える		グループワーク
第 2 回	現代社会と社会福祉・社会保障 暮らしと社会福祉・社会保障		1. 歴史から見る社会福祉 2. 暮らしと社会福祉との関わり 3. これからの社会福祉 4. 自立支援を支えるためには 5. 地域包括ケアシステム 6. 社会保障の定義 7. 社会保障の目的と機能 8. 社会保障を支えるもの 9. 社会保障の範囲 10. 社会保障の分野		講義
第 3 回	社会福祉サービスの体系と提供組織 社会福祉の担い手 社会資源の活用方法		1. 社会福祉の法体系 2. 社会福祉事業 ①第 1 種社会福祉事業 ②第 2 種社会福祉事業 3. 社会福祉法人とは 4. 社会福祉協議会、都道府県社会福祉協議会、市町村社会福祉協議会 5. 社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員 6. 社会福祉の担い手が活躍する場 7. 社会資源とは 8. 社会資源を利用する意義 9. 社会資源をコーディネートする ①地域連携室設置の背景 ②地域連携室設置の意味 ③地域連携室に求められる役割		講義
第 4 回	ソーシャルワークと多職種連携		1. 福祉の実践方法 ①社会福祉実践の目的 ②社会福祉実践の概念 ③社会福祉実践の構成要素 ④ソーシャルワークの実践モデル ⑤ソーシャルワークの実践方法 2. 院内における連携 3. 院外との連携		講義
第 5 回	対人援助技術		1. 対人援助技術		講義

授業要項

	面接技法演習	①対人支援において必要な支援者のスキル ②対人援助職におけるバイステックの7原則 2. 面接技術 ①コミュニケーションの3つの柱 ②コミュニケーションの種類 ③面接技法	演習
第6回	ライフサイクルと社会福祉	1. 子ども・家庭と福祉 ①児童福祉の歴史 ②子どもの権利条約 ③児童福祉法 ④児童憲章 ⑤子ども・家庭福祉の目標 ⑥子ども・家庭福祉の行政機関 ⑦子ども・家庭福祉の主な専門職 ⑧児童福祉の施設 2. 子育て支援・少子化対策 ①少子化とは ②日本における少子化の原因 ③子育て支援・少子化対策の背景 ④育児休業制度 ⑤育児介護休業法の改正 ⑥子ども・子育て支援新制度 ⑦ワークライフバランス 3. 児童虐待 ①児童虐待の定義 ②児童虐待防止法 4. 母子保健に対する施策 ①母子保健法 ②母子保健施策 ③健康診査 ④訪問指導 ⑤保健・医療 5. 新たな課題に対する施策 ①DV・・・配偶者暴力防止法 ②引きこもり・・・子ども・若者育成支援推進法	講義
第7回	ライフサイクルと社会福祉	1. 障害児・者と福祉 ①障害者施策（戦前から現在） ②障害者『自立』支援法から障害者『総合』支援法へ ③障害者の定義・障害者手帳 ④障害者雇用・・・障害者雇用促進法 ⑤障害者の就労支援サービス概要 ⑥障害者と権利擁護・・・障害者虐待防止法、障害者差別解消法 2. 難病について ①難病の定義 ②難病の患者に対する医療等に関する法律 ③難病に係る医療費助成の制度	

授業要項

		④医療費助成の流れ ⑤難病対策の改革に向けた取組について	
第 8 回	ライフサイクルと社会福祉	1. 高齢者と福祉 ①高齢者保健福祉制度の発展 ②老人保健福祉施策・・・老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法 ③市町村、都道府県老人福祉計画 ④高齢者の医療の確保に関する法律 ⑤地域包括支援センター 2. 高齢者を支える支援 ①認知症を支える支援 ②高齢者虐待について・・・高齢者虐待防止法 ③日常生活自立支援事業 ④成年後見制度	講義
第 9 回	介護保険制度を理解する	1. 介護保険制度の創設前の老人福祉・老人医療政策の経緯 2. 今後の介護保険をとりまく状況 3. 介護保険制度の理念 4. 介護保険制度の運営 5. 介護保険加入者：第 1 被保険者、第 2 被保険者 6. 申請から利用まで 7. 在宅で利用するサービス 8. 介護予防・日常生活支援総合事業 9. 介護保険のキーマン：ケアマネージャー	講義
第 10 回	日本の公的扶助について 生活保護 低所得者対策	1. 公的扶助制度 2. 日本の公的扶助の歴史（戦前から現在） 3. 生活保護 ①生活保護の基本原則 ②生活保護の権利および義務 ③保護の種類 ④生活保護受給までの流れ ⑤保護施設について 4. 低所得者層対策 ①生活困窮者対策・・・生活困窮者自立支援法 無料定額診療事業	講義
第 11 回	医療保険制度	1. 医療保険制度と医療提供体制 2. 医療保険制度 ①医療保険制度の概念 ②医療保険制度の沿革 ③医療保険制度（75 歳未満、75 歳以上） ④保険給付 ⑤医療給付 ⑥給付の種類 3. 医療提供体制 ①医療提供施設 4. 後期高齢者医療制度	
第 12 回	年金制度	1. 年金制度 ①日本の公的年金制度	講義

授業要項

	雇用保険制度 労働災害保険	②公的年金制度の沿革 ③公的年金制度の仕組み ④公的年金制度の特徴 ⑤公的年金の給付の種類 ⑥第1号被保険者に対する独自給付 ⑥年金基金 ⑦年金機能強化法 2. 雇用保険制度 ①雇用保険の目的・適用 ②雇用保険制度の概要 3. 労働保険制度 ①労働者災害補償保険 ②保険者と適用事業 ③労災保険給付の種類 ④社会復帰促進等事業	
第13回	演習	1. 物語を正確に伝える 2. ニーズを探る	演習
第14回	鹿児島県における地域包括ケアシステム構築について 在宅支援・退院支援について	1. 鹿児島の高齢化の現状・特徴 2. 鹿児島県の介護保険事業状況 3. 地域包括ケアシステムとは 4. 地域支援事業 5. 地域包括ケアシステム構築の推進するために『看護職への期待』 6. 在宅医療の流れ 7. 『退院』の捉え方 8. 退院支援が必要とされる背景 9. 退院支援が必要な患者 10. 退院支援が必要な患者 11. 退院困難な要因 12. 退院支援のポイント	講義
第15回	終講試験・まとめ		筆記試験 講義
単位認定の方法		1. 30時間中20時間以上の出席があること 2. 筆記試験100点満点、60点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは社会福祉の単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		専門基礎分野：病理学、公衆衛生、総合保健医療論、関係法規	1年後期
		専門分野Ⅰ：看護学概論、成人看護学概論、成人保健、老年保健、小児保健、母性保健、精神看護学概論、精神保健、在宅ケアシステム論	1年後期～ 2年前期
		看護の統合と実践：看護管理	3年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉、医学書院。	
受講上のアドバイス		1人の人間というトータルな存在である利用者のために、保健、医療、福祉サービスの連携が重要である。看護師が病気ではなく、病人をみるためには、社会福祉の	

授業要項

	基本的事項を踏まえ、社会保障制度、社会福祉制度及び社会保険制度について理解が必須である。事前・事後学習を必ず行い、新聞やニュース等での社会保障・社会福祉に関連する報道に関心を持って欲しい。また、学生自身、家族等の生活と社会福祉のつながりにも目を向けて欲しい。
実務経験の内容	看護師・医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）として実務にあたっている

授業要項

専門基礎分野		科目	関係法規	単位数	1 単位
時期	3 年次前期	時間数	1 5 時間	講師名	二石 祐太
科目概要		人間が生活するために必要な法令について学び、看護の義務と責任を理解する。			
科目目標		1. 健康と環境に関連した法令の概念を学び、看護に必要な法規について理解する。 2. 看護師としての義務と責任について理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	法の概念 看護法		1. 法の概念 2. 衛生法 3. 厚生行政のしくみ 4. 保健師助産師看護師法 ・目的、定義、業務、研修、医療過誤		講義
第 2 回	看護法 医事法		1. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 2. 医療法		講義
第 3 回	医事法		1. 医療関係資格法 2. 保健医療福祉資格法		講義
第 4 回	保健衛生法		1. 共通保健法 ①地域保健法 ②健康増進法 2. 分野別保健法 ①精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ②母子保健法 ③母体保護法 ④学校保健安全法 ⑤がん対策基本法 ⑥肝炎対策基本法 ⑦自殺対策基本法 ⑧アルコール健康障害対策基本法 ⑨難病の患者に対する医療等に関する法律 3. 感染症に関する法 ①感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 ②新型インフルエンザ等対策特別措置法 ③予防接種法 4. 食品に関する法		講義
第 5 回	薬務法 環境衛生法 環境法		1. 薬事一般に関する法律 2. 麻薬・毒物等 3. 環境整備 ①水道法 ②下水道法 4. 環境保全の基本法 ①環境基本法 ②地球温暖化対策の推進に関する法律 5. 公害防止の法 ①大気汚染防止法		講義

授業要項

		②水質汚濁防止法 ③土壌汚染対策法 ④廃棄物の処理及び清掃に関する法律	
第 6 回	労働法と社会基盤整備 社会保険法	1. 労働法 ①労働基準法 ②労働安全衛生法 ③労働者災害補償保険法 ④雇用保険法 ⑤育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 ⑥適正な労働の確保に関する法 2. 社会基盤整備など ①ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の総合的かつ一体的な推進に関する法律 ②配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 ③行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律 3. 費用保障 ①健康保険法 ②国民健康保険法 ③高齢者の医療の確保に関する法律	講義
第 7 回	社会保険法 福祉法	1. 介護保険法 2. 年金 3. 手当 4. 福祉の基盤 ①社会福祉法 ②生活保護法 ③民生委員法 5. 児童分野 ①児童福祉法 ②子ども・子育て支援法 ③児童虐待の防止等に関する法律 6. 高齢分野 ①老人福祉法 ②高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律 7. 障害分野 ①障害者基本法 ②障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 ③障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 ④障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律 ⑤身体障害者福祉法 ⑥知的障害者福祉法 ⑦発達障害者支援法	講義

授業要項

	筆記試験		試験
単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは関係法規の単位を取得できる		
関連科目	関連科目		履修時期
	専門基礎分野：臨床薬理学、微生物学、公衆衛生、社会福祉、総合保健医療論		1 年後期
	専門分野Ⅰ：看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、成人保健、老年看護学概論、老年保健、母性保健、小児保健、精神看護学概論、精神保健、在宅ケアシステム論		1 年前期～ 2 年前期
	看護の統合と実践：看護管理		3 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令、医学書院.		
受講上のアドバイス	看護に携わる者は、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために、看護関係法令の理解が必要である。この授業では、看護の仕事が、実は様々な法律によって規定されていることを学ぶ。また、保健医療に関する法規や制度の理解を通して、看護師の責任と義務について学ぶ。授業回数が少なく、法令はたくさんあるため 1 回の授業の情報量は多くなる。よって理解を深めるためには、予習と復習をしっかりと行って欲しい。ニュースを見る、新聞を読む習慣をつけ、医療と法律に関連する情報にも関心を持って欲しい。		
実務経験の内容	弁護士		

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	看護学概論	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	30 時間	講師名	大保 まり子
科目概要		看護を志した人たちが、初めて看護とは、看護師とはと考え学ぶ科目であり、看護の基本的な考え方にふれる中で、自分なりの看護を創造していく基礎となる科目である。学習を通して「人に関心を寄せる力」「自主的に思考し学習する力」「考えを他者と共有する力」を養い、責任感や倫理観を持ちチームで協働できる看護職者を目指す基礎的科目である。			
科目目標		1. 看護の意義と役割について考える 2. 看護する上で人に関心を寄せることの重要性を理解する 3. 看護の対象である人間の特性を理解する 4. 看護における倫理の重要性と法的側面を理解する 5. 環境や社会とともに変化する看護の役割と多職種との連携・協働の必要性について理解する 6. 看護理論をふまえ、科学的看護を探究する姿勢を養う 7. 自ら学び続ける看護職者をめざす			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	看護の意義と役割 ケアリングとは	◆ 看護の意義 ◆ 看護の本質 ◆ ケアリング ◆ 看護するもの、されるもの ◆ 看護の変遷と看護の役割 ◆ 看護を学ぶものとして目指したい姿			講義
第 2 回	質の高い看護とは	◆ 看護の質を保証するもの ◆ 芸術としての看護 ◆ 個別的看護 ◆ 安全性と安楽性 ◆ 対象者の自立の促進 ◆ 倫理的配慮とプライバシー保護 ◆ クリティカルシンキング ◆ 科学的根拠を追及する姿勢 ◆ 患者・家族への説明と助言 ◆ 看護師の自己研鑽			資料、事例 事前配布
第 3 回	看護の対象	◆ 看護の対象 家族・集団・地域 人間の「こころ」と「からだ」 マズローの発達段階 患者心理（病気による心の変化） 生涯発達し続ける存在 生活者としての人間 ◆ あなたの大切な人は誰ですか？			講義
第 4 回	健康とは	◆ 健康とは何か ◆ 健康でない状態とは ◆ 障害とは ◆ 健康と環境 ◆ 健康の増進と病気の予防			講義

授業要項

		日本国民の健康状態と社会	
第 5 回	ナイチンゲールの看護の考え方	- ナイチンゲール「看護覚書」から看護を考える 生命の消耗を最小にする 観察の重要性と環境の調整 - ナイチンゲールの「三重の関心」の意味 「ある達人ナースの事例から」 - 対象に関心を寄せるとは	協働学習 発表 講義
第 6 回	ヴァージニアヘンダーソンの看護の基本となるもの 看護の独自の機能とは	- 看護の独自の機能とは - 看護の専門性とは 科学的根拠に基づくその人の幸福「快」の追求 - 看護の魅力、看護は実践するもの - 看護するものと看護されるもの - 相互関係	協働学習 発表 講義
第 7 回	看護の目的と基本的責務	- 看護の目的 - 看護の使命 - 看護者の基本的責務	講義
第 8 回	看護理論とは	- 理論家の看護の捉え方 - 人間関係論的な看護理論 - 対象論的な看護理論 - 働きかけの看護理論 - 看護理論の意義 - 看護を探究するということ - 看護研究の考え方、理論の活用	事前に動画を 視聴 協同学習 発表
第 9 回	立場が違うから起きること ジレンマ 看護倫理（１）	- 患者の立場、看護師の立場から物事を考え、見ているものが違うからこそおきるジレンマについて考える “看護におけるリフレクションとは” 内省	協同学習
第 10 回	看護倫理とは	- 看護における倫理とは - 看護における倫理と価値 - 看護倫理原則・倫理綱領をもとに事例を考える	講義 協同学習
第 11 回	社会が求める看護	- 社会が求める看護 - サービスとしての看護 - 少子化、超高齢社会における看護 - 様々な看護実践の場 - 保健・医療・福祉の概念 - 継続看護とチーム医療 - 看護における法的側面	講義
第 12 回	私が育った地域	- 自分が育った地域はどんなところ？ 20 年後、30 年後地域はどんなところで会ってほしい？「願い」 - 地域の意義 - プロジェクト学習のねらい - プロジェクト学習とは	講義 協同学習
	夏季課題	夏季課題：慈愛の心プロジェクト	
第 13 回 第 14 回	私の育った地域プロジェクト発表	- プロジェクトの成果発表会 - 自分の目指す看護	発表 意見交換

授業要項

第 15 回	終講試験 まとめ		
単位認定の方法	1. 30 時間中 24 時間以上の出席があること 2. 学習者としての責務であるグループ学習や演習への参加・協働する姿勢や課題取り組み状況、提出状況等も評価の対象とする。 3. 合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 4. 上記の条件を満たしたものは看護学概論の単位を取得できる		
関連科目	関連科目		履修時期
	これからの全科目		
事前・事後学習	授業に臨む前に指示されたテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「1」、「看護学概論」、医学書院 系統看護学講座 別巻「看護倫理」、医学書院 看護覚え書—看護であること看護でないこと—、現代社 看護の基本となるもの、日本看護協会出版会		
受講上のアドバイス	この科目はその後のすべての科目に関連し、看護者として基盤となります。看護の対象となる人々は一人として同じ人がいないからこそ多様な考えを受けとめ、正解といえるものがない看護について深く探求する学習者としての姿勢が重要になります。 積極的に学習に参加し、クラスメイトと学ぶ風土を醸成していく姿勢を養うことで3年間の看護学校生活の基盤を作っていきます。		
実務経験の内容	看護師（救命救急センター、訪問看護、腎臓内科等）、 専任教員（在宅看護論、基礎看護学他）		

授業要項

専門分野Ⅰ		科目	看護研究Ⅰ	単位数	1 単位
時期	3 年次前期	時間数	3 0 時間	講師名	松山日実子
科目概要		看護実践における看護研究の必要性や方法を理解し、看護の専門性や独自性を追求する姿勢を養う。			
科目目標		1. 看護実践における研究の意義、方法を理解する。 2. 看護研究におけるプロセスを理解する。 3. 看護の専門性、独自性を追求する姿勢を養う。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	看護実践における研究の意義		・ 看護研究とは ・ 看護研究の流れ ・ 看護研究の意義	講義	
第 2 回	研究デザインの種類と選択		・ 量的研究、質的研究 ・ リサーチクエスション	講義	
第 3 回	研究のプロセス		・ テーマ決定のプロセス	講義/演習	
第 4 回	研究のプロセス		・ 研究計画書の書き方	講義/演習	
第 5 回	研究のプロセス		・ Web 検索の実際 ・ 研究の倫理的配慮	講義/演習	
第 6 回	文献検索の意義と実際		・ テーマ決定シートで仮のテーマを決定 ・ 文献検索	講義/演習	
第 7 回	論文のクリティーク		・ 論文クリティークの方法 ・ グループクリティーク	講義/演習	
第 8 回	倫理審査と論文の公表		・ 学会発表の意義 ・ スライド発表時の注意点	講義	
第 9 回	プレゼンテーションの実際		・ 自己の研究内容（ケーススタディ）のクリティーク	講義/演習	
第 10 回	プレゼンテーションの実際		・ プレゼンテーション用パワーポイントの作成	演習	
第 11 回	研究に必要な論理的思考と表現力		・ プレゼンテーション用パワーポイントの作成	演習	
第 12 回	研究に必要な論理的思考と表現力		・ パワーポイントを使っでのグループでの効果的なプレゼンの在り方をディスカッション。 ・ グループ発表	演習	
第 13 回	研究に必要な論理的思考と表現力			演習	
第 14 回	研究に必要な論理的思考と表現力		・ プレゼン後のグループでの自己評価・他者評価	演習	
第 15 回	終講試験、まとめ		終講試験後　まとめ	講義	
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 課題（プレゼンテーション用スライド）50 点、筆記試験 50 点、で合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは看護研究Ⅰの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野：情報科学、論理的思考の基礎			1 年前期

授業要項

	専門分野Ⅰ：看護研究Ⅱ	3年前後半
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	看護研究 医学書院. やさしく学ぶ看護理論、日総研.	
受講上のアドバイス	この授業は、看護実践における看護研究の必要性や方法を理解し、看護の専門性や独自性を追求する姿勢を養うための授業です。看護研究Ⅱでの実習での学びを再考察するケーススタディにつなげる授業でもあります。看護師として必要な研究的視点を学ぶ重要な授業ですので、一つ一つの課題に真剣に取り組んでください。	
実務経験の内容	看護師、専任教員 平成29年 看護学校協議会 研究発表	

授業要項

専門分野Ⅰ		科目	看護研究Ⅱ	単位数	1 単位
時期	3 年前後期	時間数	3 0 時間	講師名	高山理恵
科目概要		実際の実習での学びを再考察することで、看護の探究者としての姿勢と実践力を養う。			
科目目標		1. 看護実践をケーススタディとしてまとめ研究的姿勢を培う。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	ケーススタディとは	・ ケーススタディの意義 ・ 対象の権利と保護			講義
第 2 回	ケーススタディの進め方	・ ケーススタディの一連の過程 ・ 実習中の進め方 ・ 対象の選定と方法			講義
第 3 回	看護について考える	・ 2 年次の実習の学び ・ 看護を語り、看護観を共有する			GW
第 4 回	ケーススタディのまとめ方	・ ケーススタディの構成 ・ 論文のまとめ方、書き方			講義/演習
第 5 回	研究計画書の作成	・ テーマの決定 ・ 研究計画書の作成			講義/演習
第 6 回	研究計画書の作成	・ 研究計画書の作成			演習
第 7 回	再考察	・ 再考察の視点 ・ 発表までのスケジュール、役割分担			講義/演習
第 8 回	再考察	・ 再考察			講義/演習
第 9 回	発表準備	・ レポート仕上げ、自己評価 ・ 校正、印刷、発表原稿作成			演習
第 10 回	発表準備	・ ケーススタディ発表と評価			講義
第 11 回	発表準備	・ ケーススタディ発表練習			演習
第 12 回	ケーススタディ発表	・ 発表			
第 13 回	ケーススタディ発表	・ 発表			
第 14 回	ケーススタディ発表	・ 発表			
第 15 回	まとめ	まとめ			講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 課題（ケーススタディ）の規定した形式での提出 60 点、発表の内容、姿勢 30 点、課題達成に向けた取り組み 10 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは看護研究Ⅱの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野：情報科学、論理的思考の基礎			1 年前期
		専門分野Ⅰ：看護研究Ⅰ			3 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		看護研究、医学書院。 わかりやすいケーススタディの進め方、照林社。			
受講上のアドバイス		実習で受け持たせて頂いた患者さんの看護を振り返り、個々の事例と丁寧に向			

授業要項

	き合い、詳細に検討するケーススタディを通して看護などの研究や実践の仕方を学びましょう。
実務経験の内容	看護師、専任教員

授業要項

専門分野Ⅰ		科目	基礎看護技術Ⅰ（技術概論・安全・記録報告・感染防止）	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	30 時間	講師名	大磯 陽子
科目概要		看護場面に共通する科学的根拠に基づいた基本的技術を習得し、看護を実践できる基礎的能力を養う科目として位置付けている。			
科目目標		1. 看護技術の概念を理解する。 2. 看護における安全に対する理解を深める。 3. 感染防止の技術について科学的根拠に基づいた技術を習得する。 4. 記録・報告の必要性を理解する。 5. 人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術について科学的根拠に基づいた技術を習得する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	看護における安全の技術		◆ 看護技術における安全・安楽 ◆ 安全確保の基礎知識 ◆ 医療安全確保：医療安全文化の醸成 ◆ ハインリッヒの法則、スイスチーズモデル ◆ インシデントレポート・アクシデントレポート		講義
第 2 回	感染防止における看護師の責務と役割		◆ 感染とは ◆ 感染防止対策の基礎的知識（スタンダードプリコーション）		講義
第 3 回	感染防止の技術①		◆ 手洗い ◆ 感染防護用具の取り扱い		演習
第 4 回	感染防止の技術①		◆ 手洗い ◆ 感染防護用具の取り扱い		演習
第 5 回	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程		◆ 看護・医療におけるコミュニケーションの目的 ◆ 看護・医療におけるコミュニケーションの特徴 ◆ 看護・医療におけるコミュニケーションの重要性 ◆ 構成要素と成立過程 ◆ ミスコミュニケーション		講義
第 6 回	関係構築のためのコミュニケーションの基本		◆ 接近的コミュニケーション ◆ 接近的行動と非接近的行動		講義
第 7 回	効果的なコミュニケーションの実際		◆ 看護における傾聴 ◆ 情報収集の技術 ◆ 説明の技術 ◆ アサーティブネス ◆ コミュニケーション障害がある人の特徴		講義
第 8 回	看護現場の事故と対策		◆ 看護現場で起こりやすい事故 ◆ 安全を脅かす要因 ◆ KYT（危険予知）トレーニング ◆ 実習中に起こりやすい事故		講義
第 9 回	看護における記録の意義		◆ 看護記録の法的位置づけ ◆ 看護記録に含まれる内容 ◆ 記録の書き方の基本、看護記録の種類		講義

授業要項

第 10 回	看護における報告の意義	- 報告の目的 - SBAR を用いた報告	講義/演習
第 11 回	プロセスレコードの意義と方法	プロセスレコードとは	講義/演習
第 12 回	感染経路別防止策	- 感染経路別防止策 - 滅菌法、消毒法、洗浄法	講義 演習
第 13 回	感染防止の技術②	滅菌用品の取り扱い、滅菌手袋の装着、ガウンテクニック	演習
第 14 回	感染防止の技術②	滅菌用品の取り扱い、滅菌手袋の装着、ガウンテクニック	演習
第 15 回	終講試験 (100 点) 50 分 まとめ		筆記試験 講義
単位認定の方法		1. 基礎看護技術 I の 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点中 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術 I の単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		基礎分野：コミュニケーション論	1 年前期
		専門分野 I：基礎看護技術 II、III、IV	1 年前期
		専門分野 I：臨床看護論 I、II	1 年後期
		専門分野 I：臨床看護論 III、看護過程の基礎	2 年前期
		専門分野 II：老年看護学方法論 I	2 年前期
		専門分野 II：成人看護学方法論 IV「脳神経系疾患看護」、 精神看護学方法論 I	2 年後期
		統合分野：医療安全	3 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I II、医学書院.	
受講上のアドバイス		この授業は、看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。従って、1 年次前期から学習し、各技術につなげていきます。特に看護技術を提供する上で感染防止も含めた安全の確保は重要です。また、この講義では、看護師として知っておかなければならない「看護記録」の意義/種類・書き方についても学んでいきます。これから実習で経験する「実習記録」にも共通する内容です。また、コミュニケーション技術は、看護師に必要な人間関係を成立させるための重要な学習ですので積極的に学んでいきましょう	
実務経験の内容		看護師、専任教員、基礎看護学担当	

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	基礎看護技術Ⅱ ～フィジカルアセスメント～	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	30 時間	講師名	市成加代子
科目概要		医療の場における看護師の判断力は強く求められており、その基礎となるフィジカルアセスメント技術を習得し、看護の観察力と判断力の基礎的能力を養う。			
科目目標		1. 症状や訴えから対象の状態をアセスメントし、観察する内容を理解できる 2. 対象の症状や訴えから看護の判断の必要性を理解できる 3. バイタルサインの意義と必要性を理解し、確実なバイタルサイン測定の技術を習得できる。 4. 身体計測の意義と方法を理解し、他者の計測ができる。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第1回	ヘルスアセスメント		◆ フィジカルアセスメントの目的・意義 ◆ 観察に関する基礎知識 ◆ 主観的情報である症状（徴候）から解釈できる事		講義
第2回	ヘルスアセスメント		◆ フィジカルアセスメントに必要な技術（視診、触診、聴診、打診） ◆ バイタルサインの意味とアセスメント		講義
第3回	全身の観察		◆ バイタルサインの観察とアセスメント ◆ 体温測定とアセスメント		講義
第4回	脈拍測定とアセスメント		◆ 脈拍測定方法 ◆ 脈拍のアセスメント		講義
第5回	呼吸測定とアセスメント		◆ 呼吸測定方法 ◆ 呼吸のアセスメント		講義
第6回	血圧測定とアセスメント		◆ 血圧測定方法 ◆ 血圧のアセスメント ◆ 経過一覧表（フローシート）の記録の実際		講義
第7回	胸部・腹部の観察とアセスメント		◆ 胸部・腹部の視診・聴診の方法 ◆ 胸部・腹部のフィジカルアセスメント ◆ モデルでの聴診		講義 演習
第8回					演習
第9回	バイタルサイン測定		臥床患者のバイタル測定		演習
第10回					演習
第11回					演習
第12回	循環器のフィジカルアセスメント		循環器のフィジカルイグザミネーション		講義
第13回	循環器のフィジカルアセスメント		循環器のフィジカルアセスメント		講義
第14回	筋・骨格のアセスメント		◆ 筋・骨格のフィジカルイグザミネーション ◆ 筋・骨格のアセスメント		講義

授業要項

第 15 回	神経系アセスメント	- 神経系のフィジカルイグザミネーションと - 神経系のフィジカルアセスメント	講義
単位認定の方法	1. 基礎看護技術Ⅱの「フィジカルアセスメント」の単元 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験「フィジカルアセスメント」合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅱの単位を取得できる		
関連科目	関連科目		履修時期
	看護過程「看護過程の展開」「記録の実際」		2 年前期
	母性看護学方法論Ⅱ「新生児のフィジカルアセスメント」		2 年後期
	小児看護学方法論Ⅱ「小児のフィジカルアセスメント」		2 年後期
	統合看護技術Ⅱ「複数の事例のアセスメントと一日の看護計画」		3 年後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「2」基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 フィジカルアセスメントガイドブック，医学書院。 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院。		
受講上のアドバイス	1. 学生同士でフィジカルアセスメント技術を用いて演習する。 2. 学生同士でバイタルサイン測定を行い、測定技術を習得する。 3. 夏季休暇の課題で異年齢の人達（家族や友人）のバイタルサイン測定を行い、年齢や状態によるバイタルサインの値の変化や特徴を理解し、アセスメントする際の知識を広げ、確実な技術習得とする。 4. フィジカルアセスメントモデルを用いて、聴診、対光反射の観察、異常呼吸音の聴取を行う。 5. バイタルサインの演習後は基礎実習 1－2 までに、教員へ技術の確認をしてもらうこと。		
実務経験の内容	看護師、専任教員		

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	基礎看護技術Ⅲ ～生活環境調整技術～	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	1 4 / 3 0 時間	講師名	高山理恵
科目概要		看護場面に共通する科学的根拠に基づいた基本的技術を習得し、発達段階や健康の段階を問わず看護を実践できる基礎的能力を養う			
科目目標		1. 科学的根拠に基づいた環境を整える技術を習得する			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	病室の環境に関する基礎知識	- 病室の環境とは - リネンの名称 - ベッドの種類・機能			講義
第 2 回	病室の環境と患者への影響	病室の環境がどのように患者へ影響するか考察			シミュレーション
第 3 回	病室の環境と患者への影響	病室の環境がどのように患者へ影響するか考察			シミュレーション
第 4 回	ベッドメイキング	- リネンのたたみ方 - ベッドメイキングの方法 - 臨床患者のシーツ交換			講義
第 5 回	ベッドメイキング	ベッドメイキング			演習
第 6 回	ベッドメイキング	ベッドメイキング			演習
第 7 回	病室・病床環境のアセスメントと整備・調整	- 環境とは（外部環境・内部環境、及ぼす影響 - 療養生活における快適な環境条件 - 環境を整えることの看護的意味 - 環境整備			講義
単位認定の方法		1. 基礎看護技術Ⅲの「活動・休息援助技術」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 「生活環境調整技術」40 点、「活動・休息援助技術」60 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅲの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅳ			1 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学「3」 医学書院. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.			
受講上のアドバイス		人間は、環境から多くに影響を受けながら生活を営んでいます。療養生活を余儀なくされた対象にとっての環境は、病床環境です。この授業では、対象が快適な日常生活を過ごすことができるよう、病床環境を適切に整えるための援助方法を学びます。看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。しっかり学んでいきましょう。 確実に習得していきましょう。そのために下記の点を実行していきます。 1. 「ベッドメイキングの技術」は演習で実施の後、自己演習を重ね技術の確認を教員にしてもらう。			

授業要項

	2.「臥床患者のシーツ交換」技術については、デモンストレーション見学の後、必ず自己練習する。
実務経験の内容	看護師、専任教員

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	基礎看護技術Ⅲ ～活動・休息援助技術～	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	1 6 / 3 0 時間	講師名	松村治子
科目概要		看護場面に共通する科学的根拠に基づいた基本的技術を習得し、発達段階や健康の段階を問わず看護を実践できる基礎的能力を養う。			
科目目標		1. 科学的根拠に基づいた活動・休息援助技術を習得する			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	効率的で安全・安楽な動きを作り出す技術		- 活動・運動の意義と能力のアセスメント - 良い姿勢とボディメカニクス	講義	
第 2 回			- 体位と移動 (安全・安楽な体位, 体位変換, 床上移動) - 安静に伴うリスク (廃用症候群)	講義	
第 3 回	活動・運動の援助技術		- 車椅子・輸送車への移動・移送 - ポータブルトイレへの移動	講義	
第 4 回	休息とは		- 睡眠・休息の基礎知識 - 睡眠障害のアセスメント - 睡眠・休息の援助	講義	
第 5 回					
第 6 回	ボディメカニクス 姿勢・体位の援助 移乗・移送援助		ボディメカニクス 安楽な体位 (良肢位, 床上移動) 移乗・移送 (車椅子・ストレッチャー)	デモスト 演習	
第 7 回					
第 8 回					
単位認定の方法		1. 基礎看護技術Ⅲの「生活環境調整技術」の単位と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 「生活環境調整技術」40 点、「活動・休息援助技術」60 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅲの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		成人看護学Ⅳ「運動機能障害を持つ患者の看護 運動機能障害がもたらす生活への影響」			1 年生前期
		老年看護学方法論Ⅰ「高齢者の生活を支える看護 基本動作 休息・睡眠の援助」「ポジショニング」			2 年生前期
		老年看護学方法論Ⅰ 特別講義 理学療法「ROM の理解」「良肢位」「半身麻痺のある患者の移乗動作」「装具, 杖歩行, 階段昇降」			2 年生前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学「3」 医学書院. 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社			
受講上のアドバイス		この授業は、看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。従って、1 年次前期から学習し、各技術につなげていきます。姿勢の保持、運動、日常の諸			

授業要項

	活動が心身にもたらす影響を学習し、疾病や治療などにより制限された対象に対する援助方法・休息と睡眠に関する援助方法を学びます。看護を行っていく上でも対象の安全に関わる重要な看護技術です。確実に技術習得していきましょう。
実務経験の内容	看護師、専任教員

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	基礎看護技術Ⅳ ～清潔、衣生活援助技術～ ～食生活援助技術～	単位数	1 単位
時期	1 年次前期 後期	時間数	30 時間	講師名	飯田かずよ 田畑真実
科目概要		看護場面に共通する科学的根拠に基づいた基本的技術を習得し、発達段階や健康の段階を問わず看護を実践できる基礎的能力を養う。			
科目目標		1. 科学的根拠に基づいた衣、清潔援助技術を習得する 2. 科学的根拠に基づいた食生活援助技術を習得する			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	清潔援助・衣生活の基礎知識		- 身体清潔の意義と目的 - 衣生活に関するニーズのアセスメント	講義	
第 2 回	全身清拭の意義効果・目的・具体的方法		- 援助の基礎知識 - 援助の実際（実施方法、看護のポイント、留意点）	講義	
第 3 回	} 臥床患者の全身清拭・寝衣交換の実施		} 臥床患者の全身清拭・寝衣交換のデモンストレーションと実施		
第 4 回				デモスト 演習	
第 5 回					
第 6 回	手浴・足浴の意義効果・目的・具体的方法		- 援助の基礎知識 - 援助の実際（実施方法、看護のポイント、留意点）	講義 デモスト	
第 7 回	洗髪の意義効果・目的・具体的方法		- 援助の基礎知識 - 援助の実際（実施方法、看護のポイント、留意点）	講義	
第 8 回	} 臥床患者の洗髪の実施		} 臥床患者の洗髪のデモンストレーションと実施		
第 9 回				デモスト 演習	
第 10 回					
第 11 回	食事援助の基礎知識		- 栄養素、食の意義 - 食事に関する生理的メカニズム - 栄養・食行動に関するアセスメント （栄養所要量、BMI、血液データ、食欲中枢、摂食・嚥下能力） - 疾病の食事（治療食・食事形態） - 非経口的栄養摂取法 （経管栄養法と中心静脈栄養法の特徴、看護）	講義	
第 12 回	食事摂取の介助と口腔ケア		- 食事と栄養に関する基礎知識 - 臥床患者の食事介助の実際 DVD 視聴 （実施方法、看護のポイント、留意点） - 視力障害のある患者の食事介助の実際 （実施方法、看護のポイント、留意点） - 口腔ケアの実際 （実施方法、看護のポイント、留意点）	講義 DVD	

授業要項

第 13 回			
第 14 回	臥床患者の食事介助と口腔ケアの実施	臥床患者の食事介助と口腔ケア（含嗽）の実施	演習
第 15 回			
単位認定の方法		1. 基礎看護技術Ⅳの「食生活援助技術」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 「清潔, 衣生活援助技術」60 点、「食生活援助技術」40 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは基礎看護技術Ⅳの単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		老年期「高齢者の生活支える看護 清潔の援助」	2 年前期
		栄養学 「栄養所要量と摂取量」「食事と栄養のアセスメント」「食事療法の意義と実際」	1 年前期
		成人看護学方法論Ⅲ「栄養代謝機能障害を持つ対象の看護 低蛋白血症」	2 年前期
		成人看護学方法論Ⅴ「造血機能障害を持つ対象の看護 貧血のアセスメント」	2 年後期
		老年看護学方法論Ⅰ「高齢者の生活を支える看護 清潔, 食事援助」	2 年前期
		特別講義言語療法「摂食嚥下障害の基礎」「摂食嚥下リハビリテーション」	2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学「3」 医学書院. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.	
受講上のアドバイス		身体を清潔にすることは、皮膚の生理機能を円滑にするとともに、気分を爽快にして日常生活を過ごすための大切な生活行動です。その生活行動が自ら営めなくなると生体や精神に大きな影響を及ぼします。 この授業では、対象の状態に合わせた清潔に関する基本的援助技術を学びます。食事は生命を維持し、健康を保つ上で不可欠なものです。この授業では、食事の意義や食事を摂取する機能の障害が対象に及ぼす影響を理解するとともに、それぞれの対象に適した食事介助の方法を習得します。看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術であり、対象の基本的欲求を充足させる大切な援助技術です。確実に習得していきましょう。そのために下記の点を実行していきます。 1. 「全身清拭・寝衣交換の技術」と「洗髪の技術」では演習で実施の後、自己演習を重ね技術の確認を教員してもらう。 2. 「手浴・足浴」については、デモンストレーション見学の後、必ず自己練習をする。	
実務経験の内容		看護師、専任教員	

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	臨床看護論Ⅰ ～呼吸・循環の維持に関する技術～	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	18 / 30 時間	講師名	蒲地恵美
科目概要		診療補助に関する技術は、看護業務の重要な位置づけである。臨床での実践力に対応するために、根拠をもった技術習得を目指す。			
科目目標		1. 呼吸・循環を正常に維持するため、科学的根拠に基づく安全で効果的な援助技術を習得する。 2. 出血時の対処方法を知り、止血のための科学的根拠に基づいた援助技術を習得する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	呼吸維持に関する基礎知識	呼吸障害の及ぼす影響, 主な症状, アセスメント			講義
第 2 回	呼吸障害を改善させるための看護	呼吸障害の改善 ネブライザー 酸素療法（中央配管・酸素ボンベの取り扱いを含む） 口腔内吸引 気管内吸引			講義
第 3 回	呼吸障害を改善させるための看護	ネブライザー（デモスト） 酸素療法（中央配管・酸素ボンベの取り扱いを含む）（デモスト） 気管内吸引（デモスト）			デモスト
第 4 回	口腔・鼻腔内吸引の実技①	酸素療法と口腔・鼻腔内吸引の実技			演習
第 5 回	口腔・鼻腔内吸引の実技②				演習
第 6 回	循環維持に関する基礎知識と循環障害を改善させるための看護	循環障害の及ぼす影響, 主な症状, アセスメント 浮腫のアセスメントと看護			講義
第 7 回	循環維持に関する基礎知識と循環障害を改善させるための看護	発熱のアセスメントと看護 罨法（冷罨法・温罨法の技術）			講義
第 8 回	罨法法のデモスト	氷嚢・氷枕・湯たんぽ・温湿布のデモスト			デモスト
第 9 回	救命救急処置に関する技術と止血法	一次救命処置・二次救命処置・止血法 救急法（ABC）、			講義
単位認定の方法		1. 臨床看護総論Ⅰの「排泄の維持に関する援助技術」「呼吸・循環の維持に関する技術」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 「排泄の維持に関する援助技術」50 点、「呼吸・循環の維持に関する技術」50 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは臨床看護総論Ⅰの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理学「呼吸器系」「循環器系」			1 年前期
		病理学総論「循環障害」 病理学各論「循環器系」「呼吸器系」			1 年前期
		病態論Ⅰ「呼吸機能障害を持つ対象の自覚症状や身体所見に関連した病態生理学的知識」 「循環機能障害を持つ対象の自覚症状や身体所見に関連した病態生理学的知識」			2 年前期

授業要項

	成人看護学方法論Ⅱ「呼吸機能障害を持つ患者の看護」 「循環機能障害を持つ患者の看護」	2年後期 2年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学「4」 医学書院. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学「3」 医学書院. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.	
受講上のアドバイス	この授業は、看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。従って、1年次後期から学習し、各技術につなげていきます。呼吸と循環は、生命に直結する機能です。対象の呼吸・循環を正常に維持するための、安全で効果的な援助技術を積極的に学んでいきましょう。	
実務経験の内容	看護師、専任教員	

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	臨床看護総論Ⅰ ～排泄の維持に関する援助技術～	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	1 2 / 3 0 時間	講師名	萬福恵子
科目概要		臨床での看護実践力が強く求められている。根拠をもった技術、感染予防や無菌操作を基盤に安全・安楽を考慮した技術を学び、看護実践力を強化する。			
科目目標		1. 科学的根拠に基づいた排泄援助技術の習得および排泄を維持するための、安全で効果的な援助技術を習得する			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	排泄維持に関する基礎知識		♦ 排泄行動のアセスメント ♦ 自然排泄を促す援助方法	講義	
第 2 回	床上排泄の援助方法		♦ 尿器・便器の介助 ♦ オムツによる排泄援助の技術・陰部洗浄の技術	講義	
第 3 回	排泄障害時の看護技術 浣腸のデモスト		♦ 排尿障害時の看護（導尿） ♦ 便秘時の看護（浣腸） ♦ 導尿と浣腸のデモスト	講義 デモスト	
第 4 回				講義 デモスト	
第 5 回	オムツ交換・陰部洗浄 便器・尿器の実技		臥床患者のオムツ交換の陰部洗浄のデモスト 臥床患者のオムツ交換の実施	演習	
第 6 回					
単位認定の方法		1. 臨床看護総論Ⅰの「排泄の維持に関する援助技術」「呼吸・循環の維持に関する技術」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 「排泄の維持に関する援助技術」50 点、「呼吸・循環の維持に関する技術」50 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは臨床看護総論Ⅰの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理「泌尿器系」			1 年前期
		基礎看護技術Ⅰ「無菌操作・滅菌包・滅菌手袋の装着」			1 年後期
		病態論Ⅳ「泌尿器系疾患の症状や身体所見と対応 尿閉」			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学「4」 医学書院. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学「3」 医学書院. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.			
受講上のアドバイス		この授業は、看護師の提供する看護技術の土台となる共通基本技術です。従って、1 年次前期から学習し、各技術につなげていきます。排泄行動は人間にとって最も重要な日常の営みといえます。疾患や障害によって排泄行動が自立できない対象の苦痛を推し量り、安全・安楽な排泄援助技術を提供するための学習内容です。確実に習得していきましょう。そのために下記の点を実行していきます。 1. 陰部洗浄・オムツ交換の技術は演習で実施の後、自己演習を重ね技術の確認を教員してもらう。 2. 尿器・便器の介助技術については、デモンストレーション見学の後、必ず自己練習			

授業要項

	をする。
実務経験の内容	看護師、専任教員

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	臨床看護総論Ⅱ ～診療・検査に関する技術～	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	22 / 30 時間	講師名	石牟礼ゆかり
科目概要		臨床での看護実践力が強く求められている。より臨床で遭遇する機会が多い症状に焦点をあて、対象・家族の苦痛軽減、治療の促進を促す看護の方法を学び、看護実践力を強化する。			
科目目標		1. 検査の種類と検体検査の意味を理解する 2. 診療に伴う看護の基本的役割を理解する 3. 科学的根拠に基づいた診療・検査時の援助技術を習得する			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	診察・検査の目的と意義 対象者の心理と看護の役割		◆ 検査の目的と意義 ◆ 検査における対象の心理と看護者の役割	講義	
第 2 回	身体計測の意義と方法		◆ 身体計測の意義 ◆ 身長・体重・握力・肺活量・視力の測定方法	講義 演習	
第 3 回	検体検査の種類と検査データの アセスメント		◆ 生体検査と検体検査 ◆ 生体検査のアセスメント ①画像検査②モニタリング・生理機能 ③内視鏡検査	講義	
第 4 回	検体検査		◆ ①尿、便、喀痰検査の方法と注意点 ◆ ②血液検査の ◆ ③検体の取り扱い	講義	
第 5 回	検体検査		◆ ④静脈血採血の目的、必要物品、手順とその根拠、注射器の取り扱い ◆ 適切な採血部位の選択、合併症、静脈採血の手順 ◆ ⑤簡易血糖検査	講義	
第 6 回	尿検査		◆ 試験紙法による尿検査、尿比重測定方法	演習	
第 7 回	穿刺法時の看護		◆ 各穿刺法による検査時の注意点・看護 ①骨髄穿刺②腰椎穿刺③胸腔穿刺④腹腔穿刺 ⑤内視鏡穿刺	講義	
第 8 回	「採血」演習		モデルを用いた採血演習	演習	
演習					
演習					
演習					
単位認定の方法		1. 臨床看護総論Ⅱ「診療・検査に関する技術」70 点と「創傷管理に関する技術」30 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 2. 臨床看護総論Ⅱ「診療・検査に関する技術」と「創傷管理に関する技術」合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 3. 「上記の条件を満たしたものは臨床看護総論Ⅱの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		臨床看護総論Ⅲ「注射法」			2 年前期
		看護過程「アセスメントプロセス、情報の解釈分析」			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			

授業要項

使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「3」、基礎看護技術Ⅱ、医学書院. 系統看護学講座 別巻 臨床検査、医学書院. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.
受講上のアドバイス	採血の演習時は、血管や神経の走行など解剖生理を理解した上で臨むこと。採血針を扱うため取り扱いには十分注意する。
実務経験の内容	看護師、専任教員

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	臨床看護総論Ⅱ ～創傷管理に関する技術～	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	8 / 30 時間	講師名	田畑真実
科目概要		臨床での看護実践力が強く求められている。より臨床で遭遇する機会が多い症状に焦点をあて、対象・家族の苦痛軽減、治療の促進を促す看護の方法を学び、看護実践力を強化する。			
科目目標		1. 創傷の治癒過程を理解し、創傷の治癒を促進する援助技術を理解する			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	創傷管理に関する基礎知識		♦ 創傷とは何か ♦ 創傷の治癒過程 ♦ 皮膚創傷治癒の基本 ♦ 創傷の処置と看護 ♦ 外用薬・ドレッシング材	講義	
第 2 回	包帯法 洗浄に関する技術		♦ 包帯の種類・包帯法 ♦ 包帯法について 演習オリエンテーション ♦ 胃洗浄、膀胱洗浄、腸洗浄	講義	
第 3 回	包帯法		♦ 包帯法 巻軸包帯を用いた基本的な包帯法 三角巾の使用法	演習	
第 4 回					
	終講試験（30 点）30 分			筆記試験	
単位認定の方法		1. 臨床看護総論Ⅱ「診療・検査に関する技術」70 点と「創傷管理に関する技術」30 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 2. 臨床看護総論Ⅱ「診療・検査に関する技術」と「創傷管理に関する技術」合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 3. 「上記の条件を満たしたものは臨床看護総論Ⅱの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		成人看護学方法論Ⅰ「手術療法を受ける対象の看護」			2 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「4」臨床看護総論，医学書院. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「3」基礎看護技術Ⅱ，医学書院. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.			
受講上のアドバイス		ストーマケアは老年看護学方法論Ⅰで学習する			
実務経験の内容		看護師、専任教員			

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	臨床看護総論Ⅲ ～与薬に関する技術～	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	3 0 時間	講師名	兼石 彰
科目概要		看護実践の中でリスクの高い薬物療法時の看護について学習し、安全な医療を提供するための基礎的技術を習得する			
科目目標		1. 薬物に伴う法的責任を理解し、薬物を正しく管理する方法を理解する 2. 指示された薬物を安全・適切に与薬する技術を習得する			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	薬物療法とは		♦ 薬物療法の基礎知識 ♦ 看護師の役割と責任	講義	
第 2 回	薬物療法の具体的援助方法		♦ 経口投与 ♦ 吸入 ♦ 点眼 ♦ 点耳 ♦ 経皮与薬 ♦ 直腸内与薬	講義	
第 3 回	注射法		♦ 注射の基礎知識 ♦ 注射の方法の種類 ♦ 注射における安全管理	講義	
第 4 回	注射法		♦ アンプル・バイアルの取り扱い（演習室）	講義	
第 5 回	点滴静脈内注射の実際		♦	講義	
第 6 回	輸血		♦ 血液製剤の確認、輸血の準備、事故防止 ♦ 輸血の副作用、		
第 7 回	点滴静脈内注射		} 点滴静脈内注射の準備、点滴管理、刺入部固定 } 滴下速度調整 } モデルを使用しての演習	演習	
第 8 回	点滴静脈内注射			演習	
第 9 回	点滴静脈内注射			演習	
第 10 回	点滴静脈内注射			演習	
第 11 回	輸液ポンプ		♦ 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い	講義	
第 12 回	筋肉注射・皮下注射・皮内注射		} モデルを使用しての演習	演習	
第 13 回	筋肉注射・皮下注射・皮内注射			演習	
第 14 回	筋肉注射・皮下注射・皮内注射			演習	
第 15 回	まとめ		♦ 与薬に関する技術のまとめ	講義	
単位認定の方法		1. 臨床看護総論Ⅲ30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 臨床看護総論Ⅲ「与薬に関する技術」100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは臨床看護総論Ⅲの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		臨床看護総論Ⅱ「静脈血採血」			1 年後期
		老年看護学方法論Ⅱ「高齢者の与薬」			2 年前期
		小児看護学方法論Ⅱ「小児の与薬」			2 年後期

授業要項

	母性看護学方法論Ⅱ「K2 シロップ与薬」「新生児の点眼」	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「3」基礎看護技術Ⅱ，医学書院. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院.	
受講上のアドバイス	看護実践の中でリスクの高い薬物療法時の看護について学習する。演習時は注射針なども扱うので十分注意して演習に臨むこと。	
実務経験の内容	看護師、専任教員	

授業要項

専門分野Ⅰ		科目	看護過程の基礎	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	3 0 時間	講師名	櫻美尚美
科目概要		ヘンダーソン看護理論をもとに、問題解決のプロセスとしての看護過程の展開方法を学び、論理的に看護実践できるための基礎的能力を身につける。			
科目目標		1. 看護過程の基盤となる看護の方法をヘンダーソン看護理論をもとに理解する。 2. 看護過程の構成要素がわかり、展開に必要なプロセスを習得する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	看護過程の基礎となる看護の考え方		1. 看護とは何か 2. 看護過程とはなにか 3. 看護過程の 5 つの構成要素 4. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方		講義
第 2 回	看護過程に必要な基礎知識が理解できる		1. 主な理論家たちの看護概念 2. ヘンダーソンの看護概念：主要概念の共通理解 3. 看護過程に有効な基礎知識		講義 ワーク
第 3 回	看護過程の実際 1：アセスメントプロセスの方法が理解できる		1. 看護に必要な情報とは 2. 情報の取り方について 3. 情報の分析		講義
第 4 回	看護過程の実際 2：アセスメントプロセスの方法が理解できる		1. 当校のデータベースシートの枠組み 2. アセスメントにおける情報の確認・整理 3. 事例をもとに情報の振り分け		講義 演習
第 5 回	看護過程の実際 3：アセスメントプロセスの方法が理解できる		1. アセスメント訓練：A－1（常在条件） 情報の振り分け・分析		演習
第 6 回	看護過程の実際 4：アセスメントプロセスの方法が理解できる		1. アセスメント訓練：A－2（病理的条件） 情報の振り分け・分析		演習
第 7 回	看護過程の実際 5：アセスメントプロセスの方法が理解できる		1. アセスメント A－2 の記入例 2. アセスメント訓練：B～L の情報の振り分け		演習
第 8 回	看護過程の実際 6：アセスメントプロセスの方法が理解できる		1. アセスメント訓練：B～L の情報分析		演習
第 9 回	看護過程の実際 7：看護関連図（全体像の把握）の方法が理解できる		1. 関連図（全体像）作成のポイント 2. 関連図を書く時の当校の決まり事 3. 関連図作成		講義 演習
第 10 回	看護過程の実際 8：問題リストの目的と記載方法が理解できる		1. 問題リストの目的 2. 看護問題の記載方法 3. 看護問題の優先順位決定の考え方 4. 看護診断（看護上の問題）の範囲について 5. 問題リスト作成		講義 演習
第 11 回	看護過程の実際 9：看護目標設定、計画立案の方法		1. 期待される成果の明確化 2. 看護計画の立案		講義 演習

授業要項

第 12 回	看護過程の実際 10：看護計画立案	1. 看護計画の立案	演習
第 13 回	看護過程の実際 11：看護計画立案・評価	1. 看護計画の例 2. 評価	講義
第 14 回	看護記録について理解できる	1. 看護記録とは 2. 記載・管理における留意点 3. 看護記録の構成 4. リフレクション	講義
第 15 回	終講試験・まとめ	1. 終講試験 2. 夏季休暇課題の自己・他者評価 3. まとめ	試験 講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 夏季休暇課題（看護過程の展開）60 点、筆記試験 40 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは看護過程の基礎の単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		基礎分野：心理学、コミュニケーション論	1 年前期
		専門基礎分野：解剖生理学、病理学、病態論Ⅰ、病態論Ⅱ、病態論Ⅲ、病態論Ⅳ、微生物学、臨床薬理学、栄養学、社会福祉	1 年前期 ～ 2 年前期
		専門分野Ⅰ：看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳ、臨床看護論Ⅰ、臨床看護論Ⅱ、臨床看護論Ⅲ	1 年前期 ～ 2 年前期
		専門分野Ⅱ：成人看護学概論、成人保健、老年看護学概論、老年保健	1 年前期 ～ 1 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ、医学書院。 やさしく学ぶ看護理論、医学書院。	
受講上のアドバイス		この授業は、看護実践を科学的に行うための思考過程であり、看護を具体的に実践する上で不可欠な方法論です。 看護学概論などで学習した看護、人間、健康、病気などの主要概念の理解が必要です。また、対象の身体的な健康状態を判断するためには、解剖生理学や病態論、診断、治療などの知識も必要です。既習科目を復習しながら事前・事後の課題に取り組み看護過程を用いた看護展開について基礎看護学実習Ⅱの前に十分に理解できるように学習を進めていきましょう。 課題への取り組みが重要な科目です。課題にコツコツと取り組んで下さい。	
実務経験の内容		看護師、専任教員	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学概論	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	30 時間	講師名	飯田かずよ
科目概要		成人期にある人の特徴と発達課題、成人期に有用な概念、健康に影響する因子や健康の段階における基本的な看護の役割について学び、その人にとっての最適な健康を促進・維持させるための看護について学ぶ。 病期による看護の特徴を理解し、対象・家族の看護のニーズに応えられるために、病期の経過ごとの対象の特徴と看護を学ぶ内容とする。			
科目目標		1. 成人の生物学的、心理学的、生活形態的特徴を学び、成人期の対象を総合的に理解する。 2. 成人期にある対象の健康に影響する因子と健康を保持・増進するための看護の役割を理解する。 3. 健康の段階に応じた対象・家族の身体的・心理的・社会的変化を学び、各期の問題点や援助の特徴を理解する。 4. 疾病の経過に伴う看護の役割、方法を理解する。			
回数	主題	学習内容		履修形態	
第 1 回	成人看護学の基本的な考え方	◆ 成人看護学の対象 ◆ 成人看護学と他看護学との関連、全体構築 ◆ 「成人（おとな）とはなにか」「成人であるということ」		講義	
第 2 回	成人期の発達課題の特徴①	◆ 青年期・壮年期・向老期の身体的・心理的・社会的特徴		講義 GW	
第 3 回	成人期の発達課題の特徴②	◆ 青年期・壮年期・向老期にある人の健康問題		講義 GW	
第 4 回	成人の生活と成人を取り巻く環境	◆ 家族形態と機能 ◆ 生活様式 ◆ 社会状況の変化		講義	
第 5 回	成人における健康の保持・増進や疾病予防①	◆ 「生活習慣に関連する健康問題」 健康問題と推移 生活習慣の是正		講義	
第 6 回	成人における健康の保持・増進や疾病予防②	◆ 「職業に関連する健康問題」 就業条件と環境と疾病との関係 職業疾患の要因と健康診断の受診状況 ◆ 「ストレスに関連する健康問題」 ストレス関連疾患の要因 ストレス対処法		講義	
第 7 回	経過別とは	◆ 経過別看護の考え方 ◆ 急性期、回復期（リハビリテーション）、慢性期、終末期とは		講義	
第 8 回	急性期にある患者と家族の特徴と看護	◆ 患者・家族の身体的・心理的・社会的特徴 ◆ 急性期における看護の基本 危機的状態への精神的支援（危機理論、ストレスコーピング） 治療の緊急性と優先度 治療選択・意思決定への支援 代理意思決定支援		講義	

授業要項

第 9 回	急性期身体侵襲 救急看護・クリティカルケア	- 急性期における身体への侵襲と回復過程 - 救急看護・クリティカルケアの基本と重要性	講義
第 10 回	回復期（リハビリテーション）とは	- 患者・家族の身体的・心理的・社会的特徴 - 回復期（リハビリテーション）看護の基本 リハビリテーション（定義、看護の役割、機能障害と分類） セルフケア能力の獲得（セルフケア理論） - 障害受容過程と看護 - チームアプローチと社会資源の活用	講義
第 11 回	慢性期とは①	- 患者・家族の身体的・心理的・社会的特徴 - 慢性疾患の特徴 - 慢性疾患と共にある生活 - 病みの軌跡	講義
第 12 回	慢性期とは②	慢性期看護の基本 セルフケア・自己管理を支える看護（エンパワメント） アドビランスや主体性の尊重 社会支援への看護	講義
第 13 回	終末期にある患者および緩和を必要とする患者と家族への看護	- 患者・家族の身体的・心理的・社会的特徴 - 全人的苦痛 - 死の三徴候 - 終末期看護の基本 - QOL の考え方 - エンド・オブ・ライフ・ケア	講義
第 14 回	がん患者と家族への看護	- がん患者の抱える苦痛 - がん患者の治療と看護 - がん患者の社会参加への支援	講義
第 15 回	終講試験（100 点）50 分 まとめ	成人看護学における対象理解と看護についてのまとめ	筆記試験 講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。（終講試験 1 時間を含む） 2. 終講試験で 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学概論の単位を取得できる。	
関連科目		関連科目	履修時期
		心理学	1 年前期
		看護学概論	1 年前期
		成人保健	1 年後期
		成人看護学方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	2 年前期
		精神保健「ライフステージにおける発達段階と危機」	1 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示する。	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論、医学書院。	
受講上のアドバイス		成人看護学方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴならびに成人看護学実習の基盤となる科目です。各理論の理解を深めるには、事前には教科書、事後では講義資料や資料に掲示してある参考文献を読んで、授業内容を予習・復習しましょう。	
実務経験の内容		看護師、専任教員	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人保健	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	30 時間	講師名	松山 日実子
科目概要		我が国の人口動態を知り、成人保健の対象者の背景を考え、保健活動の意義を理解し、ペーパーペイシエントで患者教育の実践を体験する。			
科目目標		1. 成人保健の概要と動向を理解する。 2. 成人保健活動における看護の役割を理解する。 3. 健康を保持増進させるための健康教育・患者教育について考察できる。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	成人保健の意義や同行の実践を知る。 成人の発達課題の特徴	- 成人保健を学ぶ意義について - 成人保健の学習目標 - 成人保健の動向			講義 グループワーク
	成人の発達課題の特徴	- 我が国の人口動態にみる成人の特徴 - 我が国の人口動態にみる成人の特徴 - 生命表について - 国民衛生動向からみる成人期における健康状態と受診状況			講義 グループワーク 使用テキスト： 国民衛生の動向
第 3 回	成人の生活を理解するための視点と方法を理解するⅠ	- 成人を取り巻く環境お生活からみた健康 - 成人の生活とは（成人の生活の理解・成人の役割・健康観の多様性）			講義
第 4 回	成人の生活を理解するための視点と方法を理解するⅡ	生活と健康をまもりはぐくむシステム			講義
第 5 回	成人の学習とは	- 成人であることを生かす学習（アンドラゴジー） - 看護学におけるエンパワメントの捉え方 - エンパワーメントアプローチを使った介入方法			講義
第 6 回	保健指導の演習に向けての準備	- 事例の紹介 - 事例の患者の事前学習について - 指導アセスメント・指導計画立案の方法 - 冬休みの宿題			講義
第 7 回	看護におけるセルフケアと自己効力感を高める支援を理解する	- 自己効力：概論での学びの想起 - 自己効力を高める 4 つの情報源使って考える（事例に沿ってグループワーク） - セルフケア理論を使って考える（事例に沿ってグループワーク）			講義 GW
第 8 回	病みの軌跡を知ることが成人の理解と看護に有効であることを理解する	- 病みの軌跡：概論での学びの想起 - 病みの軌跡使って考える（事例に沿ってグループワーク）			講義 GW
第 9 回	危機・ストレス理論が危機状態にある成人の理解に有効である事を理解する。	- ストレス・危機理論：概論での想起 - ストレスマネジメントを使って考える（事例に沿ってグループワーク） - 危機理論を使って考える（事例に沿ってグループワーク）			講義 GW

授業要項

第 10 回	ロールプレイングの流れと評価方法を理解する	- 演習要項に沿って演習の進め方の説明 - 評価方法	講義
第 11 回	指導演習の準備	指導案・媒体（パンフレット）の作成。指導案に沿って演習に向けての練習	個人・GW
第 12 回	指導演習の準備	指導案・媒体（パンフレット）の作成。指導案に沿って演習に向けての練習	個人・GW
第 13 回 第 14 回	指導演習	ロールプレイングによる指導の実際と評価	グループ演習
第 15 回	終講試験 まとめ	- 終講試験実施 75 点満点（50 分） - 国家試験出題傾向を確認しながら成人保健のまとめ（40 分）	
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること。（終講試験 1 時間を含む） 2. 筆記試験 60 点、指導計画・指導案・指導媒体（パンフレットなど）40 点の合計 100 点満点。60 点以上を合格とする。 注：課題の提出状況及び、ロールプレイングによる患者指導演習態度も評価に加味する。 3. 上記の条件を満たしたものは成人保健の単位を取得できる。	
関連科目		関連科目	履修時期
		看護学概論	1 年前期
		心理学	1 年前期
		母性保健	1 年後期
		教育学	1 年後期
		社会福祉	2 年前期
		公衆衛生	2 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。 冬休みに指導媒体（パンフレットなど）の作成をする。	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門Ⅱ 医学書院 「成人看護学総論」成人看護学① 一般社団法人 厚生労働統計協会「国民衛生の動向」	
受講上のアドバイス		- 人生のライフサイクルで最も長い成人期について学びます。我が国の人口動態・静態から社会背景を理解し成人期の発達段階・発達課題を学びます。 - 成人期の対象の臨地実習は、90 時間と実習の中で最も多くの時間数となっている。成人期の患者の理解の土台となる科目である。 - 大人の学びの特徴を理解し、ペーパーペイシエントを用い成人期における健康障害に焦点をあて、その方に必要な指導計画・指導案を立案します。さらに、媒体（パンフレットなど）を使用しロールプレイングで指導演習を行います。その演習の学びを生かして、成人看護学実習Ⅱ（慢性期）で指導実践を行います。	
実務経験の内容		看護師、専任教員	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅰ ～救急看護～	単位数	(1 単位)
時期	2 年次前期	時間数	10/30 時間	講師名	平川 あゆみ
科目概要		成人看護学概論で学んだ疾病の経過に伴う看護の特徴を踏まえ、フィジカルアセスメント能力や判断力が求められる急性期の看護について、より具体的な学習を行い、臨床実践能力の向上を図る。			
科目目標		1. 救急看護、クリティカルケアの特徴と看護の役割を理解し、対象を全人的に捉えることができる。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第1回	救急看護とは		- 救急看護の概念 - 救急看護の対象理解 - 救急外来における看護、救急患者の家族に対する看護 - 代理意思決定支援	講義	
第2回	緊急度と重症度のアセスメント		- 緊急度と重症度 - 意識レベルの評価	講義	
第3回	救急看護・クリティカルケアの基本		- 心肺停止状態への処置 - ショックへの処置 - 急性症状の応急処置 - 一次救命処置、二次救命処置	講義	
第4・5回	心肺停止状態への処置		- 一次救命 - AED	演習	
	終講試験（30 点）30 分			筆記試験	
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅰ「周術期看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 「救急看護」30 点、「周術期看護」70 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅰの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎看護技術Ⅱ「フィジカルアセスメント」			1 年前期
		成人看護学概論「経過別看護」			1 年後期
		臨床看護学総論Ⅰ「呼吸・循環の維持に関する技術」			1 年後期
		成人看護学方法論Ⅳ「脳・神経機能障害看護」			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示する。			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 別巻 救急看護学, 医学書院.			
受講上のアドバイス		急病や事故などにより急激に健康状態の悪化した人々に対する看護について、関心を寄せて主体的に学んでください。臨床の救急認定看護師が授業を行うので、疑問に思ったことなど積極的に質問してください。			
実務経験の内容		救急認定看護師			

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅰ ～周術期看護～	単位数	(1 単位)
時期	2 年次前期	時間数	20 / 30 時間	講師名	飯田かずよ
科目概要		成人看護学概論で学んだ疾病の経過に伴う看護の特徴を踏まえ、フィジカルアセスメント能力や判断力が求められる急性期の看護について、より具体的な学習を行い、臨床実践能力の向上を図る。			
科目目標		1. 周術期にある対象の特徴と術前・術中・術後の観察及び看護の実際を理解する。 2. 治療・処置の目的を理解し、効果的で安全・安楽な看護技術を習得する。 3. 術後の継続看護の必要性と退院調整及び多職種との連携について理解する。 4. 主な手術療法を受ける対象の看護を学び、重要臓器喪失に伴う影響と看護の役割を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	術前の看護	◆ 周術期と周術期看護 ◆ 入院前から退院支援における周術期のチームアプローチ ◆ 手術療法を理解し意思決定への援助 ◆ 術前検査から術後合併症のリスクをアセスメント ◆ 術後合併症予防のための援助（栄養、呼吸、循環） ◆ 術前オリエンテーション ◆ 術前処置 ◆ 不安の緩和 ◆ ボディイメージ変容への援助			講義
第 2 回	術中の看護	◆ 手術開始から終了までの流れ ◆ 手術方法とその影響に対する援助 ◆ 手術体位による影響と援助 ◆ 麻酔による影響と援助			講義
第 3 回	術後の看護	◆ 侵襲から回復への生体反応 ◆ 疼痛管理 ◆ 創傷管理 ◆ ドレーン管理			講義
第 4 回	術後合併症と予防の看護	◆ 術後出血 ◆ 下肢静脈血栓、肺塞栓症 ◆ 呼吸器合併症 ◆ 術後感染、縫合不全 ◆ 術後イレウス ◆ 術後せん妄			講義
第 5 回	術後の対象への観察と看護 ①	◆ 術後の患者さんの全身を観察し、離床の方法を考えよう			演習
第 6 回	術後の対象への観察と看護 ②	◆ 術後 1 日目の患者さんへの全身清拭の方法を考えよう			演習
第 7 回	術後の機能障害や生活制限への看護	◆ ボディイメージ変容への支援 ◆ 退院指導と継続看護 ◆ 早期離床の促進 ◆ 自己管理に向けた援助			講義

授業要項

第 8 回	主な手術療法を受ける患者の看護①	・ 胃切除術を受ける患者の看護	講義
第 9 回	主な手術療法を受ける患者の看護②	・ 大腸切除術を受ける患者の看護	講義
第 10 回	主な手術療法を受ける患者の看護③	・ 乳房切除術を受ける患者の看護 ・ 食道切除術を受ける患者の看護	講義
	終講試験（70 点）50 分		筆記試験
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅰ「救急看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 本単元の評価 70 点と「救急看護」30 点の合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅴの単位を取得できる。	
関連科目		関連科目	履修時期
		成人看護学概論「経過別看護」	1 年後期
		病態論Ⅰ「消化器」	1 年後期
		病態論Ⅳ「女性生殖器」	2 年後期
		看護の統合と実践「医療安全」	3 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論、医学書院. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学「9」女性生殖器、医学書院. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学「5」消化器、医学書院.	
受講上のアドバイス		手術を受ける対象は、麻酔と手術を受けることにストレスを感じ、不安や恐怖を抱くことが推測されます。このような対象は心身ともに支えられ、元の生活に戻ることができるような援助を必要としています。病態論で学んだことを想起しながら授業に臨み、後期の実習につなげましょう。	
実務経験の内容		看護師、専任教員	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅱ ～呼吸機能障害看護～	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	1 5 / 3 0 時間	講師名	中村 倫文
科目概要		生命に直結する、呼吸・循環機能の障害の特徴と対象の状態変化に合わせて早期に対応できるための看護の方法について学ぶ。			
科目目標		1. 呼吸機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	呼吸機能障害の原因と障害と程度のアセスメント	- 酸素化障害 - 換気障害 - 呼吸運動障害 - 生命・生活への影響「呼吸障害のある患者の看護」「呼吸障害とケア」			講義 GW
第 2 回	検査・処置を受ける患者の看護①	- 動脈血ガス分析 - 呼吸機能検査			講義
第 3 回	検査・処置を受ける患者の看護②	- 胸腔穿刺 - 肺生検 - 気管支鏡検査			講義
第 4 回	治療を受ける患者の看護①	- 胸腔ドレナージの看護 - 薬物療法を受ける患者の看護			講義
第 5 回	治療を受ける患者の看護②	- 非侵襲的陽圧換気 - 侵襲的陽圧換気「人工呼吸療法」「人工呼吸器を装着する患者の看護」			講義
第 6 回	病期や機能障害に応じた看護①	- 気管支喘息患者の看護 - 慢性閉塞性肺疾患患者の看護			講義
第 7 回	病期や機能障害に応じた看護②	- 肺炎・肺がんの看護 (肺葉切除を受ける患者の看護) - まとめ			講義
第 8 回	終講試験 (50 点) 50 分				筆記試験
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅱの「呼吸機能障害看護」「循環機能障害看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 「呼吸機能障害看護」50 点、「循環機能障害看護」50 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅱの単位を取得できる。			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理学 呼吸器			1 年次前期
		病態論Ⅰ 呼吸器			1 年次後期
		病理学			1 年次後期
		臨床生化学			1 年次前期
事前・事後学習		授業に臨む前にキーワード検索などでテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学② 呼吸器			

授業要項

受講上のアドバイス	解剖生理学の基礎知識（呼吸器）を基に講義が展開する。開講前に基本的な知識を復習し臨むこと。臨床の集中治療認定看護師が授業を行うので、疑問に思ったことなど積極的に質問してください。
実務経験の内容	集中ケア認定看護師

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅱ ～循環機能障害看護～	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	1 5 / 3 0 時間	講師名	福元 優一
科目概要		生命に直結する、呼吸・循環機能の障害の特徴と対象の状態変化に合わせて早期に対応できるための看護の方法について学ぶ。			
科目目標		1. 循環機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	循環障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護	- ポンプ機能障害 - 刺激伝導系 - 血管・リンパ障害 - 浮腫・脱水 - 生命・生活への影響			講義
第 2 回	検査・処置を受ける患者への看護①	- 心電図アセスメントと装着時の看護 - 心エコー検査			講義
第 3 回	検査・処置を受ける患者への看護②	- 血管造影検査の看護 - 心臓カテーテル検査時の看護			講義
第 4 回	治療を受ける患者の看護①	- ペースメーカー埋め込み患者の看護 - 大動脈内バルーンパンピングの看護			講義
第 5 回	治療を受ける患者の看護②	- 開心術を受ける患者の看護 - 冠動脈バイパス術、PCI、弁置換術、植え込み式除細動器、血栓溶解			講義
第 6 回	病期や機能障害に応じた看護①	- 心不全患者の看護 - 虚血性心疾患患者の看護			講義
第 7 回	病期や機能障害に応じた看護②	- 下肢動脈閉そく症の看護 - 不整脈患者の看護			講義
第 8 回	終講試験（50 点）50 分				筆記試験
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅱの「呼吸機能障害看護」「循環機能障害看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 「呼吸機能障害看護」50 点、「循環機能障害看護」50 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものの成人看護学方法論Ⅱの単位を取得できる。			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理学 循環器			1 年次前期
		病態論Ⅰ 循環器			1 年次前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学③ 循環器			
受講上のアドバイス		解剖生理学の基礎知識（循環器）を基に講義が展開する。開講前に基本的な知識を復習し臨むこと。			

授業要項

実務経験の内容	看護師
---------	-----

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅲ ～消化・栄養代謝障害看護～	単位数	1 単位
時期	2 年次後期	時間数	1 8 / 3 0 時間	講師名	松山 日実子
科目概要		生涯にわたり疾病コントロールの必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。			
科目目標		1. 消化・吸収機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。 2. 栄養代謝機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	消化吸収障害を持つ患者の看護 ・胃・十二指腸潰瘍の患者の検査・治療・看護	- 消化器疾患の医療の動向と看護 - 消化器系の構造と機能の復習 - 胃・十二指腸潰瘍の機序の復習 - 上部消化管内視鏡を受ける患者の看護 - 上部消化管造影検査を受ける患者の看護 - 胃・十二指腸潰瘍患者の生活指導			講義
第 2 回	・急性・慢性膵炎患者の検査・治療・看護	- 膵臓の構造・機能の復習 - 急性・慢性膵炎の機序の復習 - 急性膵炎患者の看護（急性期・回復期） - 慢性膵炎患者の生活指導			講義
第 3 回	・潰瘍性大腸炎・クローン病の患者の治療・検査・看護 ①	- 炎症性腸疾患（IBD）の機序の復習 - 潰瘍性大腸炎とクローン病の比較 - 下部消化管内視鏡検査を受ける患者の看護 - 中心静脈栄養法を受ける患者の看護 - 経腸栄養法を受ける患者の看護 - 潰瘍性大腸炎の患者の生活指導			講義
第 4 回	・潰瘍性大腸炎・クローン病の患者の治療・検査・看護 ② ・イレウスの患者の治療・検査・看護	- クローン病の患者の生活指導（急性期・寛解期） - 吐血・下血時の看護 - 食生活・便秘・ストレス・薬物療法 - 腸閉塞（イレウス）の機序の復習 - 嘔気・嘔吐時の看護 - イレウスチューブ挿入中患者の看護			講義
第 5 回	栄養代謝機能障害をもつ対象の原因と障害の程度のアセスメント	- 栄養代謝機能の役割と障害 - 栄養機能障害の把握と看護 - 栄養代謝障害がもたらす生命・生活への影響 - 黄疸・腹水の看護 - 低たんぱく血漿の看護 - 肝性脳症			講義
第 6 回	栄養代謝障害をもつ対象への検査・処置の看護	- 肝生検 - 超音波検査 - 内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP） - 肝動脈血管造影 - ICG 検査・チャイルドピュースコア			講義
第 7 回	栄養代謝障害をもつ対象へ治療における看護	- インターフェロン治療の看護 - 胆嚢炎患者の看護			講義

授業要項

		- 経皮的胆管ドレナージの看護 - 肝動脈塞栓術の看護 - 食道静脈瘤内視鏡治療の看護	
第8回	栄養代謝障害をもつ対象への病期や機能障害に応じた看護①	- 急性肝炎・慢性肝炎患者の看護 - 肝硬変の患者の看護	講義
第9回	栄養代謝障害をもつ対象への病期や機能障害に応じた看護②	- 肝臓がん患者の看護 - 肝臓切除・エタノール注入療法・経皮的ラジオ波焼灼療法・マイクロ波凝固壊死療法・肝動脈塞栓療法（TAE）・化学療法（動注 含む）・肝移植	講義
終講試験（60点）50分			筆記試験
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅲの「消化・栄養機能障害看護」「糖代謝・内分泌看護」の単元と合わせて30時間中20時間以上の出席があること。 2. 「消化・栄養機能障害看護」50点、「糖代謝・内分泌看護」50点、で合計100点満点、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅲの単位を取得できる。	
関連科目		関連科目	履修時期
		解剖生理学 消化・内分泌	1年次前期
		病態論Ⅰ 消化器	1年次後期
		病態論Ⅱ 内分泌・栄養代謝疾患	2年次前期
		病理学	1年次後期
		臨床生化学	1年次前期
事前・事後学習		授業に臨む前にキーワード検索などでテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示。	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 成人看護学⑥ 内分泌・代謝	
受講上のアドバイス		解剖生理学の基礎知識（消化器・内分泌代謝）を基に講義が展開する。開講前に基本的な知識を復習し臨むこと。	
実務経験の内容		看護師 専任教員	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅲ ～糖代謝・内分泌障害看護～	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	1 2 / 3 0 時間	講師名	尾堂ゆかり
科目概要		生涯にわたり疾病コントロールの必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。			
科目目標		1. 糖代謝機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。 2. 内分泌機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	糖代謝機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護		◆ 血糖調整機能の役割と障害 ◆ 血糖調整機能障害がもたらす生命・生活への影響	講義	
第 2 回	糖代謝機能障害をもつ対象の検査・処置の看護		◆ 糖負荷試験（OGTT） ◆ 自己血糖測定（SMBG） ◆ 尿糖測定 ※自己血糖測定 演習	講義 演習	
第 3 回	糖代謝機能障害をもつ対象の治療の看護		◆ 食事・運動療法 ◆ 糖尿病経口薬による治療 ◆ インスリン補充療法	講義	
第 4 回	病期や機能障害に応じた看護		◆ 1 型糖尿病の看護 ◆ 2 型糖尿病の看護 ◆ 患者教育 ◆ 合併症に伴う看護（フットケア、シックディ）	講義	
第 5 回	内分泌機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護及び検査時の看護		◆ 甲状腺機能の役割と障害 ◆ 生命・生活への影響 ◆ ホルモン負荷試験 ◆ ホルモン血中・尿中測定	講義	
第 6 回	内分泌機能障害をもつ対象の治療の看護 及び病期や機能障害に応じた看護		◆ 甲状腺ホルモン療法 ◆ 甲状腺摘出術の看護 ◆ 甲状腺機能亢進症の看護	講義	
終講試験 4 0 点（5 0 分）				筆記試験	
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅲの「消化・栄養機能障害看護」「糖代謝・内分泌看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 「消化・栄養機能障害看護」50 点、「糖代謝・内分泌看護」50 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅲの単位を取得できる。			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理学 消化・内分泌			1 年次前期
		病態論Ⅰ 消化器			1 年次後期
		病態論Ⅱ 内分泌・栄養代謝疾患			2 年次前期
		病理学			1 年次後期

授業要項

	臨床生化学	1 年次前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 成人看護学⑥ 内分泌・代謝	
受講上のアドバイス	解剖生理学の基礎知識（消化器・内分泌代謝）を基に講義が展開する。開講前に基本的な知識を復習し臨むこと。	
実務経験の内容	看護師 糖尿病看護認定看護師	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅳ ～体液調節機能障害～	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	10 / 30 時間	講師名	大久保珠里
科目概要		生涯にわたり疾病コントロールの必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。 様々な要因で機能障害を有する対象の特徴と障害の程度に応じた看護の役割と方法を学ぶ。			
科目目標		1. 体液調節機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	体液調節機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護①		- 腎臓の構造と機能について復習 - 体液調節機能障害 - 電解質調節機能障害	講義	
第 2 回	体液調節機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護② 検査・処置を受ける患者への看護		- 酸塩基平衡調節機能障害 - 静脈性尿路造影 - 腎生検	講義	
第 3 回	治療を受ける患者の看護		- 腎臓疾患で食事療法を必要とする患者の看護 - 透析療法（血液透析、腹膜透析）を受ける患者の看護 - 急性期持続血液透析とその看護	講義	
第 4 回	病期や機能障害に応じた看護①		- 急性腎不全、急性腎障害患者の看護 - 慢性腎不全、慢性腎臓病患者の看護	講義	
第 5 回	病期や機能障害に応じた看護②		- 腎移植を受ける患者の看護 - まとめ	講義	
	終講試験（30 点）30 分			筆記試験	
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅳ「脳・神経機能障害看護」、「運動機能障害看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 本単元の評価 30 点と「脳・神経機能障害看護」40 点、「運動機能障害看護」30 点の合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅳの単位を取得できる。			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理学「腎泌尿器」			1 年前期
		病態論Ⅲ「腎疾患」			2 年前期
		栄養学			1 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学「8」腎・泌尿器、医学書院。			
受講上のアドバイス		成人看護学で学ぶ範囲は広範囲です。解剖生理学や病態論で学んだことを想起・振り返りながら学習してください。教科書は参考文献を読むだけでは実力はつかないので、じっくり考え時間をかけた学習をしてください。			

授業要項

実務経験の内容	看護師
---------	-----

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅳ ～脳・神経機能障害看護～	単位数	(1 単位)
時期	2 年次後期	時間数	1 2 / 3 0 時間	講師名	浜崎彩
科目概要		生涯にわたり疾病コントロールの必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。 様々な要因で機能障害を有する対象の特徴と障害の程度に応じた看護の役割と方法を学ぶ。			
科目目標		1. 脳・神経機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	脳・神経機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護①	- 脳・神経疾患患者の特徴と看護 - 脳・神経障害とは - 意識障害のある患者の看護 - 運動・感覚機能障害のある患者の看護			講義
第 2 回	脳・神経機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護②	- 言語機能障害のある患者の看護「失語症」「構音障害」 - 高次脳機能障害のある患者の看護			講義
第 3 回	検査・処置を受ける患者の看護 治療を受ける患者の看護	- 髄液検査 - 脳血管造影検査 - 開頭術を受ける患者への看護 - 脳室ドレナージ術を受ける患者への看護 - 脳室-腹腔 (VP シヤント) を受ける患者への看護 - 脳血管内治療を受ける患者への看護			講義
第 4 回	病期や機能障害に応じた看護①	- 脳血管障害の定義と分類 - 急性期～回復期にある脳梗塞患者の看護			講義
第 5 回	病期や機能障害に応じた看護②	急性期～回復期にある脳内出血患者の看護			講義
第 6 回	病期や機能障害に応じた看護③	- クモ膜下出血患者の看護 - 脳腫瘍患者の看護			講義
	終講試験 (40 点) 30 分				筆記試験
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅳ「体液調節機能障害看護」、「運動機能障害看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 本単元の評価 40 点と「体液調節機能障害看護」30 点、「運動機能障害看護」30 点の合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅳの単位を取得できる。			
関連科目		関連科目			履修時期
		解剖生理学「脳・神経」			1 年前期
		病態論Ⅱ「脳・神経疾患」			1 年前期
		基礎看護技術Ⅱ「フィジカルアセスメント」			1 年前期
		成人看護学概論「経過別看護」			1 年後期
		老年看護学方法論Ⅰ「リハビリテーション看護」			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学「7」脳・神経、医学書院。			

授業要項

参考文献等	
受講上のアドバイス	成人看護学で学ぶ範囲は広範囲です。解剖生理学や病態論で学んだことを想起・振り返りながら学習してください。教科書は参考文献を読むだけでは実力はつかないので、じっくり考え時間をかけた学習をしてください。
実務経験の内容	看護師

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅳ ～運動機能障害看護～	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	8 / 3 0 時間	講師名	北 千香子
科目概要		生涯にわたり疾病コントロールの必要な対象の特徴と療養行動を支える看護について、代表的な機能障害の看護を学び理解を深める。 様々な要因で障害を有する対象の特徴と、障害の程度に応じた看護の役割と方法を学ぶ。			
科目目標		1. 運動機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び多職種との連携と看護の方法を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	運動機能障害患者の看護の特徴	♦ 運動障害とは ♦ 運動機能障害患者の特性 ♦ 運動機能障害がもたらす生命・生活への影響			講義
第 2 回	運動機能検査・処置を受ける患者への看護	♦ 脊髄造影、椎間板造影の看護 ♦ 膝関節鏡の看護			講義
第 3 回	治療を受ける患者の看護	♦ 骨折時の看護 ♦ ギプス装着時の看護 ♦ 牽引時の看護			講義
第 4 回	病期や機能障害に応じた看護	♦ 大腿骨頸部骨折患者の看護 ♦ 人工関節置換時の看護 ♦ 関節リウマチ患者の看護 ♦ 脊髄損傷患者の看護			講義
	終講試験（30 点）30 分		筆記試験		
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅳ「脳・神経機能障害看護」、「体液調節機能障害看護」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 本単元の評価 30 点と「脳・神経機能障害看護」40 点、「体液調節機能障害看護」30 点の合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅳの単位を取得できる。			
関連科目		関連科目			履修時期
		専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅲ 活動・休息援助技術			1 年前期
		専門分野Ⅱ：老年看護学概論「加齢に伴う身体・心理・社会的変化」			1 年後期
		専門分野Ⅱ：老年看護学方法論Ⅰ「転倒のアセスメントと看護」 老年看護学方法論Ⅱ「骨折の高齢者の看護」			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学「10」運動器, 医学書院.			
受講上のアドバイス		成人看護学で学ぶ範囲は広範囲です。解剖生理学や病態論で学んだことを想起・振り返りながら学習してください。教科書は参考文献を読むだけでは実力はつかないので、じっくり考え時間をかけた学習をしてください。 関節可動域（ROM）、徒手筋力テスト（MMT）の評価は基礎看護学技術のボディメカ、老年で学びます。			
実務経験の内容		看護師			

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅴ ～身体防御機能障害看護～	単位数	(1 単位)
時期	2 年次後期	時間数	10 / 30 時間	講師名	小波津武志
科目概要		高齢社会や多死社会に対応できる看護職者の育成をめざし、治癒困難な病態にある対象の看護と終末期にある対象の看護を学ぶ。 成人看護学概論で学んだ疾病の経過の特徴をふまえ、看護実践力の強化を図る。			
科目目標		1. 身体防御機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	身体防御機能障害の原因と障害の程度のアセスメントと看護	1. 皮膚粘膜障害 2. 免疫機能障害「血液・造血器」「アレルギー」「膠原病」 3. 骨髄機能障害「血液・造血器」			講義 GW
第 2 回	検査・処置を受ける患者への看護	1. 粘膜・皮膚生検 2. 骨髄穿刺時の看護			講義
第 3 回	治療を受ける患者の看護	1. 化学療法 2. 免疫抑制薬 3. ステロイド療法 4. 造血幹細胞移植			講義
第 4 回	病期や機能障害に応じた看護①	1. 急性白血病患者の看護 2. 悪性リンパ腫患者の看護			講義
第 5 回	病期や機能障害に応じた看護②	1. 貧血患者の看護 2. 出血性疾患患者の看護			講義
第 6 回	病期や機能障害に応じた看護①	1. HIV/AIDS 患者の身体的、精神的、社会的苦痛と看護 2. HIV/AIDS の病期の特徴とセルフマネジメント支援 3. 病気の受容に対する看護 4. 社会の偏見 5. 抗 HIV 療法と服薬アドヒアランス 6. 感染経路をふまえた感染予防と教育の重要性 7. 感染予防のための国の取り組み 8. AIDS 予防指針と検査機関 9. 日和見感染に対する看護			
第 7 回	病期や機能障害に応じた看護②	1. SLE 症状や治療と一生付き合っていく対象の精神的、身体的、社会的苦痛と看護 2. ボディイメージの障害 3. 増悪因子 4. SLE 疾患活動判定基準 5. 病気の受容に対する看護 6. 治療に伴う日常生活への影響とセルフケアへの看護の必要性と方法 7. 周囲のサポートの重要性と協力を得る姿勢 8. 社会資源の活用			
	終講試験 (50 点) 50 分				筆記試験
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅴ「治癒困難な患者の看護」の単元と合わせて 30 時間中 20			

授業要項

	時間以上の出席があること。 2. 本単元の評価 30 点と「治療困難な患者の看護」70 点の合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅴの単位を取得できる。	
関連科目	関連科目	履修時期
	成人看護学概論「慢性的に経過する病態と看護」	1 年後期
	病態論Ⅲ「膠原病・アレルギー系疾患を持つ対象の看護に必要な病態生理、診断、治療についての基礎的知識」	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通し、関連科目の内容を復習しておくこと。	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学「4」血液・造血器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学「11」アレルギー膠原病感染症、医学書院	
受講上のアドバイス	成人看護学で学ぶ範囲は広範囲です。解剖生理学や病態論で学んだことを想起・振り返りながら学習してください。教科書は参考文献を読むだけでは実力はつかないので、じっくり考え時間をかけた学習をしてください。 臨床のがん化学療法認定看護師が授業を行うので、疑問に思ったことなど積極的に質問してください。	
実務経験の内容	がん化学療法認定看護師	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	成人看護学方法論Ⅴ ～治癒困難な患者の看護～	単位数	(1単位)
時期	2年次後期	時間数	15/30時間	講師名	中窪尊子
科目概要		高齢社会や多死社会に対応できる看護職者の育成をめざし、治癒困難な病態にある対象の看護と終末期にある対象の看護を学ぶ。 成人看護学概論で学んだ疾病の経過の特徴をふまえ、看護実践力の強化を図る。			
科目目標		1. 身体防御機能障害をもつ対象の特徴と生命・生活への影響及び看護の方法を理解する。 2. 治癒困難な病態にある対象と看護の特徴及び終末期医療の課題について理解する。 3. 終末期にある対象・家族の心身の反応をふまえて、死の受容過程における看護の役割を理解する。 4. 終末期にある対象にみられる症状と苦痛緩和の援助を理解する。 5. 終末期医療における意思決定支援、チームアプローチの方法を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第1回	ホスピス・緩和ケアについて	1. ホスピス・緩和ケアの歴史 2. 緩和ケアの目的 3. ホスピス・緩和ケアの理念 4. ホスピス緩和ケアの基本方針 5. ホスピス・緩和ケアを提供する形態 6. 日本における緩和ケアの課題			講義
第2回	対象の理解	1. 終末期とは 2. 心身の特徴 3. 療養の場の調整（退院支援活動） 4. 在宅緩和ケアの課題 5. 治療の選択-意思決定-			講義
第3回	生きること 死ぬことについて	1. アドバンス・ケア・プランニング 2. 体験学習			講義 GW
第4回	症状マネジメント	1. 疼痛の看護 2. 痛み以外の症状に対する看護 3. 精神的・社会的・スピリチュアルな苦悩に対する看護			講義
第5回	コミュニケーション・悲嘆	1. エンド・オブ・ライフにおけるコミュニケーション 2. エンド・オブ・ライフにおける意思決定とケア 3. エンド・オブ・ライフ・ケアにおけるチームコミュニケーション 4. 喪失・悲嘆・死別・服喪 5. 悲嘆のアセスメントとケア 6. 看護師自身の悲嘆とケア			講義 GW
第6回	臨死期のケア	1. 臨死期とは 2. 患者・家族が死を迎える準備を整えるために看護師がすべきこと 3. 死が近づいた時期（週～日単位） 4. 死が差し迫った時期（時間単位）			講義

授業要項

		5. 死亡時 6. 臨死期にある患者の急変時の対応	
第7回	エンゼルケア（死後のケア）	1. エンゼルケアとは 2. 知っておきたい基礎知識 3. ご家族の心を癒すエンゼルケア 4. その人らしい表情を作る看護技術（演習）	講義 演習
	終講試験（50点）50分		筆記試験
単位認定の方法		1. 成人看護学方法論Ⅴ「身体防御機能障害看護」の単位と合わせて30時間中20時間以上の出席があること。 2. 本単元の評価50点と「身体防御機能障害看護」50点の合計100点満点中60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは成人看護学方法論Ⅴの単位を取得できる。	
関連科目		関連科目	履修時期
		成人看護学概論「慢性的に経過する病態と看護」	1年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通し、関連科目の内容を復習しておくこと。 講義開始迄に提示する事前課題に事前に取り組み授業に参加すること。	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院. 経過別看護、メディカルフレンド社	
受講上のアドバイス		誰しものが避けられない死について考えるとともに、生きることも考えていきましょう。終末期患者の全人的苦痛を理解し、患者とその家族に対するケアを学びましょう。	
実務経験の内容		看護師 緩和ケア認定看護師	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	老年看護学概論	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	1 5 時間	講師名	松村 治子
科目概要		高齢者には今までの生活歴があり、個々の価値観があることを認識して、老年期の特徴を身体的・心理的・社会的側面で学ぶ。			
科目目標		1. 老化に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化を知り、老年期を生きる人々の特徴を理解する。 2. 老年看護の目標を理解する			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	老いるということ		♦ 高齢者とはどんな人か ♦ ライフサイクルから見た高齢者	講義	
第 2 回	加齢に伴う身体心理社会的変化 1		♦ グループに分かれて加齢に伴う身体・心理・社会的変化のまとめ	演習	
第 3 回	加齢に伴う身体心理社会的変化 2		♦ 高齢者体験 ♦ グループ学習	演習	
第 4 回	加齢に伴う身体心理社会的変化 3		♦ 高齢者体験 ♦ グループ学習	演習	
第 5 回	加齢に伴う身体心理社会的変化 4		♦ 加齢に伴う身体・心理・社会的変化のグループ発表	講義	
第 6 回	老年看護の成り立ち		♦ 老年看護の成り立ちと役割 ♦ 住み慣れた場所で最後までを実現する	講義	
第 7 回	老年看護における理論・概念の活用		♦ 老年看護における理論の活用 ♦ 老年看護に役立つ	講義	
第 8 回	終講試験				
単位認定の方法		1. 15 時間中 10 時間以上の出席があることを単位認定試験の受験資格とする。 2. 学習者としての責任であるグループ学習や演習への参加・協働する姿勢や課題提出状況等も評価の対象とする。 3. 合計 100 点、60 点以上を合格とする。 4. 上記の条件を満たしたものは老年看護学概論の単位を取得できる。			
関連科目		関連科目			履修時期
		看護学概論			1 年前期
		心理学			1 年前期
		解剖生理学			1 年前期
		家族と社会			1 年後期
		公衆衛生学			2 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		医学書院《系統看護学講座 専門分野Ⅱ》老年看護学 医学書院《系統看護学講座 専門分野Ⅱ》老年看護 病態・疾患論			
受講上のアドバイス		高齢者を理解するためには、皆さんが誕生する前の社会生活を理解することや、これからの未来がどのようになるかをイメージすることが必要です。 学習の方法としてグループ学習や、体験学習、講義を計画しています。皆さんの主体的な取り組みを大切にしています。真剣に受講してください。			
実務経験の内容		看護師、専任教員			

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	老年保健	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	1 5 時間	講師名	松村 治子
科目概要		老年人口の増加や社会構造の変化、社会の動きや政策を学習し、高齢者の保健医療福祉の動向をふまえて、看護の役割や高齢者虐待などの今日の課題について考える。また、活動の場に合わせて在宅看護につなげる。			
科目目標		1. 社会構造の変化と老年保健・医療・福祉の動向を理解する。 2. 老年保健・医療・福祉の問題と対策について理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	超高齢社会の統計的輪郭		♦ 超高齢社会の現況 ♦ 保健医療福祉の動向	講義	
第 2 回	高齢者のヘルスプロモーション①		♦ 高齢者の健康とヘルスプロモーション ♦ 老年期の健康の捉え方（ICF モデル） ♦ リロケーションダメージ	講義	
第 3 回	高齢者のヘルスプロモーション②		♦ 介護予防 ♦ フレイル、サルコペニア、ロコモーションシンドローム	講義	
第 4 回	高齢者虐待		♦ 高齢者虐待の概要 ♦ 高齢者虐待の実態と要因 ♦ 高齢者虐待への対応	講義 GW	
第 5 回	身体拘束		♦ 身体拘束	講義	
第 6 回	地域における老年看護		♦ 退院支援、施設看護、家族への看護	講義	
第 7 回	高齢者特有のリスクマネジメント		♦ 高齢者における医療安全 ♦ 高齢者における災害看護	講義 GW	
第 8 回	終講試験				
単位認定の方法		1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること。 2. 学習者としての責任であるグループ学習や演習への参加・協働する姿勢や課題提出状況等も評価の対象とする。 3. 合計 100 点満点、60 点以上合格。 4. 上記の条件を満たしたものは老年保健の単位を取得できる。			
関連科目		関連科目			履修時期
		看護学概論			1 年前期
		心理学			1 年前期
		老年看護学概論			1 年後期
		家族と社会			1 年後期
		在宅看護概論			1 年後期
		在宅ケアシステム論			1 年後期
		社会福祉			2 年前期
		公衆衛生学			2 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			

授業要項

使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 国民衛生の動向
受講上のアドバイス	老年看護学概論で学習した内容を土台に、高齢者が健康に生活するための考え方を学びます。老年看護学概論の復習をし、学習内容を関連科目と結びつけるようにしましょう。
実務経験の内容	看護師、専任教員

授業要項

専門科目Ⅱ		科目	老年看護学方法論Ⅰ	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	30 時間	講師名	松村 治子 村山 芳博 大脇 万喜 米澤 美智代
科目概要		廃用症候群など高齢者に起こりやすい症状とその予防や回復への援助、高齢者への日常生活の援助について学ぶ。			
科目目標		- 健康障害をもつ高齢者の特徴と老化によって起こる問題及び基本的な対応を理解する。 - 老化がもたらす生活への影響を理解し、高齢者を援助するときの基本的技術を習得する。 - 高齢者に多い症状への看護を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	高齢者のヘルスアセスメントと基本動作	- ヘルスアセスメントの基本 - 加齢変化とアセスメント - 基本動作 - 寛ぎ・安心・安全			講義
第 2 回	廃用症候群と転倒のアセスメントと看護	- 廃用症候群とは - 廃用症候群予防 - 転倒転落の発生要因 - 転倒転落の防止			講義
第 3 回	食	- 食生活の状況 - 低栄養			講義
第 4 回	排泄の援助	- 排泄の状況 - 排泄能力の変化に応じた援助			
第 5 回	清潔 1	身だしなみ、入浴行為に伴う危険、口腔ケア、爪のケア			講義
第 6 回	清潔 2	義歯の装着、口腔ケア			演習
第 7 回	清潔 3	爪切り			演習
第 8 回	まとめ	試験・まとめ			試験
第 9 回	高齢者のリハビリテーション 1	- リハビリテーションの基本と実際 - リハビリテーションから見た多職種連携			講義（村山）
第 10 回	高齢者のリハビリテーション 2	- ADL の評価（FIM） ROM 、MMT の理解 - 運動療法（人工股関節置換術後の禁止肢位）良肢位			演習（村山）
第 11 回	高齢者のリハビリテーション 3	- 半身麻痺のある患者の移乗動作 - 階段昇降 - 福祉機器を使用した移動動作（杖、装具）			演習（村山）
第 12 回	高齢者のリハビリテーション 4	- コミュニケーション障害の種類 - コミュニケーション障害への対応			講義（大脇）
第 13 回	高齢者のリハビリテーション 5	- 摂食・嚥下障害 - メカニズム、原因、検査 - 嚥下障害の予防、誤嚥時の対応			講義（大脇）

授業要項

		認知症の摂食障害に対するアプローチ	
第 14 回	症候アセスメントと看護 1	- 褥瘡処置、皮膚の障害 - 褥瘡の発生要因、予防、褥瘡処置	講義（米澤）
第 15 回	症候アセスメントと看護 2	体圧分散寝具・エアマット・ポジショニング	演習（米澤）
単位認定の方法		1. 老年看護学方法論Ⅰの30時間中20時間以上の出席があること。 2. 老年看護学方法論Ⅰ試験80点、参加態度+レポート20点の100点満点で、60点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは老年看護学方法論Ⅰの単位を取得できる。	
関連科目		関連科目	履修時期
		基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1年
		臨床看護論Ⅰ	1年後期
		病態論Ⅲ	2年
		コミュニケーション論	1年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護 病態・疾病論、医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	
受講上のアドバイス		この授業は、老年看護学概論、老年保健を土台にし、高齢者に起こりやすい症状や日常生活の援助について学びます。既習学習の基礎看護学、病態論と関連付けながら、学習を深めましょう	
実務経験の内容		看護師、理学療法士、言語聴覚士、皮膚・排泄ケア認定看護師	

授業要項

専門科目Ⅱ		科目	老年看護学方法論Ⅱ 疾患を持つ高齢者の看護 1	単位数	1 単位
時期	2 年前期	時間数	4 時間／30 時間	講師名	古庄 弘典
科目概要		高齢者に特徴的な疾患をもつ対象の看護や治療・処置を受ける高齢者の看護について学ぶ。			
科目目標		1. 高齢者に多い疾患や健康の段階に応じた看護を理解する。 2. 健康障害をもつ高齢者の医療的援助と看護について理解する。 3. 高齢者の生活の場に応じた看護と地域との連携について理解する。 4. 健康障害のある高齢者の看護問題・援助方法を看護過程の展開を通して理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	老年症候群		♦ せん妄、熱中症、脱水症、発熱 ♦ 浮腫、睡眠障害 ♦ フレイル	講義	
第 2 回	高齢者の疾患の特徴 1		♦ パーキンソン病 病態、症状、治療 ♦ 脳の働きと、認知症 4 疾患の特徴と症状、検査 ♦ 高齢者のうつ	講義	
第 3 回	高齢者の疾患の特徴 2		♦ 心不全、不整脈、高齢者肺炎、閉塞性肺疾患	講義	
第 4 回	高齢者の疾患の特徴 3		♦ 逆流性食道炎、大腸憩室、急性腹症 ♦ 糖尿病、尿路感染症、骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折	講義	
単位認定の方法		1. 老年看護学方法論Ⅱ「疾患を持つ高齢者の看護 2・3」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 「疾患を持つ高齢者の看護 1」20 点「疾患を持つ高齢者の看護 2」20 点「疾患を持つ高齢者の看護 3」60 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは、老年看護学方法論Ⅱの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		家族と社会			1 年後期
		心理学			1 年前期
		社会福祉			2 年前期
		看護過程の基礎			2 年前期
		成人看護学方法論			2 年
		老年看護学概論			1 年後期
		老年看護学方法論Ⅰ			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護 病態・疾病論、医学書院			
受講上のアドバイス		関連各科目を理解しているという前提で講義を実施します。復習をしっかりと行い講義に臨んでください。疾病や症状毎に高齢者の特徴を踏まえながら学習を進め、加齢現象やそれに伴う生活障害への看護につなげましょう。			
実務経験の内容		医師			

授業要項

専門科目Ⅱ		科目	老年看護学方法論Ⅱ 疾患を持つ高齢者の看護 2	単位数	1 単位
時期	1 年次前期	時間数	8 時間/30 時間	講師名	原口 悦江
科目概要		高齢者に特徴的な疾患をもつ対象の看護や治療・処置を受ける高齢者の看護について学ぶ。			
科目目標		1. 高齢者に多い疾患や健康の段階に応じた看護を理解する。 2. 健康障害をもつ高齢者の医療的援助と看護について理解する。 3. 高齢者の生活の場に応じた看護と地域との連携について理解する。 4. 健康障害のある高齢者の看護問題・援助方法を看護過程の展開を通して理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	パーキンソン病・高齢者うつ病の看護		・ パーキンソン病・高齢者のうつ病の看護	講義	
第 2 回	認知症の理解		・ 認知症の症状と看護	講義	
第 3 回	認知症の看護		・ コミュニケーション、自立支援、ユマニチュード	講義	
第 4 回	認知症の看護		・ 家族支援・終末期の看護	講義	
単位認定の方法		1. 老年看護学方法論Ⅱ 単元、合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること。 2. 「疾患を持つ高齢者の看護 1」20 点、「疾患を持つ高齢者の看護 2」20 点、「疾患を持つ高齢者の看護 3」60 点、で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする。 3. 上記の条件を満たしたものは老年看護学方法論Ⅱの単位を取得できる。			
関連科目		関連科目		履修時期	
		老年看護学概論、老年保健		1 年後期	
		老年看護学方法論Ⅰ		2 年前期	
		看護過程「看護過程の展開」「記録の実際」		2 年前期	
		在宅看護学方法論Ⅰ・Ⅱ		2 年前期	
		病態論Ⅱ 脳神経疾患		2 年前期	
		精神看護学概論		1 年後期	
		精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ		2 年前期	
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護 病態・疾病論、医学書院			
受講上のアドバイス		認知症は老年看護の大きな課題です。認知症の正しい理解のうえに、認知症高齢者への症状進行の予防や生活を支える視点について考えましょう。			
実務経験の内容		看護師			

授業要項

専門科目Ⅱ		科目	老年看護学方法論Ⅱ 疾患を持つ高齢者の看護 3	単位数	1 単位
時期	2 年後期	時間数	18 時間／30 時間	講師名	松村 治子
科目概要		高齢者に特徴的な疾患をもつ対象の看護や治療・処置を受ける高齢者の看護について学ぶ。			
科目目標		1. 高齢者に多い疾患や健康の段階に応じた看護を理解する。 2. 健康障害をもつ高齢者の医療的援助と看護について理解する。 3. 高齢者の生活の場に応じた看護と地域との連携について理解する。 4. 健康障害のある高齢者の看護問題・援助方法を看護過程の展開を通して理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	治療を必要とする高齢者の看護 1		♦ 検査を受ける高齢者の看護 ♦ 薬物療法を受ける高齢者の看護	講義	
第 2 回	治療を必要とする高齢者の看護 2		♦ 手術を受ける高齢者の看護	講義	
第 3 回	治療を必要とする高齢者の看護 3		♦ リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ♦ 入院治療を受ける高齢者の看護	講義	
第 4 回	高齢者の終末期の看護		• 生ききることを支えるケア • 意思決定への支援 • 末期段階に求められる援助	講義	
第 5 回	生活・療養の場における看護		• 保健医療福祉施設及び居住施設における看護 • 治療介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 • 多職種連携	講義	
第 6 回	高齢者のリスクマネジメント		• 高齢者と医療安全 • 高齢者と救命救急 • 高齢者と災害	演習	
第 7 回	看護の展開		• 肺炎患者の看護		
第 8 回	看護の展開		• 肺炎患者の看護		
第 9 回	終講試験・まとめ				
単位認定の方法		1. 老年看護学方法論Ⅱ「疾患を持つ高齢者の看護 2」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 学習者としての責任であるグループ学習や演習への参加・協働する姿勢や課題提出状況等も評価の対象とする。 3. 「疾患を持つ高齢者の看護 1」20 点「疾患を持つ高齢者の看護 2」20 点「疾患を持つ高齢者の看護 3」60 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 4. 上記の条件を満たしたものは、老年看護学方法論Ⅱの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		家族と社会			1 年後期
		心理学			1 年前期
		社会福祉			2 年前期
		看護過程の基礎			2 年前期
		成人看護学方法論			2 年

授業要項

	老年看護学概論	1 年後期
	老年看護学方法論Ⅰ	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護 病態・疾病論、医学書院	
受講上のアドバイス	関連各科目を理解しているという前提で講義を実施します。復習をしっかりと行い講義に臨んでください。病気や障害にのみ焦点をあてるのではなく、加齢現象やそれに伴う生活障害を理解し看護を考えていきましょう。	
実務経験の内容	看護師、専任教員	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	小児看護学概論	単位数	1 単位
時期	1 年後期	時間数	1 5 時間	講師名	大磯 陽子
科目概要		小児看護の対象の特性を理解し、小児看護の機能と役割を学ぶ			
科目目標		1. 小児看護の対象と機能及び役割を理解する 2. 小児看護の歴史について理解し、今日の課題について考える礎を作る 3. 子どもの権利と最善の利益を目指した看護について理解する 4. 小児看護で用いられる各理論を理解できる			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	小児看護の特性		◆ 小児看護の対象と目標・場と役割 ◆ 子どもの最善を目指した看護とは	講義	
第 2 回	小児看護の歴史と意義		◆ 小児医療・看護の変遷 ◆ 小児看護の課題：貧困・少子化・複合家族・疾病構造の変化	講義	
第 3 回	子どもの権利と看護		◆ 現代社会・小児医療と小児看護の倫理 ◆ 子どもの権利条約・児童福祉法・児童虐待法・ ◆ 「小児へのアドボケイト（権利擁護者）としての役割」	講義	
第 4 回	これからの小児医療の課題		◆ 子どもの最善の利益と医療と看護：児童虐待の 背景 ◆ 成育医療に対応する看護：デベロップメンタル ケア・地域連携・育成医療 ◆ 小児慢性特定疾患	講義	
第 5 回	多職種との連携		◆ 医療的ケア児と小児専門認定看護師・保育士・チャイルドライフスペシャリスト・特別支援学級教員・養護教諭などについての理解	講義	
第 6 回	小児看護で用いられる理論		◆ セルフケア理論・エリクソンの自我発達理論・ピアジェの認知発達理論・発達課題 ◆ 親子関係論・家族関係論	講義	
第 7 回	生命倫理		◆ 18 トリソミーの養育から生命やインクルーシブ社会について考える	DVD GW	
	終講試験				
単位認定の方法		1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学概論Ⅰの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野：家族と社会			1 年後期
		専門分野Ⅱ：母性看護学概論			1 年後期
		専門分野Ⅱ：母性保健			1 年後期
		専門分野Ⅱ：小児保健			2 年前期
		専門分野Ⅱ：小児看護学方法論Ⅰ			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通す。事後課題は必要時提示			

授業要項

使用テキスト参考文献等	小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院
受講上のアドバイス	この科目は小児看護学の基本となる理論や看護の方向性、小児の権利について学ぶ重要な科目です。この科目から小児保健、小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱへつながり具体的な看護をイメージし、倫理観を持って受講してもらいたい。
実務経験の内容	看護師

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	小児保健	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	1 5 時間	講師名	徳重 和代
科目概要		小児の成長・発達と発達課題を理解し、小児の健やかな成長発達を促すための援助の方法を学ぶ。			
科目目標		1. 小児の成長・発達と発達課題、家族の機能を促進させる看護を理解する。 2. 小児が健康な生活を送る為の健康教育を含めた看護を発達段階に応じて理解する。 3. 小児の特性から予測される事故の要因について理解し、地域の中で、小児の安全を守る看護者の役割について理解する。 4. 子どもを擁護するアロペアレンティングへ向けて、現代の小児保健の課題について理解を深める。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	小児発達総論	- 小児概論の復習 - 発達課題と理論（セルフケア能力に関する知識）			講義
第 2 回	小児の成長・発達策	形態的・機能的・心理社会的発達			講義
第 3 回	小児の成長・発達	栄養・言葉・遊び・遊び・マルトリートメント			講義
第 4 回	小児の発達段階に応じたセルフケア能力への支援 健康増進のための看護	- 乳児期・幼児期・学童期・思春期の特徴をふまえ成長発達をするための看護と課題 - 子どもへの生活支援の方法			講義 GW
第 5 回	小児の発達段階に応じたセルフケア能力への支援 健康増進のための看護	- 乳児期・幼児期・学童期・思春期の特徴をふまえ成長発達をするための看護と課題 - 子どもへの生活支援の方法			GW
第 6 回	子どもの健やかな成長・発達を支える為の看護と課題	- プレゼンテーションの準備 - 媒体の作成・シナリオを作成			GW
第 7 回	子どもの健やかな成長・発達を支える為の看護と課題	グループごとの発表			GW
第 8 回	子どもの健やかな成長・発達を支える為の看護と課題	- グループごとの発表 - 総評・助言・指導			GW
第 9 回	小児保健と法制度 小児の安全対策	- 児童福祉法・虐待防止法・アロペアレンティング - 小児慢性特定疾患・育成医療・養育医療 - 地域包括医療・在宅医療 - 小児の事故			講義
第 10 回	予防接種 学校保健 多職種連携	- 小児の感染症予防・予防接種 - 医療的ケア児に対する保育園・幼稚園・学校の体制 - 養護教諭・特別支援学級・保育園の看護師の役割			講義
第 11 回	侵襲的処置を受ける小児と 家族への看護	- 検査を受ける子どもへの援助 - 小児の反応と対処行動・プレパレーション ディストラクション			講義 DVD
第 12 回	侵襲的処置を受ける小児と 家族への看護	小児に対するプレパレーションについて演習計画書の作成			GW
第 13 回	侵襲的処置を受ける小児と	小児に多い検査処置を取り上げ（マルク・ルンバ			GW

授業要項

	家族への看護	ール・CT・MRI・持続点滴・心電図など) ♦ 演習室でシミュレーション	演習
第 14 回	侵襲的処置を受ける小児と 家族への看護	♦ シミュレーションに対するリフレクションとま とめ ♦ 小児保健のまとめ	GW 講義
第 15 回	まとめ・終講試験	♦ 科目終講試験とまとめ	試験
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは小児保健の単位 1 を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		専門分野Ⅱ：母性保健	1 年後期
		専門基礎分野：公衆衛生学	2 年後期
		専門分野Ⅱ：小児看護学方法論Ⅰ	2 年前期
		専門分野Ⅱ：小児看護学方法論Ⅱ	2 年後期
		専門基礎分野：関係法規	3 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		小児臨床看護各論：医学書院	
受講上のアドバイス		この科目では、小児の発達と生活を支える健康教育をグループで集団指導にまとめ発表する。また医療施設における検査や処置前後の看護について演習をし、発達年齢に応じたコミュニケーションについて学びを深める。各個人がグループワークに積極的に参加し学びを深めてほしい。	
実務経験の内容		看護師	

授業要項

専門基礎分野		科目	小児看護学方法論Ⅰ	単位数	1 単位
時期	2 年前期	時間数	2 4 / 3 0 時間	講師名	溝田 美智代他
科目概要		小児に特徴的な健康障害と疾患について学び、小児看護の基本的対応と観察の視点を深める			
科目目標		1. 小児の健康障害と疾患を理解する。 2. 健康障害のある小児と家族を支援する看護の役割、多職種との連携・協働の必要性について理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	染色体異常・遺伝病		♦ 先天異常		講義
第 2 回	新生児・低出生体重児の疾患		♦ 乳幼児突然死症候群		講義
第 3 回	栄養障害		♦ 骨形成不全		講義
第 4 回	消化器疾患		♦ 腸重積症		講義
第 5 回	呼吸器疾患		♦ 気管支喘息		講義
第 6 回	循環器疾患		♦ ファロー四徴症		講義
第 7 回	血液疾患・悪性新生物		♦ 急性リンパ球性白血病		講義
第 8 回	腎・泌尿器疾患		♦ ネフローゼ		講義
第 9 回	代謝・内分泌・膠原病		♦ 川崎病		講義
第 10 回	アレルギー疾患・免疫疾患・リウマチ疾患		♦ アトピー性皮膚炎		講義
第 11 回	感染症・神経・筋疾患		♦ 小児感染症・学校感染症		講義
第 12 回	運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉科		♦ 先天性股関節脱臼		講義
	終講試験（100 点）50 分				筆記試験
単位認定の方法		1. 小児看護学方法論Ⅰ「小児看護過程」の単元と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学方法論Ⅰの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野：家族と社会			1 年後期
		専門分野Ⅱ：母性看護概論			1 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論、医学書院.			
受講上のアドバイス		この科目は小児看護の基本となる疾患の理解と、施設や在宅、外来に於ける看護をイメージできることで、小児看護学実習につなげることを目的としている			
実務経験の内容		小児科医			

授業要項

専門基礎分野		科目	小児看護学方法論Ⅰ	単位数	1 単位
時期	2 年前期	時間数	6 / 3 0 時間	講師名	大磯 陽子
科目概要		小児に特徴的な健康障害と疾患について学び、小児看護の基本的対応と観察の視点を深める			
科目目標		1. 小児の健康障害と疾患を理解する 2. 健康障害のある小児と家族を支援する看護の役割、多職種との連携・協働の必要性について理解する 3. 小児看護を展開する看護技術を理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	小児看護過程 情報収集 アセスメント		♦ 「急性白血病患児」の事例を使用して情報の収集・整理・アセスメント		講義 GW
第 2 回	小児看護過程 関連図・問題点		♦ 「急性白血病患児」の事例を使用しての関連図、看護問題の抽出		講義 GW
第 3 回	小児看護過程 看護計画		♦ 「急性白血病患児」の事例を使用して問題点に対する看護計画		講義 GW
単位認定の方法		1. 小児看護学方法論Ⅰ他の単位と合わせて 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 小児看護学方法論Ⅰ 24 時間分の終講試験で 100 点中 60 点以上であること。 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学方法論Ⅰの単位を取得できる 4. この単位は筆記試験なし			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野：家族と社会			1 年後期
		専門分野Ⅱ：母性看護概論			1 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論、医学書院。			
受講上のアドバイス		この科目は健康障害をもつ小児とその家族の看護問題・援助方法を看護過程の展開を通して理解し、小児看護学実習につなげることを目的としている為、イメージを広げながら学んで欲しい			
実務経験の内容		小児看護学担当 専任教員、看護師			

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	小児看護学方法論Ⅱ	単位数	1 単位
時期	2 年次後期	時間数	1 2 / 3 0 時間	講師名	梶野 恵美子
科目概要		健康障害のある小児の経過別・状況別に応じた家族を含めた看護の方法について理解する。			
科目目標		1. 急性期にある子どもと家族の看護について理解する。 2. 慢性期にある子どもと家族の看護について理解する。 3. 心身障害をもつ子どもと家族の看護について理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	急性期にある子どもと家族の看護		♦ 急性期にある子どもの特徴と看護の要点 ♦ 急性期にある家族の支援 ♦ 発熱、不機嫌、発疹、予後不安など川崎病の症例を用いて	講義	
第 2 回	急性期にある子どもと家族の看護		♦ 嘔吐、下痢、脱水などロタウイルス胃腸炎の症例を用いて ♦ 生命徴候が危険な状況のアセスメント	講義	
第 3 回	急性期にある子どもと家族の看護		♦ 呼吸困難、呼吸窮迫など RS ウイルス感染症の症例を用いて	講義	
第 4 回	慢性期にある子どもと家族の看護		♦ 慢性期にある子どもの特徴と看護の要点 ♦ セルフケア能力を育てる援助 ♦ 発達危機を乗り越える援助 ♦ 患児への教育指導 ♦ 慢性疾患をもつ家族の支援 ♦ 社会資源とサポートシステム	講義	
第 5 回	慢性期にある子どもと家族の看護		♦ 気管支喘息、ネフローゼ症候群の症例を用いて	講義	
第 6 回	心身障害をもつ子どもと家族の看護		♦ 心身障害をもつ子どもの特徴と看護の要点 ♦ 家族の受容過程と家族の援助 ♦ 障害児の地域支援体制 ♦ 小児在宅医療の現状と課題	講義	
	終講試験（40 点）30 分			筆記試験	
単位認定の方法		1. 小児看護学方法論Ⅱ 合計 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学方法論Ⅱの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野： 家族と社会			1 年後期
		専門分野Ⅱ： 母性看護概論 小児方法論Ⅰ			1 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		小児臨床看護各論： 医学書院			
受講上のアドバイス		この科目は小児看護学方法論Ⅰの知識の上に具体的小児看護の展開法について学びます。発達段階や疾病の段階に応じた看護のイメージができるよう復習が必要です。重要なポイントを自らノートにまとめていくと理解が定着すると思います			
実務経験の内容		看護師 こども病院看護部長			

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	小児看護学方法論Ⅱ	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	8 / 3 0 時間	講師名	高塚 聖子
科目概要		小児看護に必要な基本的看護技術を取得し、健康障害のある小児の経過別・状況別に応じた家族を含めた看護の方法について理解する。			
科目目標		1. 治癒困難な病態にある子どもと家族の看護について理解する。 2. 小児のターミナルケアについて理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	治療困難な小児の看護		♦ 隔離されている小児の看護・ボディーイメージ変容への援助	講義	
第 2 回	小児のターミナルケア		♦ 子どもの死の概念発達・終末期にある子どもと家族の心理	講義	
第 3 回	小児のターミナルケア		♦ 終末期にある子どもの身体徴候	講義	
第 4 回	小児のターミナルケア		♦ 緩和ケア・終末期にある子どもの家族の援助：事例にそって	講義	
	終講試験（20 点）30 分			筆記試験	
単位認定の方法		1. 小児看護学方法論Ⅱ 合計 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 小児看護学方法論Ⅱ の筆記試験合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学方法論Ⅱ の単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野： 家族と社会			1 年後期
		専門分野Ⅱ：母性看護概論			1 年後期
		専門分野Ⅱ：小児方法論Ⅰ			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		小児臨床看護各論： 医学書院			
受講上のアドバイス		この科目は小児看護学方法論Ⅰの知識の上に具体的小児看護の展開法について学びます。発達段階や疾病の段階に応じた看護のイメージができるよう復習が必要です。重要なポイントを自らノートにまとめていくと理解が定着すると思います			
実務経験の内容		看護師 鹿児島こども看護ステーション勤務			

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	小児看護学方法論Ⅱ	単位数	1 単位
時期	2 年次後期	時間数	10 / 30 時間	講師名	田畑 真実
科目概要		小児看護に必要な基本的看護技術を習得し、健康障害のある小児の経過別・症状別に応じた家族を含めた看護について理解する。			
科目目標		1. 手術を受ける子どもと家族の看護について理解する。 2. 小児看護に必要な基本的看護技術を習得する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	周手術期の子どもと家族の看護 ①周手術期の特徴		♦ 小児期の手術の特徴・手術の時期と種類 ♦ 手術を受ける子どもの反応	講義	
第 2 回	周手術期の子どもと家族の看護 ②子どもと家族の看護		♦ 手術前、中、後の看護 ♦ 手術を受ける子どもの家族への看護	講義	
第 3 回	子どものアセスメント		♦ コミュニケーション・バイタルサイン ♦ 小児のフィジカルアセスメント ♦ プレパレーション、ディストラクション	講義	
第 4 回	子どものアセスメント		♦ 幼児に対するフィジカルアセスメントの事例に従い演習	講義 演習	
第 5 回	子どものアセスメント 終講試験（40 点）30 分		♦ 小児のフィジカルアセスメントのまとめ ♦	講義 筆記試験	
単位認定の方法		1. 小児看護学方法論Ⅱ 合計 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは小児看護学方法論Ⅱの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎分野： 家族と社会			1 年後期
		専門分野Ⅱ：母性看護概論			1 年後期
		専門分野Ⅱ：小児方法論Ⅰ			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		小児臨床看護概論小児臨床看護総論： 小児看護学①： 医学書院 小児臨床看護各論： 医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術： 医学書院			
受講上のアドバイス		この科目は小児看護学方法論Ⅰの知識の上に具体的小児看護の展開法について学びます。発達段階や疾病の段階に応じた看護のイメージができるよう復習が必要です。重要なポイントを自らノートにまとめていくと理解が定着すると思います			
実務経験の内容		看護師 専任教員 小児看護学担当			

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	母性看護学概論	単位数	1 単位
時期	1 年後期	時間数	1 5 時間	講師名	市成 加代子
科目概要		変化する社会における、女性の特性やライフサイクルにそった、リプロダクティブヘルス/ライツについて理解する。性の多様性、生命倫理、母性、父性の理解の元母性看護の機能と役割について学ぶ。			
科目目標		1. 母性の概念と母性看護の意義・役割に付いて理解する。 2. 妊娠の成立とその過程に必要な身体の発育と生殖機能について理解する。 3. 対象としての人間を大きく捉え、セクシャリティとジェンダー、性の多様性を理解する。 4. 女性の生涯を通じた健康の保持・増進の観点でリプロダクティブヘルス/ライツを世界的な視点から歴史を振り返る。 5. 母性のライフサイクルと身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 6. 生命誕生と次世代育成を援助する看護者としての倫理を養う			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1. 母性看護学及び母性概論の科目概要 2. 母性看護に関する歴史的背景 3. 母性看護の対象と社会変遷と現状			講義
第 2 回	リプロダクティブヘルツ/ライツの理解	1. リプロダクティブヘルツ/ライツと歴史的背景 2. 母性看護の概念、母性、父性、母性の獲得 3. 母性の身体的・心理的・社会的特徴・愛着・母子相互関係			講義 DVD
第 3 回	母性看護の対象理解	1. 内性器、外性器の解剖の理解 2. 性周期の仕組み、基礎体温			講義
第 4 回	家族の看護	1. 母子関係と家族の発達 2. 母性看護の在り方			講義
第 5 回	セクシャリティの概念	1. ジェンダー 2. 性の多様性			講義
第 6 回	母性看護における生命倫理	1. 母性看護における生命倫理 2. 生殖医療・出生前診断・倫理的意思決定・胎児の生存権			講義 DVD
第 7 回	様々な場面での母子看護	1. 災害時における母子への影響と看護 2. 地域包括医療・次世代育成包括センター			講義
単位認定の方法		1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは母性看護学概論Ⅰの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		母性保健：母子保健統計・母子保健施策・集団指導			1 年後期
		家族と社会：家族社会学の基礎・子供の養育と社会化・変わる家族			1 年後期
		母性看護方法論Ⅰ：母性各期における正常な経過に対する看護			2 年前期
		母性看護学方法Ⅱ：ハイリスクの看護、ウエルネスの看護過程			2 年後期
		小児方法論Ⅰ：新生児・低出生時体重児の疾患・染色体異常			2 年後期

授業要項

事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通す。事後課題は必要時提示
使用テキスト参考文献等	母性看護学概論： 医学書院 母性看護学各論： 医学書院
受講上のアドバイス	この科目は母性看護学の基本となる理論や看護の方向性、女性の権利について学ぶ重要な科目です。母性看護の対象は母親とその子供のみならず、女性の各ライフステージや、その女性を取り巻く家族や社会を含めた対象であることを理解して欲しい。また、近年の社会の変化に伴う性の問題や、災害時での看護など、社会でのトピックスを踏まえた講義展開も想定しているので、新聞やニュースなどの社会情勢に、普段の生活に中でも関心を持って臨んで欲しい。 さらに、この科目から母性保健、母性看護学方法論Ⅰ、Ⅱへつながる。具体的な看護をイメージし、生命倫理について考える時間にして欲しい。
実務経験の内容	助産師 10 年以上、専任教員 5 年以上

授業要項

専門基礎分野		科目	母性保健	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	30 時間	講師名	市成 加代子
科目概要		母性各期の特徴を捉え、母性を取り巻く社会の現状と健康問題を知る。また女性のライフサイクルと家族の発達に沿った母性保健活動について理解する。			
科目目標		1. 母性保健の現在を取り巻く法、行政、制度から母性領域における多職種との連携および地域包看護について理解する。 2. 母性各期の特性を捉え、健康の保持・促進のための健康教育の必要性を理解する。 3. 母性を取り巻く社会の現状と健康問題及び課題を理解する 4. 女性のライフサイクルと家族の発達との関連から家族への看護を理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	科目の概要と歴史		1. 母性保健を学ぶ意義について 2. 母性保健の学習目標 3. 母性保健に関する歴史 4. 母性保健に関する社会の動向		講義
第 2 回	母性領域における法と制度		1. 母性保健に関する組織について 2. 母性保健に関する法律について 3. 母性保健に関する施策と公的サービス		講義
第 3 回	女性のライフステージにおける看護 1		1. 思春期の健康と看護 2. 成熟期の健康と看護		講義
第 4 回	女性のライフステージにおける看護 2		1. 更年期の健康と看護 2. 老年期の健康と看護		講義
第 5 回	リプロダクティブヘルスケア 1		1. 家族計画 2. 性感染 3. 人工妊娠中絶		講義
第 6 回	リプロダクティブヘルスケア 2		1. 喫煙 2. 性暴力		講義
第 7 回	リプロダクティブヘルスケア 3		1. 児童虐待 2. 国際化		講義 DVD
第 8 回	女性の生涯にわたる健康教育		1. ヘルスプロモーションの考え方 2. ヘルスプロモーションのための看護技術 3. 女性の意思決定への支援		講義 演習
第 9 回	健康教育・保健指導 1		1. 集団指導演習オリエンテーション 2. 情報の取り扱い 3. テーマ、指導内容の選択 4. 指導案・媒体作成		演習
第 10 回	健康教育・保健指導 2		指導案・媒体作成		演習

授業要項

第 11 回	健康教育・保健指導 3	指導演習の準備、プレ指導	演習
第 12 回	健康教育・保健指導 4	指導演習の準備、プレ指導	演習
第 13 回	健康教育・保健指導 5	集団指導実施	演習
第 14 回	健康教育・保健指導 6	集団指導実施	演習
第 15 回	筆記試験、まとめ		講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 筆記試験、集団指導得点、レポート得点の合計 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは母性保健の単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		母性看護概論：母子相互作用・アタッチメント・母性・親性	1 年後期
		家族と社会：家族社会学の基礎・子供の養育と社会化・変わる家族	1 年後期
		母性看護方法論Ⅰ：母性各期における正常な経過に対する看護	2 年前期
		母性看護学方法論Ⅱ：ハイリスクの看護・ウェルネスの看護過程	2 年後期
		小児方法論Ⅰ：新生児・低出生時体重児の疾患	2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		母性看護学概論：医学書院 国民衛生の動向	
受講上のアドバイス		この授業は、母性各期の対象の現状の問題と対象を支援するための根拠となる法制度と、行政による施策やサービスを学び、女性各期のライフステージに応じた切れ目のない看護とはどのようなものかを学ぶ科目である。 そのため、女性のライフサイクルにおける健康課題を理解し、女性のリプロダクティブヘルス/ライツについて捉える。この問題は社会の情勢により、傾向や注目される課題が刻々と変化しているため、タイムリーな事例や統計を取り入れながら考える機会としたい。 また、対象がリプロダクティブヘルスケアを健全に履行できるための看護師の役割である集団指導をグループワークで考え、実践する。学生の柔軟なアイデアを出し合いながら、対象に有効な集団指導を行って欲しい。	
実務経験の内容		助産師、専任教員（母性看護学担当）	

授業要項

専門科目Ⅰ		科目	母性看護学方法論Ⅰ	単位数	1 単位
時期	2 年前期	時間数	30 時間	講師名	田畑真実
科目概要		妊娠期（胎児）から分娩・産褥及び新生児期までの正常な経過を理解し、対象の経過に応じた看護実践能力の基礎を学ぶ。 また、新しい家族の誕生期において様々な役割変化する家族の発達と看護を学習する。			
科目目標		1. 妊娠・分娩・産褥及び新生児の経過とアセスメントに基づく看護を理解する 2. 新しい家族の誕生期において様々な役割変化を遂げる家族の発達と看護を理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	妊娠期の看護		1. 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性 2. 胎児の発育と生理		DVD 講義
第 2 回	妊娠期の看護		1. 妊婦と胎児のアセスメント（診断・検査・胎児の発育・妊婦健康診査・レオポルド触診法・子宮底と腹囲の変化）		
第 3 回	妊娠期の看護		1. 妊婦と家族の看護 母子保健サービス・準備教育		
第 4 回	妊婦体験		1. 妊婦ジャケットを着用して、妊婦を体感する 2. 妊婦健診の流れをシミュレーションし、保健指導をイメージさせる。		演習
第 5 回	分娩期における看護		1. 分娩の要素・分娩の経過（産婦の身体・心理・社会的変化） 2. 産婦と家族の看護		講義 DVD
第 6 回	分娩第 1 期の看護		1. 産婦の身体・心理・社会的特徴と看護の実際（バースプラン・分娩時の環境調整・アロマセラピー・産痛緩和） 2. 産婦・胎児・家族のアセスメント・CTG・呼吸法		講義 DVD
第 7 回	分娩第 2 期 3 期の看護		1. 産婦の身体・心理・社会的特徴と看護の実際 2. 効果的な努責 3. アプガースコア・子宮外適応へ向けての看護 4. 成熟徴候・外表奇形・シルバーマンスコア 5. 胎盤剥離徴候 6. 子宮の復古		講義 DVD
第 8 回	分娩第 4 期の看護		1. 産婦の身体・心理・社会的特徴と看護の実際 2. 早期母子接触・母子愛着形成・子宮外適応への看護 3. 胎盤診査・胎児付属物のアセスメント子宮復古促進		DVD 講義
第 9 回	産褥期の看護		1. 産褥経過・心理・社会的変化・バースレビュー 2. 褥婦のアセスメント・退行性変化と進行性変化 日齢による母子の変化 3. 褥婦と家族の看護（上の子ども・夫への対応）		DVD 講義
10 回	産熟期の看護		1. 進行性変化・育児にかかわる看護 母乳栄養ポジショニングとラッチオン 2. 乳房の自己管理		DVD 講義

授業要項

第 11 回	産褥期の看護	1. 身体機能の回復への看護 褥婦のセルフケア不足に対する看護（休息・活動・産褥体操・排泄・清潔）	DVD 講義
第 12 回	新生児の看護	1. 新生児の生理・胎児循環から体循環へ 2. 生理的变化の日齢による変化 3. 新生児のアセスメントと看護、k2 シロップ、点眼	DVD 講義
第 13 回	新生児の看護	1. 新生児の健康状態のアセスメント（バイタルサイン測定・ミノルタ測定） 2. フィジカルアセスメント、聴力検査、タンデム検査 3. 褥婦への育児指導（清潔・健康管理）	DVD 演習
第 14 回	地域包括ケアシステム	1. 2 週間健診、1 か月健診、 2. 新生児訪問、多職種連携、産後ケア、母乳外来、子育て世代包括センター 3. 育児不安（マタニティブルー）と育児支援、職場復帰	DVD 講義
第 15 回	終講試験 まとめ	終講試験、まとめ	試験
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 100 点満点、60 点以上を合格とする 上記の条件を満たしたものは母性看護学方法論Ⅰの単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		母性看護概論：母子相互作用・アタッチメント・母性・親性	1 年前期
		家族と社会：家族社会学の基礎・子供の養育と社会化・変わる家族	1 年後期
		小児方法論Ⅰ：新生児・低出生時体重児の疾患・	2 年後期
		母性看護学方法論Ⅱ：ウエルネスの看護過程・ハイリスクの看護	2 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通す。事後課題は必要時提示	
使用テキスト 参考文献		母性看護学各論：医学書院 マタニティ診断第 4 版：医学書院 母性看護学概論：医学書院	
受講上のアドバイス		この科目は母性看護学の基本となる理論や看護の具体性、母子の権利について学ぶ重要な科目です。この科目から、母性看護学方法論Ⅱで、ウエルネスの看護について学び、母性看護学実習につなげる。講義の単元が多く、新たなキーワードとなる理論と基準値を復習なしで定着させることは難しい。研修や自宅学習で講義内容の習熟に努めていただきたい。	
実務経験の内容		専任教員（母性看護学担当）	

授業要項

専門基礎分野		科目	母性看護学方法論Ⅱ	単位数	1 単位
時期	2 月年後期	時間数	3 0 時間（内 16 時間）	講師名	宇都 沙智子 他
科目概要		妊娠・分娩・産褥経過中に見られる異常、妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児に起こる問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ			
科目目標		1. ハイリスク妊娠、妊娠中に注意すべき感染症、HDP などの疾患、流早産などの妊娠異常について、その要因と看護について学ぶ 2. 分娩の 3 要素における異常、分娩時の損傷、産科処置など、分娩経過における異常について、その要因と看護について学ぶ 3. 新生児仮死、分娩時外傷、低出生体重児、高ビリルビン血症などの新生児異常と管理、看護について学ぶ 4. 子宮復古不全、発熱、乳房トラブル、産褥期の精神異常など産褥期の問題とその看護及び、継続看護のあり方について学ぶ			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	妊娠の異常と看護 1		1. ハイリスクのとらえ方（高齢、生活習慣等） 2. 合併症妊娠	講義 DVD	
第 2 回	妊娠の異常と看護 2		1. 妊娠に関連する感染症 2. 妊娠疾患（妊娠悪阻、HDP、血液型不適合妊娠）	講義	
第 3 回	妊娠の異常と看護 3		1. 多胎妊娠 2. 流産、早産、過期妊娠、切迫早産 3. 異所性妊娠	講義	
第 4 回	分娩の異常と看護 1		1. 産道の異常 2. 陣痛の異常（微弱陣痛、過強陣痛と陣痛誘導、促進） 3. 胎位、胎向、回旋の異常	講義	
第 5 回	分娩の異常と看護 2		1. 胎盤の異常（前置胎盤、低置胎盤、常位胎盤早期剥離、羊水の異常） 2. 産科処置（会陰切開、吸引分娩、骨盤位）と分娩時損傷（頸管裂傷、会陰裂傷） 3. 分娩時異常出血	講義	
第 6 回	産褥期の異常と看護		1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 3. 乳房トラブル 4. 精神障害（産後うつと産褥精神病）	講義	
第 7 回	新生児の異常と看護		1. 新生児仮死 2. 低出生体重児 3. ディベロップメンタルケアとファミリーケア 4. 児をなくした家族の看護	講義	
第 8 回	新生児の異常と看護		1. 高ビリルビン血症 2. ビタミン K 欠乏性出血 3. 分娩時外傷	講義	
単位認定の方法		1. 他の教員の 14 時間と合わせて 30 時間のうち 24 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 50 点と、他の教員の 50 点を合わせて 100 点満点中 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは母性看護学方法論Ⅱの単位を取得できる			

授業要項

	関連科目	履修時期
関連科目	母性看護概論：母子相互作用、アタッチメント、母性、親性、生命倫理	1年後期
	母性保健：女性のライフサイクルにおける看護、人工妊娠中絶 児童虐待、DV、女性のうつ、意思決定の支援	1年後期
	母性方法論Ⅰ：妊娠期（胎児）から、分娩・産褥・新生児期の正常な経過と看護	2年前期
	家族と社会：家族社会学の基礎、こどもの養育と社会、変わる家族	1年後期
事前・事後学習	母性看護方法論Ⅰで学んだ正常な経過をもとに、各回の内容について事前に復習をしてから授業に臨むこと。授業ごとに、実習の事前学習としても捉え、まとめを行っていくこと。	
使用テキスト 参考文献等	母性看護学各論：医学書院. マタニティ診断：医学書院.	
受講上のアドバイス	この授業は、母性看護概論、母性保健で学んだ知識を基礎とする。さらに母性看護学方法論Ⅰで、多くの妊娠・分娩・産褥・新生児がたどる正常な経過を学ぶので、上記の主題に関連する内容を復習したうえで受講する必要がある。そして母性看護学方法論Ⅱでは、リスクから生じる今後の問題を予測した予防的関わりや指導を学び、経過の中で異常に転ずる可能性をだれでも秘めていることを理解して欲しい。その中で、生命誕生にかかわる看護職として、倫理的感性を持ち、多様な命の始まりがあることを知り、主役である対象の意思決定支援や、豊かな感性と専門的知識を学び、慈愛の心についても考える機会にしてほしい。講師は臨床で活躍中の助産師であり、講師の体験からも学ぶことができる科目である。	
実務経験の内容	臨床助産師	

授業要項

専門基礎分野		科目	母性看護学方法論Ⅱ	単位数	1 単位
時期	2 年次後期	時間数	30 時間（内 14 時間）	講師名	市成 加代子
科目概要		周産各期に対応した看護過程と看護実践能力の基本を学ぶ			
科目目標		1. 母性看護を展開するうえで必要な基本的看護技術を習得する。 2. 妊婦・褥婦・新生児のウェルネス型看護診断を活用した看護過程について理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	妊婦、褥婦、新生児の看護に必要な看護技術	1. 妊婦の腹囲・子宮底の測定・レオポルド触診 胎児モニタリング装着（復習） 2. 新生児の抱き方、寝かせ方、新生児のフィジカルアセスメント、沐浴			講義 DVD
第 2 回	沐浴	モデル人形による沐浴の実施（妊婦への技術）			演習
第 3 回	沐浴	モデル人形による沐浴の実施（妊婦への技術）			演習
第 4 回	母性看護における看護過程の特徴と妊娠期の看護過程	1. ウェルネスに視点を置いた看護の考え方 2. 妊娠期のアセスメント			
第 5 回	分娩期の看護過程	分娩期のアセスメント、目標、計画			講義・演習
第 6 回	産褥期の看護過程	産褥期のアセスメント、目標、計画			講義・演習
第 7 回	新生児期の看護過程	新生児期のアセスメント、目標、計画			講義・演習
単位認定の方法		1. 他の教員の 16 時間と合わせて 30 時間のうち 24 時間以上の出席があること 2. 看護技術に対するレポートと、看護過程の計 50 点と他の教員の 50 点を合わせて 100 点満点中 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは母性看護学Ⅱの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		母性看護概論：リプロダクティブヘルス/ライツ母子相互作用、アタッチメント、母性、親性、生命倫理			1 年前期
		母性保健：女性のライフサイクルにおける看護、人工妊娠中絶 児童虐待、DV、女性のうつ、意思決定の支援			1 年後期
		家族と社会：家族社会学の基礎・子供の養育と社会化・変わる家族			1 年後期
		母性方法論Ⅰ：妊娠期（胎児）から分娩期、産褥期、新生児期の正常な経過と看護、ウェルネスの視点			
		小児方法論Ⅰ：新生児・低出生時体重児の疾患・染色体異常			2 年後期
事前・事後学習		看護技術：母性方法論Ⅰで学んだ正常に経過していく対象への看護について、事前に復習し、テキストの画像等を参考にイメージトレーニングして臨むこと。 看護過程：母性方法論Ⅰで学んだ正常な経過および母性方法論Ⅱのハイリスクを対象とする看護について基本的な知識を活用しアセスメントできるよう復習しておくこと。			
使用テキスト 参考文献等		母性看護学各論：医学書院 マタニティ診断：医学書院 母性看護学概論：医学書院			
受講上のアドバイス		この授業では、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱの講義で学んだ知識をもとに、実習の際、臨床で用いる必修の技術と看護の考え方を学ぶ講義である。 母性看護学実習の対象は、日々変化をするが言葉で体調を表現できない新生児			

授業要項

	や、ダイナミックな身体的・社会的、精神的変化の渦中にある妊婦・産婦・褥婦ある。その対象に、その時に必要な看護を提供するためには、事前の情報を的確にアセスメントする能力と、ケアの際対象に侵襲を与えず安心・安楽で正確な技術を身につけておく必要がある。また、その基盤となるものは、倫理的感性に基づく気づきが必要であるため、関連科目で学んだ生命倫理、看護倫理や自己の生命観や母性観を鑑みながら新たな知識・技術・思考を表現して欲しいと考える。
実務経験の内容	助産師 10 年以上、専任教員 5 年以上

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	精神看護学概論	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	15 時間	講師名	兼石 彰
科目概要		精神看護学は人間の心理と行動理解のための基礎となる。精神看護学概論では、ライフサイクルにおける精神の健康について考え、精神看護の意義・目的を理解し、看護の対象と機能、役割について学ぶ。			
科目目標		1. 精神看護学の基本的な考え方を学ぶ。 2. 精神の健康概念について学ぶ。 3. 精神看護の対象と機能、役割について学ぶ。 4. 社会変化に伴う精神医療の変遷と精神保健、医療の現状を理解し、今後の精神看護のあり方について学ぶ。			
回数	主題	学習内容		履修形態	
第 1 回	精神看護学の基本的な考え方	◆ 精神看護学とは		講義	
	精神看護学で何を学ぶのか	◆ 個別性と普遍性 ◆ 人と人との関係性の理解 ◆ 精神看護学の基本的な考え方			
第 2 回	精神障害の捉え方	◆ 精神を病むということは ◆ 疾患と病について ◆ 精神に障害を有する患者に I C F モデルを用いた支援方法		講義	
第 3 回	精神看護の対象・機能・役割	◆ 精神看護の対象とは ◆ ナラティブの重要性 ◆ 精神に障害を抱える対象の強み ◆ リカバリーストレngths、レジリエンス、イニシアティブ ◆ エンパワメントを意識した看護 ◆ ドロセア・オレムが説明するセルフケア理論とは ◆ ドロセア・オレム・アンダーウッド理論 ◆ 権利擁護とソーシャルインクルージョン		講義	
第 4・5 回	精神医療・保健・福祉の変遷	◆ 精神看護の役割 ◆ 精神医療・看護の歴史・人権・倫理 ◆ 隔離・身体拘束 ◆ 通信・面会・電話制限 ◆ 自己価値・尊厳・自己肯定感 ◆ 社会的入院 ◆ 精神保健医療福祉の改革ビジョン		講義	
第 6 回	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）	◆ 精神保健福祉法による入院形態 ◆ 精神保健指定医の役割		講義	
第 7 回	精神看護の在り方	テーマ「精神を病む対象に行う看護」		GW	
第 8 回	終講試験 1 0 0 点（5 0 分）				
単位認定の方法		1. 精神看護学概論 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 精神看護学概論 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学概論の単位を取得できる			

授業要項

関連科目	関連科目	履修時期
	精神保健	1 年後期
	精神看護学方法論Ⅰ	2 年前期
	精神看護学方法論Ⅱ	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院	
受講上のアドバイス	この科目では、看護師として精神看護を行う上で重要となってくる視点・考え方を学び、精神に障害を抱える人たちに対して世間はどのような関わりを行ってきたのか歴史の変遷も踏まえながら学習していきます。また、精神に障害を抱える人たちに接する際に必要となってくる法律の理解もこの科目で学習していきます。精神に障害を抱える人たちへの理解について共に学んでいきましょう。	
実務経験の内容	看護師 専任教員（精神看護学担当）	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	精神保健	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	9/15 時間	講師名	兼石 彰
科目概要		現代はストレス社会と言われ、精神の健康が障害されることが多い現代社会では、精神の健康を保持・増進することがより求められる。精神保健の意義や目的・精神の発達についての理解、ライフステージにおける発達課題と各期の精神保健問題及びその対応、多職種との連携・協働の必要性について学ぶ。			
科目目標		1. 心の理論を活用してストレスが心身に及ぼす影響を考え、精神の健康のために精神障害の早期発見・早期介入が重要であることを理解する。 2. ライフステージにおける発達課題について理解する。 3. 人格、知能、自我の確立などの観点から精神の発達を捉えられる。 4. 精神看護の特性とその仕事看護師自身にもたらす影響を理解する。 5. 精神障害者の地域生活を支える社会制度とその基盤となる考え方、多職種との連携・協働の重要性を理解する。			
回数	主題	学習内容		履修形態	
第 1 回	精神の健康の概念	♦ 精神の健康の定義 ♦ 精神障害の一次予防・二次予防・三次予防		講義	
	危機(クライシス)	♦ 精神保健における危機 ♦ 危機(クライシス)の概念 ♦ 危機(クライシス)の予防 ♦ 危機介入 ♦ ストレスと対処			
第 2 回	各ライフステージにおける発達課題について理解	♦ 発達課題を達成していくなかでのこころへの影響		講義 GW	
	自殺念慮・自殺企図がある対象への理解	♦ 自殺者の年次推移、自殺対策・自殺対策基本法 ♦ 自殺問題とメンタルヘルス			
第 3 回	心の機能と発達	♦ 自我の機能 ♦ 防衛機制 ♦ 精神力動理論		講義	
第 4 回	災害時の地域における精神保健医療活動	♦ 災害時の精神保健医療看護 ♦ 災害時の精神保健に関する初期対応 ♦ 災害時の精神障害者への治療継続		講義	
	精神の健康のマネジメント	♦ リエゾン精神看護			
	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	♦ 看護師の不安と防衛 ♦ 感情労働としての看護 ♦ 看護師の感情ワーク ♦ 看護における共感の光と影 ♦ 感情労働の代償と社会			
第 5 回	終講試験 60 点 (50 分)				
単位認定の方法		1. 精神保健 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 精神保健 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学概論の単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期

授業要項

	心理学	1 年前期
	公衆衛生学	2 年後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院	
受講上のアドバイス	この科目では、精神の健康について考え、人間が成長していくなかで出会う危機とどのようにして向き合っていくかを学びます。また、人間が各発達課題を達成していく中で生じる危機について学び、その危機に対処できなかった際にどのような精神的不調をきたすか学んでいきます。第 4 回目の講義では看護師のメンタルヘルスについても学んでいきます。看護師にとって自己の感情をコントロールし看護を行っていくことはとても重要となるので関心を寄せ授業に参加してください。	
実務経験の内容	看護師 専任教員	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	精神保健	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	6/15 時間	講師名	赤塚 広泰
科目概要		現代はストレス社会と言われ、精神の健康が障害されることが多い現代社会では、精神の健康を保持・増進することがより求められる。精神保健の意義や目的・精神の発達についての理解、ライフステージにおける発達課題と各期の精神保健問題及びその対応、多職種との連携・協働の必要性について学ぶ。			
科目目標		1. 心の理論を活用してストレスが心身に及ぼす影響を考え、精神の健康のために精神障害の早期発見・早期介入が重要であることを理解する。 2. ライフステージにおける発達課題について理解する。 3. 人格、知能、自我の確立などの観点から精神の発達を捉えられる。 4. 精神看護の特性とその仕事看護師自身にもたらす影響を理解する。 5. 精神障害者の地域生活を支える社会制度とその基盤となる考え方、多職種との連携・協働の重要性を理解する。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	社会資源の活用とケアマネジメント	・ 障害者総合支援法 ・ 自立支援給付 ・ 介護給付 →短期入所(ショートステイ) ・ 訓練等給付 ・ 就労移行支援 ・ 就労継続支援(A型・B型) ・ 共同生活援助(グループホーム) ・ 自立支援医療費 ・ 補装具 ・ 地域生活支援事業 ・ 相談支援事業 地域活動支援センター 関係機関との連絡・調整 権利擁護 居住支援			講義
第 2 回	障害者に対する生活支援制度	・ 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律(障害者虐待防止法)			講義
	精神障害者に対する生活支援制度	・ A C T (包括型地域生活支援プログラム) ・ アウトリーチ ・ 精神障害者保健福祉手帳(精神保健福祉法) ・ 生活保護 ・ 年金 ・ 住まいの確保			
第 3 回	精神障害者が地域で社会生活を送る上で必要な支援	・ ピアサポーター ・ 精神障害者の地域生活を支える上で必要な多職種連携・協働について			講義
終講試験 40 点 (50 分)					
単位認定の方法		1. 精神保健 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 精神保健 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学概論の単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		公衆衛生学			2 年前期

授業要項

	在宅システム論	1 年時後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院	
受講上のアドバイス	この科目では、精神障害者が地域で生活をしていく上で支えとなる社会制度とその基盤となる考え方を学びます。その中で、多職種連携の重要性についても学びます。精神障害者が地域で生活を行っていく上で、どのような支援が必要か授業を通して学んでいきましょう。	
実務経験の内容	精神保健福祉士	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	精神看護学方法論Ⅰ	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	14/30 時間	講師名	福迫 剛 他
科目概要		精神障害の症状と特徴、治療的看護の役割を学び、対象に必要な看護の方法を学ぶ。			
科目目標		1. 精神障害を理解する。 2. 主な精神症状と状態像の特徴を理解する。 3. 主な精神科治療と精神科で用いられる検査を理解する。 4. 環境のもつ治療的意味と望ましい対人環境を創る方法を理解する。 5. 精神看護の技術について理解する。 6. 精神看護、こころのケアとはなにかについて理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	精神症状		♦ 精神症状についての理解	講義	
第 2 回	神経発達障害		♦ 知的能力障害の症状・治療・検査 ♦ 自閉スペクトラム障害の症状・治療・検査 ♦ 注意欠如・多動性障害の症状・治療・検査	講義	
第 3 回	気分障害（単極性・双極性） 不安障害		♦ 気分障害の症状、治療、検査 ♦ 不安症状、不安症状の治療 ♦ 強迫性障害による症状、治療	講義	
	生理的障害および身体的 要因に関連した行動症候群		♦ 摂食障害による症状、治療 ♦ 睡眠障害による症状、治療 ♦ パーソナリティ障害による症状、治療		
第 4 回	統合失調症 統合失調症感情障害 妄想性障害 てんかん		♦ 統合失調症・統合失調症感情障害・妄想性障害の 症状、治療、検査 ♦ てんかんの症状、治療、検査	講義	
第 5 回	神経症性障害・ストレス 関連障害および身体表現 性障害		♦ 急性ストレス障害（ASD）の症状、治療 ♦ 心的外傷後ストレス障害（PTSD）の症状、治 療 ♦ 適応障害の症状、治療 ♦ 解離性障害の症状、治療 ♦ 身体表現性障害の症状、治療	講義	
第 6 回	精神作用物質使用による 精神・行動の障害		♦ アルコール症の症状・治療・検査 ♦ アヘン類、大麻類、睡眠薬・抗不安薬・鎮痛薬な どの乱用、大麻使用による精神症状・治療・検査	講義	
第 7 回	器質性精神障害		♦ アルツハイマー型認知症の症状・治療・検査 ♦ レビー小体型認知症の症状・治療・検査 ♦ 前頭側頭型認知症の症状・治療・検査 ♦ 脳血管性認知症の症状・治療・検査	講義	
終講試験（50 点）50 分					
単位認定の方法		1. 精神看護学方法論Ⅰ 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 精神看護学方法論Ⅰ 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学方法論Ⅰの単位を取得できる			
		関連科目			履修時期

授業要項

関連科目	解剖生理学(脳神経)	1 年前期
	臨床薬理学	1 年後期
	病態論Ⅱ(脳神経系疾患)	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院	
受講上のアドバイス	この科目では、精神症状・精神疾患・精神障害による講義を全 7 回に渡って学習します。精神に障害を抱えている対象に看護を行うには、上記内容を理解することが重要になります。本科目で学ぶ内容は今後、精神看護学方法論を学んでいく内容との関連が深いため理解を深めながら授業に参加しましょう。	
実務経験の内容	精神科医	

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	精神看護学方法論Ⅰ	単位数	1 単位
時期	2 年次前期	時間数	16/30 時間	講師名	松山 日実子
科目概要		精神障害の症状と特徴、治療的看護の役割を学び、対象に必要な看護の方法を学ぶ。			
科目目標		1. 精神障害を理解する。 2. 主な精神症状と状態像の特徴を理解する。 3. 主な精神科治療と精神科で用いられる検査を理解する。 4. 環境のもつ治療的意味と望ましい対人環境を創る方法を理解する。 5. 精神看護の技術について理解する。 6. 精神看護、こころのケアとはなにかについて理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	信頼関係の基礎づくり		◆ 精神看護の基本的な考え方(精神看護学概論復習) ◆ 精神看護の視点でのケア(ケアの前提) ◆ 精神看護と精神科看護	講義	
第 2・3 回	患者-看護師関係の発展と終結		◆ ケアの原則 ◆ ケアの方法	講義	
第 4 回	関係性のアセスメント		◆ 他者理解・自己理解 ◆ 病的体験の理解 ◆ 精神に障害を抱える患者へのこころの寄せ方 近づき方 ◆ プロセスレコードの活用	講義	
第 5 回	治療的対人関係 人間対人間の看護		◆ ペプロウ(治療的対人関係)の理解 ◆ 患者看護師関係の発展過程 ◆ トラベルビー(人間対人間の看護)の理解	講義	
第 6 回	精神に障害を抱える患者との関係の理解①		◆ 患者-看護師関係における感情体験 ◆ 対処の難しい場面 ◆ 病的体験の理解	講義 DVD 視聴	
第 7 回	精神に障害を抱える患者との関係の理解②		◆ 病的体験の理解	DVD 視聴	
第 8 回	終講試験 5 0 点 (5 0 分) ・ ま と め				
単位認定の方法		1. 精神看護学方法論Ⅰ 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 精神看護学方法論Ⅰ 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学方法論Ⅰの単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		基礎看護技術Ⅰ(コミュニケーション)			1 年前期
		コミュニケーション論			1 年前期
		心理学			1 年前期
		精神看護学概論			1 年後期
		精神保健			1 年後期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院			

授業要項

参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院
受講上のアドバイス	この科目では精神に障害のある患者への関わり方について学習していきます。患者との関係性の構築に関して理論を用いて学習していきます。また、自己理解・他者理解の必要性についてプロセスレコードを活用し学習を深めていきます。
実務経験の内容	看護師 専任教員

授業要項

専門分野Ⅱ		科目	精神看護学方法論Ⅱ	単位数	1 単位
時期	2 年次後期	時間数	30 時間	講師名	兼石 彰
科目概要		精神に障害を持つ対象を理解し、対象に必要な援助方法を習得するための基礎を学ぶ。			
科目目標		1. 精神に障害のある対象を理解し、対象に必要な援助方法を習得する。 2. 精神科における身体のケアおよび看護の役割について学ぶ。 3. 精神に障害のある対象の看護問題及び援助方法を看護過程の展開を通して学ぶ。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	入院治療の目的と意味	- 患者にとっての入院体験 - 精神科病院入院時の看護 - 入院治療の目的と意味 - 入院時のアセスメント			講義
	患者の権利、アドボカシー	- 患者の自己決定の尊重をするための支援 - 入院患者の基本的な処遇、治療的環境の理解 - 精神医療審査会の理解 - 隔離・身体拘束中の看護			
第 2 回	精神の健康とマネジメント	- 心身相関と健康(身体に表れるこころの痛み) →身体表現性障害のある患者への看護 - 精神療法を用いての看護			講義
第 3 回	不安症状がある患者への看護	- 不安症状時の看護 - 抗不安薬の副作用についての看護 ・森田療法			講義
	服薬時の看護	- 頓服薬使用時 - 定期薬服薬時			
第 4 回	統合失調症患者への看護 抗精神病薬を服薬している患者への看護	- 統合失調症の経過に沿った看護 - 抗精神病薬の副作用に対する看護 ⇒錐体外路症状(パーキンソン症候群、アカシジア、ジストニア、ジスキネジア)、運動緩慢(仮面様顔貌)、流涎 - 誤嚥性肺炎 - 悪性症候群 - 耐糖能異常 - 無顆粒球症 - 抗コリン作用【口喝(多飲症、水中毒、横紋筋融解症)、便秘(麻痺性イレウス)、吐き気、食欲不振、排尿障害、認知機能低下) - セクシャリティに関わる有害反応 - やせ(るい瘦)			講義
第 5 回	統合失調症患者に対して治療の理解	統合失調症(DVD)視聴			DVD視聴
	躁病患者への看護	- 躁状態の患者への看護 - 抗躁薬の副作用			講義
	うつ病患者への看護	うつ病の治療経過に沿った看護			

授業要項

		抗うつ薬を服薬している患者への看護	
第 6 回	操作性のある患者への看護	パーソナリティ障害のある患者への看護	講義
	睡眠障害のある患者への看護	睡眠障害のある患者への看護	
第 7 回	精神科治療における検査	- m-E C T（修正型電気けいれん療法）時の看護 - 脳波、脳血流シンチ（S P E C T）、M R I、C T	講義
	安全管理	- 病床環境整備と行動制限の必要性の理解 - 自殺念慮、自殺企図、自傷行為を行う患者への看護 - 患者からの攻撃的行動の対処法の理解 - 暴力予防プログラムの理解 - 無断離院する患者への理解・対処法	
第 8 回	回復を助ける支援	- 回復とはどういうことなのか - 精神科におけるリハビリテーションとは - 回復のビジョン - 回復を支える様々なプログラム - 精神科デイケアの役割 - S S T（生活技能訓練）	
第 9 回	精神に障害を有する患者、家族への理解	- 家族のストレスと健康状態のアセスメント - 家族の対処力、ソーシャルサポートのアセスメント - 家族システムのアセスメント - 家族への教育的介入と支援方法 - 患者 - 家族関係の理解	講義
第 10 回	精神科作業療法	精神科作業療法の役割（谷山病院の O T R による講義）	講義
第 11 回	看護過程	- オレム・アンダーウッド理論の理解 - ヘンダーソン・ゴードンの枠組みをベースにした看護過程	講義
第 12 回	看護過程	精神に障害のある対象への看護過程	グループワーク
第 13 回	看護過程	精神に障害のある対象への看護過程	グループワーク
第 14 回	看護過程	- 精神に障害のある対象への看護過程 - 関連図の作成	グループワーク
第 15 回	終講試験・まとめ		
単位認定の方法		1. 精神看護学方法論Ⅱ 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 精神看護学方法論Ⅱ 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは精神看護学方法論Ⅱの単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		基礎看護技術Ⅰ（コミュニケーション）	1 年前期
		コミュニケーション論	1 年前期
		精神看護学概論	1 年後期

授業要項

	精神保健	1 年後期
	精神看護学方法論Ⅰ	2 年前期
	看護過程の基礎	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院	
受講上のアドバイス	この科目では、これまでの精神看護学で学んできた内容を統合させ、精神に障害をもつ患者への看護の方法について学んでいきます。精神看護学方法論Ⅱで学ぶ看護の方法を実習で活用していくことをイメージして受講してください。	
実務経験の内容	看護師 専任教員	

授業要項

統合分野		科目	在宅看護概論	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	1 5 / 1 5 時間	講師名	萬福 恵子
科目概要		在宅看護の意義、歴史的変遷とともに、在宅看護の対象者・家族の特性を理解し在宅看護目標と役割を学ぶ。			
科目目標		1. 在宅看護の目的と在宅看護における看護師の役割を理解する。 2. 在宅看護の対象者とその特性を理解する。 3. 地域に暮らす人々の生活を取り巻く、地域包括システム、保健医療福祉の実際を理解できる。 4. 現代における家族への支援の必要性を理解できる。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	保健医療福祉の動向と訪問看護の歴史 在宅看護のめざすもの		◆ 年代、人口動態、疾病構造・医療費・保健医療福祉関連制度・体制、地域における看護活動 ◆ 介護保障制度の歴史、介護保険制度創設の背景【社会保障・社会福祉】 ◆ 在宅看護とは、在宅看護の提供の場	講義 GW	
第 2 回 第 3 回	在宅看護における看護師の役割		◆ 超高齢多死社会の進展と地域包括ケア ◆ 地域包括ケアシステムの 5 つの構成要素 ◆ 自助・互助・共助・公助 ◆ 在宅看護が対象とする患者像とは ◆ 在宅療養移行支援 ◆ 在宅医療の推進【国民衛生の動向】	講義 GW	
第 4 回	在宅看護の対象者		◆ 対象者の特徴（年齢、疾患、障害、在宅療養状態別） ◆ 障害の程度の指標		
第 5 回	在宅看護の対象者		◆ 対象者の特徴（年齢、疾患、障害、在宅療養状態別） ◆ 障害の程度の指標	講義	
第 6 回	住まい方と健康		◆ 健康に暮らせる住まいと住まい方 ◆ 住む人の個別性を尊重した看護（価値観と生き方・生活上での安楽と安全） ◆ 在宅生活の継続支援	講義 GW	
第 7 回	訪問看護倫理要綱		◆ 在宅看護における看護師の倫理 ◆ 訪問看護倫理要綱	講義 GW	
第 8 回	終講試験（1 時間）			筆記試験	
単位認定の方法	1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. レポート提出 30 点 筆記試験 70 点（提出物については、テーマ、提出期限、内容は事前に掲示する） 3. 上記の条件を満たしたものは在宅看護概論の単位を取得できる				
関連科目		関連科目			履修時期
		公衆衛生			2 年後期
		社会保障・社会福祉			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			

授業要項

使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 系統看護学講座 別巻 家族看護学 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 国民衛生の動向
受講上のアドバイス	我が国の保健医療福祉の変遷を知り、現在は在宅療養を中心とした地域での看護師の活躍が期待されている。日本看護協会でも、訪問看護師増策などの施策を推進している。インターネットなどで、在宅看護介護、地域支援などのキーワードで検索し、在宅での看護師の役割やイメージをしっかりとっておくと受講しやすいと思う。
実務経験の内容	看護師 専任教員（在宅看護学担当）

授業要項

統合分野		科目	在宅ケアシステム論	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	1 5 / 1 5 時間	講師名	萬福 恵子
科目概要		地域における保健・医療・福祉の機能と連携の必要性を理解し、社会的サポートシステムについて学ぶ。			
科目目標		1. 在宅支援に関わる制度が分かる。 2. 介護保険制度や訪問看護制度が理解できる。 3. 地域における多職種連携の特徴や必要性を理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回	在宅支援に関わる法令・制度		- 高齢社会における保健医療福祉の動向 保健医療福祉制度の変遷【老年看護学】 - 介護保険制度・医療保険制度・障害者総合支援法 - 地域包括ケアシステム	講義	
第 2 回 第 3 回	介護保険制度		- 介護保険制度のしくみ（被保険者、保険者、介護支援専門員） - 介護保険サービスの申請から利用までの概要（介護認定申請、介護認定） - 介護保険の定める特定疾病 - 介護給付サービス計画・予防給付サービス計画【老年看護学】	講義	
第 4 回 第 5 回	介護保険制度 地域包括支援センター		- 介護保険サービス（居宅、施設、地域密着型サービスの種類） - 環境調整・福祉用具について（カクイックス見学またはDVD鑑賞） - 介護予防とは - 地域支援事業・介護予防生活支援総合事業 - 地域包括支援センター	講義 視覚教材	
第 6 回	訪問看護制度		- 訪問看護の利用者と訪問回数 - 利用者の年齢と疾病からみた介護保険と医療保険の訪問看護対象者 - 訪問看護指示書 - 医療保険の「特別管理加算」の対象 - 訪問看護ステーションに関する規程 - 訪問看護までの手順 - 訪問看護の費用	講義	
第 7 回	在宅における権利擁護		- 個人の尊厳、自己決定権、個人情報の保護 - 看護師の守秘義務等 - 成年後見、虐待防止 - サービス提供者の権利擁護	講義 視覚教材	
第 8 回	終講試験				
単 位 認 定 の 方 法		1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 筆記試験 100 点（提出物については、テーマ、提出期限、内容は事前に掲示する） 3. 上記の条件を満たしたものは在宅看護概論の単位を取得できる			

授業要項

関連科目	関連科目	履修時期
	公衆衛生	2 年後期
	社会保障・社会福祉	2 年前期
	老年看護学概論	1 年後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 系統看護学講座 別巻 家族看護学 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 国民衛生の動向	
受講上のアドバイス	在宅で療養する利用者・家族を支援する保健医療福祉の制度をしっかりと理解する。社会資源の活用することで、利用者や家族の社会的な孤立や苦痛を軽減し、よりＱＯＬの向上へ繋ぐことができる。地域で活躍する看護職者としての知識を付けてほしい。	
実務経験の内容	看護師 専任教員（在宅看護論担当）	

授業要項

統合分野		科目	在宅看護論方法論 I	単位数	1 単位
時期	2 年前期	時間数	30 / 30 時間	講師名	萬福 恵子
科目概要		地域で暮らすための自助・互助・共助・公助の実験を体験し、在宅療養者の生活支援方法や、保健医療福祉の役割を学ぶ。			
科目目標		1. 在宅におけるケアマネジメント、社会資源、地域での多職種連携の関連性を理解する。 2. 在宅看護における生活療養支援の方法と看護技術を習得する。 3. 在宅看護における治療処置を受ける対象の看護を理解する。 4. 民泊体験を通して、地域に暮らす人々の生活や環境を知る。 5. 地域の特性や暮らす人々と過ごし、自助・互助・共助・公助の実験に触れる中で、保健医療福祉の役割を理解する。 6.			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	家族		・ 家族とは【家族看護学】 ・ 看護学からみた家族の捉え方 ・ 家族の健康		講義
第 2 回	変化する家族機能 現代の家族とその課題		・ 家族機能を把握するためのモデルと方法 ・ 現代家族も様相、家族構造、形態の変遷 ・ 家族の多様性		講義
第 3 回	在宅看護の対象としての家族		・ 家族のとらえ方と看護師のかかわり ・ 家族システムの特徴 ・ 家族のアセスメント ・ 家族への支援 (意思決定支援、療養介護指導、相談支持的援助、家族関係の調整) ・ 地域システムの視点から家族を支える (ピアサポート・レスパイトケア)		講義
第 4 回 第 5 回	ケアマネジメントと社会資源 地域における多職種連携		・ ケアマネジメントの概念 ・ ケアマネジメントの要素、機能、過程 ・ 社会福祉の活用 ・ 介護保険制度のケアマネジメント ・ 在宅における連携の特徴 ・ 医師との連携 (訪問看護ステーション、訪問看護指示書交付 医師との連携の実験など) ・ 地域の社会資源との連携 ・ ネットワークづくり (地域ケア会議の機能)		講義
第 6 回	在宅における権利保障		・ 個人の尊厳、自己決定権、個人情報の保護 ・ 看護師の守秘義務等 ・ 成年後見、虐待防止 ・ サービス提供者の権利擁護		講義
第 7 回	在宅看護過程の展開方法 アセスメント		・ 訪問看護師としての基本姿勢 ・ 在宅看護活動におけるコミュニケーション ・ 情報収集とアセスメント ・ ICF 概念		講義

授業要項

		情報の整理とアセスメント展開方法	
第 8 回	目標の設定・計画 実施と評価	- 家族全体としてのニーズ、住環境、社会資源 - 家族の介護力・経済力 - 目標設定のポイント - 在宅看護計画立案・実施後のアセスメント	講義
第 9 回	在宅で求められる看護技術 移動、移乗に関する看護技術	- 在宅での移動、移乗の特徴 - 在宅における移動、移乗に関するポイント - 自立を促すための支援、補助具の使用 - 住宅改修のポイント	講義 シミュレーション 学習
第 10 回 第 11 回	地域を知ろう (民泊体験)	- 民泊体験を通して、地域で暮らす人々の生活や環境を知る。 - 地域の社会福祉施設見学	宿泊研修
第 12 回 第 13 回	地域を知ろう (民泊体験)	- 地域の健康や生活を支える人々との交流を通して、自助、共助、公助の役割を考える。 - 地域での健康管理、支援方法を学ぶ。	宿泊研修
第 14 回	民泊体験を振りかえって	- 民泊体験を通して、地域で暮らす人々の生活や環境を知る。 - 地域包括ケアシステムを考える	講義 GW
第 15 回	終講試験・まとめ	終講試験	筆記試験
単位認定の方法	1. 30 時間中 24 時間以上の出席があること 2. レポート提出 30 点 筆記試験 70 点 (提出物については、テーマ、提出期限、内容は事前に掲示する) 上記の条件を満たしたものは在宅看護論方法論Ⅰの単位を取得できる		
関連科目	関連科目		履修時期
	基礎看護学Ⅱ (移送、移乗・排泄援助)		1 年前後期
	社会保障・社会福祉		2 年前期
	老年看護学方法論		2 年前期
	公衆衛生		2 年後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストの目を通すこと。事後課題はその都度掲示		
使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 国民衛生の動向		
受講上のアドバイス	在宅看護論方法論Ⅰでは、1泊2日の民泊体験を予定しています。地域の方々と交流を通して、生活上での工夫や暮らしぶりを身近で感じる体験ができると思います。その地域の特性や健康に対する取り組みも学べる機会となると思います。また、地域における在宅看護として必要な情報収集やアセスメントを中心に学んでいきましょう。		
実務経験の内容	看護師、専任教員		

授業要項

統合分野		科目	在宅看護論方法論Ⅱ	単位数	1 単位
時期	2 年前期	時間数	1 0 / 3 0 時間	講師名	森重 サユリ
科目概要		在宅療養者の状態別看護を展開する方法と在宅移行支援のプロセスについて学び、在宅での生活、療養支援に必要な看護を学ぶ。			
科目目標		1. 在宅療養者の状態別看護を理解する。 2. 在宅看護における看護の展開方法を理解する。 3. 在宅における家族への援助、地域包括ケアシステムと社会資源活用の方法、多職種との連携・協働について理解する。			
回数	主題		学習内容	履修形態	
第 1 回 第 2 回	在宅で求められる看護技術 排泄に関する在宅看護技術		- 排泄に関する在宅看護技術 - 排泄に関するアセスメント（排尿・排便） - 尿道留置カテーテルを適応している療養者への在宅看護 - ストーマ（人工肛門・人工膀胱） - 褥瘡の予防とケア	講義等	
第 3 回	清潔に関する在宅看護技術		- 在宅での清潔援助の特徴 - 清潔でのアセスメント - 清潔援助の実際	講義等	
第 4 回	療養上のリスクマネジメント		- 在宅看護におけるリスクの特徴 - 環境の整備による安全の確保（転倒予防） - 熱中症、窒息、火災、身体損傷、誤薬 - 感染の防止	講義等	
第 5 回	災害に対する準備と対応 事例		- 事前の準備（訪問看護ステーション、共助の備え） - 災害時の対応 - 訪問看護実践事例での学習	講義等	
	終講試験（30 点）				
単 位 認 定 の 方 法	1. 30 時間中 2 時間以上の出席があること。（在宅看護論方法論Ⅱ） 2. 在宅看護論方法論Ⅱ 終講試験の合計 60 点以上。 3. 上記の条件を満たしたものは在宅看護論方法論Ⅱの単位を取得できる。				
関連科目		関連科目			履修時期
		看護技術Ⅲ・看護技術Ⅳ			1 年前後期
		社会保障・社会福祉			2 年前期
		老年看護学方法論			2 年前期
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			
使用テキスト 参考文献等		系統看護学講座 統合分野 在宅看護論			
受講上のアドバイス		在宅看護論方法論では、今までの既習での知識、技術を応用し在宅看護の実際を学ぶ教科になります。事例や在宅療養者を支える看護の実際や機器の管理、福祉用具などを実際に触れて学ぶことが多くなります。触れて体験したことを実習や今後に生かせることを期待しています。			
実務経験の内容		看護師（訪問看護等）、専任教員資格あり			

授業要項

統合分野		科目	在宅看護論方法論Ⅱ	単位数	1 単位
時期	2 年後期	時間数	20 / 30 時間	講師名	萬福 恵子 米澤真理子
科目概要		在宅療養者の状態別看護を展開する方法と在宅移行支援のプロセスについて学び、在宅での生活、療養支援に必要な看護を学ぶ。			
科目目標		1. 在宅療養者の状態別看護を理解する。 2. 在宅看護における看護の展開方法を理解する。 3. 在宅における家族への援助、地域包括ケアシステムと社会資源活用の方法、多職種との連携・協働について理解する。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	在宅で求められる看護技術 食生活・嚥下に関する在宅看護技術		- 食生活・嚥下に関する看護援助（在宅看護論方法論Ⅰ）の復習 - 経管栄養法・HPV		講義 視覚教材
第 2 回	認知機能のアセスメント法と援助技術		- 認知機能とは - 認知機能のアセスメントと援助の適応条件 - 認知機能のアセスメントが必要な療養者への在宅看護 - 認知機能の評価尺度 - MCI・AACD - 認知機能に障害がある療養者への在宅看護		講義 視覚教材
第 3 回	在宅におけるエンドオブライフ 疼痛緩和		- 在宅におけるエンドオブライフケアの特徴 - エンドオブライフケアの条件、展開 - 療養者・家族に対する看護 - 在宅における疼痛緩和ケア - 疼痛緩和ケアをうける療養者への在宅看護		講義 視覚教材
第 4 回	在宅におけるエンドオブライフ		- 在宅における看取り - グリーフケア - 看取りの視覚教材をもとに GW を行う - GW での意見を発表し共有する		講義 GW
第 5 回	事例		- ALS で人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開 - 終末期の療養者に対する在宅看護の事例展開 - COPD の療養者に対する在宅看護の事例展開		講義 GW
第 6 回	在宅における HOT・NPPV を使用し療養している利用者の実際		- 外部講師（医療機器：帝人）在宅酸素濃縮器や酸素ボンベ、デマンドバルブ装着の操作管理方法 - NPPV 機器、インターフェイスの管理方法		講義 演習 レポート提出
第 7 回	在宅での福祉用具の活用方法と援助		- 外部講師（カクイクスウイング）在宅における住宅環境、福祉用具活用の実際 - 寝台、寝具、体圧分散寝具、ポジショニング移送、移乗用具		講義 演習 レポート提出
第 8 回 第 9 回	訪問看護の実際		- 米澤真理子看護師（訪問看護ステーション愛の街） - 精神疾患を抱える療養者の在宅看護の実際 - 精神訪問看護の実際		講義

授業要項

第 10 回	終講試験	・ 終講試験・まとめ	
単 位 認 定 の 方 法	1. 30 時間中 24 時間以上の出席があること 2. レポート提出 20 点 筆記試験 50 点 （提出物については、テーマ、提出期限、内容は事前に掲示する） 3. 上記の条件を満たしたものは在宅看護論方法論Ⅱの単位を取得できる		
関連科目	関連科目		履修時期
	看護技術Ⅲ・看護技術Ⅳ		1 年前後期
	老年看護学方法論		2 年前期
	成人看護学Ⅴ（終末期）		2 年後期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示		
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論		
受講上のアドバイス	在宅看護論方法論では、今までの既習での知識、技術を応用し在宅看護の実際を学ぶ教科になります。事例や在宅療養者を支える看護の実際や機器の管理、福祉用具などを実際に触れて学ぶことが多くなります。触れて体験したことを実習や今後の生かせることを期待しています。		
実務経験の内容	看護師 専任教員（在宅看護論担当）		

授業要項

統合分野		科目	看護管理	単位数	1 単位
時期	3 年次	時間数	20／30 時間	講師名	久徳 美鈴
科目概要		看護を取り巻く諸制度やマネジメントについて学ぶことで、看護の経済性や、効率性について考え、看護管理の基礎的な理解を深める。また、国際社会における保健医療福祉の実情を知り、国際協力について考えることで看護の可能性を深める。			
科目目標		1. 看護管理やマネジメントに関する基礎概念および基礎理論がわかる 2. 看護サービスの看護管理過程（マネジメントプロセス・サイクル）がわかる 3. 看護専門職としてのキャリア開発について説明できる 4. 看護を取り巻く法律や医療制度がわかる 5. チーム医療及び多職種との協働のなかでの看護者としてのメンバーシップ及びリーダーシップの役割を述べる			
回数	主題	学習内容		履修形態	
第 1 回	看護とマネジメント これから求められる人材	1. 看護管理の定義、概念構成、基本的要素 2. 看護におけるマネジメントの考え方 3. マネジメントプロセスについて 4. これからの看護職に求められるマネジメント 5. 求められる人材について考える（社会人基礎力） 6. 看護実践の核となる 4 つの能力		講義 GW	
第 2 回	マネジメントに必要な知識と技術（概論）	1. マネジメンプロセス、サイクル 2. 組織、組織構造 3. 集団の理解 4. 組織文化、組織風土 5. 動機づけ理論		講義	
第 3 回	看護サービスのマネジメント（計画・組織化）	1. 看護サービスとは 2. 組織目標達成の理念設定、組織分析 3. サービス目標設定、BSC の設定 4. 看護部の組織化；業務規程 5. 各看護単位の機能と役割（ヒトの配置、基準）		講義	
第 4 回	看護サービスのマネジメント（組織化）	1. 看護提供方式と看護ケアの質 2. これからの時代の看護ケア提供方式		講義	
第 5 回	看護マネジメントに必要な知識と技術（指揮） 各理論	1. パワーとエンパワーメント 2. コーチング 3. コンフリクト（事例）マネジメント 4. 変革理論（レビン、コッター） 5. ストレスマネジメント、タイムマネジメント		講義 演習	
第 6 回	多職種連携・協働における看護管理	1. チーム医療とは 2. チームに必要な機能 3. チームの中での看護職の役割、多職種協働 4. ダーバーシティマネジメント		講義	
第 7 回	看護サービスのマネジメント（統制）	1. 看護サービスの質管理：DINQL 事業 2. 施設・環境の管理 3. 物品管理、コスト管理、情報管理		講義	

授業要項

		4. 人事労務管理とワークライフバランス	
第 8 回 第 9 回	看護管理の課題と将来展望	1. 統合実習事例に対するシンポジウム開催 ～統合実習での学びから考える～	発表
第 10 回	看護を取り巻く諸制度 看護職のキャリアマネジメント	1. 医療政策と看護管理 2. 診療報酬制度の流れ（重症度、医療・看護必要度） 3. 看護職のキャリア形成 4. キャリア支援 5. 認定看護師制度、特定行為実践看護師の育成	講義
	終講試験	まとめ	
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. レポート評価（20 点）、客観試験 50 点の 70 点満点、国際看護 30 点を統合して 100 点 内 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは看護管理 1 単位の単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		看護学概論、看護倫理、	1 年～3 年生
		各保健医療制度に関わる科目（関係法規、総合保健医療論）	3 年次
		専門科目・統合看護技術を含め全ての領域の実習で学んだ看護管理、リスク管理	1 年～ 3 年まで
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等		医学書院：看護管理 「系統看護学講座：看護の統合と実践」	
受講上のアドバイス		看護管理は、看護職が看護サービスの対象者により良い看護を提供することを目指して行う一連の活動です。管理的な知識や技術を身につけることで、より安全で質の高い看護が提供できます。各授業をとおしてその意味を学び、看護の実践の場（実習）で意識しながら看護管理能力を高めてほしいと思います。授業・実習・ワークや討論を通して自らの看護管理観が述べられるように頑張りましょう	
実務経験の内容		看護師、認定看護管理者（看護部長職 6 年経験有）	

授業要項

統合分野		科目	看護管理 国際看護	単位数	1 単位
時期	3 年次	時間数	10/30 時間	講師名	米田 智美
科目概要		看護を取り巻く諸制度やマネジメントについて学ぶことで、看護の経済性や、効率性について考え、看護管理の基礎的な理解を深める。また、国際社会における保健医療福祉の実情を知り、国際協力について考えることで看護の可能性を深める。			
科目目標		1. グローバルな視点で世界の人々の健康・生活課題と国際看護活動の実際について理解できる。 2. 世界共通の健康目標である持続可能な開発目標（SDGs）について理解できる。 3. グローバルな視点で看護の役割や在り方を考えることができる。 4. 訪日・在留外国人の文化社会的多様性を考慮した看護について学ぶ。 5. 世界のプライマリーヘルスケアの実際についての見解を広める。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	国際看護学に求められる視点を学ぶ	国際的な視点から保健・看護の現状を学び、国際看護の概念、国際看護の必要性を理解し、国際的視野から看護専門職としての役割と連携について考える機会とする。			講義
第 2 回	グローバルヘルスと国際保健医療協力	国際活動の概念と意義、基盤となる考え方や国際活動で求められる看護職の役割を理解する。			講義
第 3 回	国際看護の理論を学ぶ	文化的ケアの多様性と普遍性理論—レイニンガーの異文化看護の概念を理解する。更に、自分の中の文化はどのようにして形成されているか（自文化）、そして自分の文化を通して見える異文化を理解する。			講義
第 4 回	国際医療・看護実践を学ぶ：中国の事例	訪日・在留外国人への健康支援に関して、対象者の文化社会的多様性を考慮した看護について学ぶ。			講義
第 5 回	国際協力活動と看護	国際協力を支える国際機関や国際協力の仕組み、国際協力活動の実際について理解する。			講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. レポート評価（30 点）、客観試験 70 点の 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは看護管理 1 単位の単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		看護学概論、看護倫理、			1 年～3 年生
		各保健医療制度に関わる科目（関係法規、総合保健医療論）			3 年次
		専門科目・統合看護技術を含め全ての領域の実習で学んだ看護管理、リスク管理			1 年～3 年まで
事前・事後学習		授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示			

授業要項

使用テキスト 参考文献等	医学書院：看護管理 「系統看護学講座：看護の統合と実践」 医学書院：災害看護学・国際看護学「系統看護学講座：看護の統合と実践」 医学書院：看護倫理
受講上のアドバイス	事前学習・事後学習を前提としています。この授業で学習する内容は人の生活や健康の様々な側面に関係するので、普段の生活の中新聞、テレビ、インターネット、書籍などを見て、情報を蓄積しておくの良い。積極的な授業参加が望ましいです。 事前学習（30分）：テキスト・参考文献・新聞記事・書籍などを、ジェンダーという視点で読むこと。それがどのように分析できるかを考えてみることを。 事後学習（30分以上）：講義で学んだ内容を自分の言葉で整理し、考えをまとめて、説明できるようにしておくこと。
実務経験の内容	台湾、日本での看護実践や医療通訳、国際交流活動に関する経験を踏まえて、グローバル社会における看護について、学生を指導する。

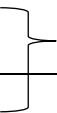
授業要項

統合分野		科目	医療安全	単位数	1 単位
時期	3 年次	時間数	1 5 時間	講師名	久徳 美鈴
科目概要		医療技術の進歩に伴い、医療事故は、対象の一番身近にいる看護者が関わるリスクが高い。事故発生のメカニズムとリスクマネジメントについて学び、危険回避のため対応できる力や調整する力の必要性を学ぶ			
科目目標		1. 医療安全の基盤となる考え方を理解する 2. 医療安全における看護職の役割・責任について理解する 3. 事故事例を分析する力を養い、対策を導き出すことができる 4. 医療安全のマネジメントについて学び、医療安全文化の醸成について知る 5. 安全な看護を提供するための自己のあり方について考え、看護師としての職務に活かす。			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	医療安全の基盤となる考え方 医療安全における看護職の役割・責任	1. 医療安全の意味とその重要性、医療の安全確保 2. 医療安全にかかわる動向、社会的背景 ～重大事故事例を考える～ 3. 国の医療安全の取り組みと医療の質の評価 4. 医療事故報告制度 5. インシデント、医療事故と医療過誤 6. 看護職の法的責任と医療安全 ～安全な技術の提供について振り返る～			講義
第 2 回	医療機関における医療安全の取り組み 安全文化の醸成	1. 事故発生のメカニズム ヒューマンエラーとは、人間特性、エラーを誘発しやすい環境 スイスチーズモデル 2. 医療機関の安全対策 ハインリッヒの法則 安全文化の醸成 事故要因分析の方法（SHEL モデル、RCA 分析）			講義 GW
第 3 回 第 4 回	医療機関における医療安全の取り組み 事故分析手法 安全文化醸成	1. 事故分析の実際 2. KYT（危険予知）訓練 「動画」から学ぶ 3. ノンテクニカルスキル：チームステップス SBAR, CAS, チェックバック			講義 GW
第 5 回 第 6 回	看護業務における医療事故と安全対策	1. これからの看護実践につなげる看護技術のリスクと安全 “危険の知識” <各グループ課題> ・注射 ・ポンプ ・内服 ・輸血 ・経管栄養 ・チューブ類の管理 ・検査 ・酸素 2. 看護業務に必要な計算ドリル			講義 G 学習、発表まで
第 7 回	医療事故後の対応	1. 医療事故発生時の初期対応と方法 2. 紛争化の防止対策 3. 専門職として個々人の備え 4. 医療者の安全確保			講義
第 8 回	終講試験	まとめ			
単位認定の方法		1. 15 時間中 10 時間以上の出席があること			

授業要項

	2. 授業及び事故分析対策取り組み 20 点、客観試験 80 点の 100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは医療安全 1 単位の単位を取得できる	
関連科目	関連科目	履修時期
	基礎看護技術 安全の基礎知識、KYT 訓練	1 年前期
	専門科目・統合看護技術を含め全ての領域の実習で学んだ安全管理、リスク管理	1 年後期～3 年まで
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	メディカ出版：看護の統合と実践 「医療安全」 医療安全ワークブック、医学書院。（参考図書）	
受講上のアドバイス	医療事故は起こしてはならないものであることは、当然のことであるが、今日、医療事故は多発しています。なぜ、このように事故が起こるのでしょうか。人間はエラーを起こす可能性をもっています。「自分もエラーを起こす可能性を持っている」という観点をもち、複雑に絡み合う事故の要因を考え、どうすれば事故を予防し、患者さんの安全と自分の安全を守ることができるのかを一緒に考えていきましょう。また、さまざまな医療事故の再発防止に向けた組織の取組も学び、実践に役立てられるように積極的に授業に取り組みしましょう。	
実務経験の内容	看護師、看護管理経験有	

授業要項

統合分野		科目	災害看護	単位数	1 単位
時期	3 年次後期	時間数	1 5 時間	講師名	高山理恵
科目概要		突然におこる災害は、人々の生命の危機と健康や生活の崩壊をもたらす。近年の高齢化・過疎化、地域での人的関わりの希薄さから、災害によって生じる問題も多様化している。そのような社会に対応できる看護職者として、災害サイクルに応じて被災者の生命と生活を守る看護実践について学ぶ			
科目目標		1. 災害を身近な問題としてとらえ、災害が人々の生命や健康、生活に及ぼす影響について理解する 2. 災害各期における看護の果たす役割を理解し災害時の看護活動に参加できる基礎的能力を身につける 3. 災害時における多職種との連携の必要性を理解する 4. 災害発生時の社会の対応や個人の備えについて理解する			
回数	主題	学習内容			履修形態
第 1 回	災害及び災害に関する基礎知識	◆ 災害の定義 ◆ 災害と法制度 ◆ 災害の種類 ◆ 災害サイクル ◆ 災害発生時の看護の役割 ◆ 災害による疾病構造			講義
第 2 回	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響	◆ 限られた医療資源・人的資源での対応 ◆ ライフラインの損傷 ◆ 要援護者 ◆ 災害時の情報提供 ◆ 災害後の感染対策			講義
第 3 回	災害急性期の特徴と看護	◆ DMAT 広域搬送 ◆ 被災地域内病院の看護活動 ◆ 被災病院における情報収集 EMIS			講義
第 4 回	災害各期慢性期・静穏期の特徴と看護 災害による心身への影響	◆ 避難所生活 ◆ 避難生活から予測される健康問題 ◆ 仮設住宅生活者への看護 ◆ 被災者のストレスと心のケア ◆ 救済者自身のストレスと対処 ◆ 子どものこころのケア			講義
第 5 回	緊急時の災害医療活動	◆ 緊急時の災害医療活動の 3 T ◆ トリアージ			講義 演習
第 6 回	発災時の病院内での初動	 アクションカードを使用して発災時の病院内における初動演習			演習
第 7 回	発災時の病院内での初動				演習
	終講試験（100 点）50 分				筆記試験
単位認定の方法		1. 「災害看護」15 時間中 10 時間以上の出席があること 2. 「災害看護」100 点満点、60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは災害看護の単位を取得できる			
関連科目		関連科目			履修時期
		臨床看護総論 I 「救急救命処置に関する技術」			1 年後期

授業要項

	小児看護学方法論Ⅰ「災害と子ども」	2 年前期
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学，医学書院.	
受講上のアドバイス	施設見学で防災センターを見学し、地域における災害の歴史や地域の防災活動について学び、社会の防災システムについて理解を深めレポートにまとめる	
実務経験の内容	看護師、災害支援ナース、専任教員	

授業要項

統合分野		科目	統合看護技術 I	単位数	1 単位
時期	1 年次後期	時間数	30 時間	講師名	高山理恵
科目概要		看護技術を統合することの意味を理解し、1 年次に習得したそれぞれの基礎看護技術を用いて、対象の状況に応じた看護を考え、適用できる能力を身につける。			
科目目標		1. 看護技術を統合させることの意味について理解する。 2. 対象の状況を判断して、最も適切な援助方法を計画することができる。 3. 安全、安楽、自立を考慮し、既習の知識、技術、態度を統合した援助技術を実施できる。 4. 学習をととして、対象の状況に応じた看護技術を提供するための基礎的能力を身につける。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	演習事例の理解		・ 統合看護技術を学ぶ意義 ・ 演習事例の理解 ・ 対象に必要な看護援助を考える		講義/G 演習
第 2 回	身体的・心理的・社会的状況の理解		・ 演習事例の理解 ・ 対象に必要な看護援助を考える		講義/G 演習
第 3 回	望まれる看護者の態度・姿勢 安全・安楽・自立を考慮した援助		・ 具体的な演習計画の立案		講義/演習
第 4 回	効率的な技術の組み立て		・ 具体的な演習計画の立案		G 演習
第 5 回	演習計画に基づいた技術の実施		看護師役、患者役、観察者を決め、実施後意見交換を行う		G 演習
第 6 回	演習計画に基づいた技術の実施		看護師役、患者役、観察者を決め、実施後意見交換を行う		講義/演習
第 7 回	演習計画に基づいた技術の実施		看護師役、患者役、観察者を決め、実施後意見交換を行う		講義/演習
第 8 回	演習計画に基づいた技術の実施		看護師役、患者役、観察者を決め、実施後意見交換を行う		講義/演習
第 9 回	既習の知識を統合させ、最善の方法を再考察		技術の再考察		講義/演習
第 10 回	既習の知識を統合させ、最善の方法を再考察		技術の再考察		講義/演習
第 11 回	学びの共有		発表		講義/演習
第 12 回	学びの共有		発表		講義/演習
第 13 回	学びの共有		発表		講義/演習
第 14 回	学びの共有		リフレクション		講義/演習
第 15 回	まとめ		・ 看護技術統合さする意味 ・ 最終レポート		講義

授業要項

単位認定の方法	1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 演習計画書（10 点）、演習実施後レポート（10 点）、グループ発表後リフレクション（20 点）、最終レポート（60 点）合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする 3. 上記の条件を満たしたものは統合看護技術Ⅰの単位を取得できる	
関連科目	関連科目	履修時期
	看護学総論、基礎看護技術ⅠⅡ	1 年前期～ 1 年後期
	看護過程の展開	2 年前半
事前・事後学習	授業に臨む前にテキストに目を通すこと。事後課題はその都度提示	
使用テキスト 参考文献等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学「1」「2」、医学書院.	
受講上のアドバイス	統合看護技術Ⅰでは、事例を用い、これまで 1 年間学習した看護技術や既習学習を統合させ、対象の状況に応じた看護技術を考え実施する。グループワークを中心に行っていくので、協力し、意見交換しながら演習を進めていてもらいたい。また、最後には、自己の課題まで考えてもらう。2 年次の看護過程の展開にもつながっていく授業なので積極的に取り組んでいてもらいたい。	
実務経験の内容	看護師、専任教員、基礎看護学担当	

授業要項

統合分野		科目	統合看護技術Ⅱ	単位数	1 単位
時期	3 年次	時間数	30 時間	講師名	櫻美尚美
科目概要		今までの学習を統合し、多重課題の優先度や看護上のリスクを考え、実践することで臨床実践能力を高める。			
科目目標		- 複数の事例の状況を理解し、事例に応じた看護の方法を選択できる。 - 複数事例の看護計画から、看護ケアのタイムスケジュールを作成し、優先度を考慮した看護の流れを理解する。 - 患者の状況に応じた判断ができ、自己の行動の優先度を考えることができる。 - 状況に応じた看護を実践できるための自己の課題を明確にできる。			
回数	主題		学習内容		履修形態
第 1 回	統合実習オリエンテーション		- 統合実習の目的・目標の理解（ゴールシート記載） - 統合実習のイメージ作り、オリエンテーション		講義
第 2 回	複数受け持ち時の看護実践		2つの事例を用いたペーパーシミュレーション - 情報の整理とアセスメント		講義 ワーク
第 3 回	複数受け持ちの行動計画表作成のポイント		- 看護ケアの優先度の考え方（複数の患者に平等なケアを行うとは） - 行動計画表作成		講義 ワーク
第 4 回	看護記録の記載方法		- 看護記録について - SOAP・看護サマリー		講義 ワーク
第 5 回	継続看護のための申し送りの方法		- SOAP の記録から申し送り内容をまとめて、グループメンバー同士で、申し送りの練習を行う。 - お互いに申し送りの体験し合いながら意見交換		講義 GW
第 6 回	統合実習を終えて		- 看護専門職に求められるもの - 自己の課題を明確にする		グループディスカッション
第 7 回	シミュレーション演習について		- シミュレーション演習事例の提示 - 事例の理解 - アセスメント - 事例の状況に応じた看護の優先度と内容 - SBAR を活用した報告（いつ、誰に、どのように）		講義 個人ワーク
第 8 回	シミュレーション演習準備		援助する上で必要な学習、援助計画		個人ワーク
第 9 回 第 10 回 第 11 回	シミュレーション演習 1		- グループで課題に対する作戦タイム - 個人ワークでの事前知識や援助計画の共有 - 代表者のシミュレーション実施 - グループで振り返り・援助計画の修正 - 別の代表者が再度シミュレーション実施 - グループで振り返り - クラス全体で振り返り		演習
第 12 回 第 13 回 第 14 回	シミュレーション演習 2		- グループで課題に対する作戦タイム - 個人ワークでの事前知識や援助計画の共有 - 代表者のシミュレーション実施 - グループで振り返り・援助計画の修正 - 別の代表者が再度シミュレーション実施		演習

授業要項

		6. グループで振り返り 7. クラス全体で振り返り	
第 15 回	終講試験：レポート課題 まとめ	1. シミュレーション演習を振り返り、状況に応じた 判断に必要な能力と行動の優先度を考える（レポ ート） 2. 看護専門職としての自己の課題（レポート） 3. まとめ	レポート作成 講義
単位認定の方法		1. 30 時間中 20 時間以上の出席があること 2. 個人ワーク課題 30 点、レポート各 30 点で合計 100 点満点、60 点以上を合格 とする ただし、臨床能力実技試験は必ず合格すること 3. 上記の条件を満たしたものは統合看護技術Ⅱの単位を取得できる	
関連科目		関連科目	履修時期
		基礎分野：生命科学、物質の科学、情報科学、論理的思考の基礎 コミュニケーション論、法と倫理、民族と文化、家族と 社会	1 年前期後期
		専門基礎分野：解剖生理学、臨床生化学、病理学、微生物学、臨床 薬理学、栄養学、病態論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1 年前期後期 2 年前期
		専門分野Ⅰ：看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床看護 論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程の基礎	1 年前期後期 2 年前期
		専門分野Ⅱ：成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、老年看護学方 法論Ⅰ・Ⅱ、小児方法論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学方法論Ⅰ・ Ⅱ、精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	2 年前期後期
		統合分野：在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ、看護管理、災害看護、医療安全 統合看護技術Ⅰ	3 年前期後期
事前・事後学習		授業に臨む前に看護の統合と実践実習要項に目を通すこと。事後課題はその都度 提示	
使用テキスト 参考文献等		適宜資料配布	
受講上のアドバイス		この授業は、各看護学で学習した知識・技術・態度を統合し、複数事例の状況に応 じた看護の方法を選択し、優先度を考慮したタイムスケジュールを立て、優先度 や時間管理の重要性を学びます。また、シミュレーション演習を通して緊急事態 の事例に対して状況判断や優先度を考え、実践することで臨床実践能力を高める 科目です。授業やシミュレーション演習を通して看護専門職としての自己課題を 明確にしましょう。	
実務経験の内容		看護師、専任教員	

授業要項

科目	基礎看護学実習Ⅰ	時間数	45時間	単位数	1 単位
時期	1年次前期	学習形態	実習	講師名	基礎看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要	各看護学実習の第一段階となる実習として位置づけ、他の看護学への応用、発展可能な基礎とする。 看護の対象と対象を取り巻く環境及び看護活動の理解や体験をふまえて知識の統合を図る。また、原理原則や科学的根拠をふまえた日常生活援助実習をとおして、対象の反応から看護の喜びと厳しさを体験する。自らの体験を意味づけし、知識・理論と関連付ける経験をとおして、自ら学ぶことの楽しさを実感し、これから看護を学ぶことの動機づけとする。				
科目目標	1.	看護の対象である患者を取り巻く物理的・人的環境を理解できる。			
	2.	看護の対象である患者を理解する。			
	3.	看護活動を理解する。			
	4.	原理原則に基づいた、日常生活援助が実施できる。			
	5.	自ら課題や疑問を持ち主体的に学習を進めることができる。			
	6.	コミュニケーションをとおして、良い人間関係を築くことの重要性について理解できる。			
	7.	看護学生として望ましい態度をとることができる。			
	授業計画（学習内容）				
	【基礎看護学実習Ⅰ-1】 15時間				
1	病院の構造と機能の見学				
2	病院で働く多職種の理解				
3	看護活動の実際の見学				
4	入院している看護の対象とのコミュニケーション				
5	看護者としての望ましい態度				
	【基礎看護学実習Ⅰ-2】 30時間				
1	看護者としての望ましい態度、責任ある態度				
2	実習の目的・目標や自己のビジョン・ゴール達成にむけた自己学習				
3	自己の成長のための課題発見				
4	原理原則を基本とした日常生活援助の創造				
5	五感を使った観察				
6	良好な人間関係を築くためのコミュニケーションスキル				
7	指導のもと日常生活援助を安全・安楽・自立に配慮した看護の実践				
8	専門用語を用いた意見発表や看護の実践の報告				
9	患者を生活者として捉え患者に必要な日常生活援助について理解を深めるリフレクションの実際				
成績評価	基礎看護学実習Ⅰの実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 基礎看護学実習Ⅰ-1（20点）、基礎看護学実習Ⅰ-2（80点）				
事前学習 関連科目	事前学習：看護学概論（看護の目的、看護の対象、看護倫理、チーム医療、病院の機能など） 看護技術（コミュニケーション技術、日常生活援助技術など）、多職種の役割				
履修条件	基礎看護学実習Ⅰ-2 実習履修者はそれまでに実施される技術試験に合格していること				
使用テキスト 参考文献等	看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ他				
その他	実習場所：今村総合病院、いづろ今村病院				
実務経験の内容	看護師、専任教員				

授業要項

科目	基礎看護学実習Ⅱ		時間数	90時間	単位数	2単位
時期	2年次後半		学習形態	実習	講師名	基礎看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要		健康障害を持つ対象への看護の展開をととして看護の思考過程を理解し、看護実践するための基礎的能力を養う。				
科目目標		1.	健康障害をもつ対象に応じた看護実践を通して看護の思考過程を理解し、知識・技術を習得することができる。			
		2.	対象を総合的に理解するために、課題をみつけ積極的に自己学習することができる。			
		3.	医療チームの一員としての自覚と責任を持つことができる。			
		4.	看護倫理の重要性を認識し、考えることができる。			
	授業計画（学習内容）					
1	対象を理解するために健康段階とその経過および発達段階の学習					
2	対象のすべての反応への関心					
3	実習の目的・自分の戦略に沿った学習者の責任としての自己学習					
4	看護倫理への関心と考える姿勢					
5	他者の意見を聞き、自己の意見を他者に伝えようとする意欲と態度					
6	成長するための課題					
7	対象を身体的・精神的・社会的側面を持った生活者としてとらえる力					
8	対象を統合的に理解しようとし、健康上の課題を見つけようとする力					
9	対象の健康上の課題の優先順位					
10	対象へのケアが看護であるか看護でないかを考えようとする力					
11	五感を使つての観察					
12	対象との良好な援助関係を築くために効果的なコミュニケーションの活用					
13	見つけた対象の健康上の課題を解決しようと計画的に看護を実践					
14	対象の安全・安楽・自立に配慮して看護を実践					
15	看護を考えるために必要な看護の思考過程を理解					
16	専門用語を用いて自己の考えや実践した看護を伝える力					
17	医療チームの一員として報告・連絡・相談					
18	対象への看護を実施することは、ケアリングに基づく対人関係の構築					
19	多職種の中における看護師の役割					
20	対象へ実践した看護の結果をアセスメントするための、様々な知識の活用					
成績評価		基礎看護学実習Ⅱの実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる）				
事前学習 関連科目		関連科目：看護学概論、基礎看護技術、その他既修の学習 事前学習：1.基礎看護技術（学習と演習） 2.成人期、老年期の発達段階の特徴と発達課題 3.受け持ち患者の疾患部位の解剖生理、病態、症状、検査、治療、看護 4.受け持ち患者で考えられる経過別看護の目標と視点				
履修条件		基礎看護学実習Ⅰ、看護過程の基礎の科目を合格していること				
使用テキスト 参考文献等		上記、学習に必要なテキストすべて				
その他		実習場所：今村総合病院、いづろ今村病院				
実務経験の 内容		看護師、専任教員				

授業要項

科目	成人看護学実習Ⅰ		時間数	90時間	単位数	2単位
時期	2 年次後期～ 3 年次		学習形態	実習	講師名	成人看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要		急性期(周手術期を含むと回復の促進、心理・社会的危機)から回復過程にある対象および家族に対して生命の維持・苦痛の緩和・早期回復に向けての看護や身体機能の悪化予防の早期発見と回復の促進、心理・社会的危機の回避に向けての看護について患者さんへの受け持ちや看護師との実践をとおして学ぶ。				
科目目標		1.	急性期にある対象を総合的に理解し、生命の維持・苦痛の緩和・早期回復に必要な看護が実践できる。			
		2.	救急看護の実際を見学し、救命が優先される救急医療における看護師の役割を理解することができる。			
		3.	対象を生活者として捉え、身体機能の変化による生活の自立（社会復帰）に向けての必要な看護が実践できる。			
		4.	保健医療福祉チームにおける連携・協働の必要性と看護の役割を理解し、医療チームの一員としての自覚と責任を持ち、看護者としての必要な態度がとれる。			
		5.	看護実践をとおして看護倫理の重要性を理解し、考えることができる。			
	授業計画（学習内容）					
1	意欲的に自分の戦略をたてた積極的な学習					
2	生命の危機にある対象とその家族の心の揺らぎに関心を寄せ、思いやりを持てる心					
3	五感を使つての観察					
4	生命の危機にある対象の健康状態が生活に与える影響					
5	自己が成長するための課題を見つけようとする意欲					
6	周手術期にある対象を身体的・心理的・社会的側面で統合的に捉えた看護の思考過程					
7	手術前処置が手術へ与える影響					
8	生命の危機を有する状況において、救命が優先され、状況に応じて適応できるために必要な看護					
9	回復過程において自己決定、障害受容を支える看護の必要性					
10	保健医療福祉チームにおける連携の重要性					
11	術前の情報収集をし、手術中・術後の回復に与える影響の分析					
12	麻酔や手術侵襲が術後の回復過程に及ぼす影響の予測					
13	術後の回復過程にあわせて看護問題を明確化し優先順位の判断					
14	クリティカルパスを活用した術後の回復過程の推測					
15	学習内容や振り返りを生かして援助内容を考えた計画立案					
16	倫理的課題に関心を寄せ、倫理原則及び倫理的概念に基づき発言する自己の考え					
17	手術を受ける対象の心理状態を理解し、不安の緩和のための援助の実施					
18	生命の危機にある対象について看護の視点に基づいた観察の実施					
19	術後、身体的苦痛の緩和や合併症予防のための援助の実施					
20	対象を生活者と捉え、術後の健康回復に向けて日常生活を整えるための援助の実施					
成績評価		実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 成人看護学実習Ⅰ実習評価（100点）				
事前学習 関連科目		関連科目：成人看護学概論、経過別看護(急性期～回復期)、周手術期看護、病態論（消化器、泌尿器） 他既修学習 事前学習については実習要項に記載。				
履修条件		基礎看護学実習Ⅱを合格していること				
使用テキスト 参考文献等		パーフェクト臨床実習ガイド成人看護学Ⅰ、周手術期看護及び、既修の学習に関するテキスト				
その他		実習場所：今村総合病院（A棟 6 階東病棟、手術室、集中治療室、救急外来）				
実務経験の内容		看護師、専任教員				

授業要項

科目	成人看護学実習Ⅱ		時間数	90時間	単位数	2単位
時期	2 年次後期～3 年次		学習形態	実習	講師名	成人看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要		生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象に対して、疾病の受容段階や行動変化をふまえた、継続的に自己管理できるための看護について実践をとおして学ぶ。				
科目目標		1.	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする慢性期の対象を総合的に理解し、継続的に自己管理するための看護が実践できる。			
		2.	保健医療福祉チームにおける連携・協働の必要性と看護の役割を理解し、医療チームの一員としての自覚と責任を持ち、看護者としての必要な態度がとれる。			
		3.	看護実践をとおして看護倫理の重要性を理解し、考えることができる。			
	授業計画（学習内容）					
1	実習の目的に沿って戦略的に取り組む自己学習					
2	疾病をコントロールするための対象の強みの発見					
3	対象が生涯コントロールの必要な疾病に対しどのように理解しているかへの関心					
4	五感を使った観察					
5	対象が送ってきた生活史への関心					
6	自己の成長のための課題発見					
7	疾病コントロールが日常生活に与える影響についての思考					
8	疾病コントロールに必要な自己管理能力向上法の創造					
9	対象の健康上・生活上の課題発見					
10	看護倫理について関心を寄せ倫理的場面について思考し他者と共有するための自己表現（発言）					
11	対象の状況に合わせた援助計画の修正					
12	対象の自己決定の尊重、自己管理できるための支援					
13	対象の自己効力感を高めるための支援					
14	援助的な人間関係を築くコミュニケーションスキル					
15	対象の心理的側面を理解するための理論の活用					
16	対象の生活史や意思の尊重、退院に向けての支援					
17	対象が自己決定する際のエンパワーメントモデル活用					
18	実施する看護の結果を予測するための既習学習の活用					
19	対象が生涯疾病コントロールが必要であることを認識し、自己管理能力を高めるための看護の実践					
20	保健医療福祉チームの連携の必要性についての知識・理解					
成績評価		実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 成人看護学実習Ⅱ（100点）				
事前学習 関連科目		事前学習：（1）受け持ち患者の発達段階、発達課題 （2）疾病の病態（インスリン、2型糖尿病、合併症、検査） （3）患者に必要な治療と看護（食事療法、運動療法、薬物療法） （4）患者に生じた合併症とその看護 （5）セルフケア行動変容ステージにおける対象の心理的特徴とケア 関連科目：成人看護学概論、経過別看護(回復期、慢性期) 他既修学習				
履修条件		基礎看護学実習Ⅱを合格していること				
使用テキスト 参考文献等		経過別看護、成人看護学6、糖尿病教室テキスト、食品交換表及び既修の学習に関するテキスト				
その他		実習場所：今村総合病院（A棟6階東病棟、手術室、集中治療室、救急外来）				
実務経験の内容		看護師、専任教員				

授業要項

科目	成人看護学実習Ⅲ		時間数	90時間	単位数	2単位
時期	2 年次後期～3 年次		学習形態	実習	講師名	成人看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要		治癒困難な病態で終末期にある対象や化学療法を受ける対象を全人的に理解し、苦痛の緩和とQOLの実現のための看護について実践をとおして学ぶ。				
科目目標		1.	生命を脅かす疾患による問題を抱えている対象とその家族に関心を持ち、全人的（身体的・精神的・社会的・霊的）に理解できる。			
		2.	対象を通し、対象が残された時間をその人らしく過ごせるように、苦痛の緩和とQOL実現のための看護を考えることができる。			
		3.	保健医療福祉チームにおける連携・協働の必要性和看護の役割について理解し、看護者としての必要な態度がとれる。			
		4.	看護実践を通して、看護倫理の重要性を理解し、考えることができる。			
	授業計画（学習内容）					
1	生命を脅かす疾患による問題を抱えている対象とその家族への看護実践					
2	実習の目的を理解し、戦略的に取り組むための自己学習					
3	五感を使った観察					
4	対象の身体的側面、心理・社会的側面、スピリチュアルな側面に心のこもった関心を寄せながらの看護実践					
5	対象の生命を脅かす問題、苦痛による心身の安寧の阻害、治療や病態により生じる症状や日常生活上のニーズの未充足に関わる問題に心のこもった関心を寄せながら看護実践					
6	看護者として成長するための自己課題への気づき					
7	看護学生としてふさわしい責任ある節度ある態度					
8	対象の価値観や自己決定を尊重した援助計画と実施					
9	対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を持った生活者としてとらえる思考					
10	対象の予後不良な状態について理解し、必要な看護についての思考					
11	対象の状況を判断し、援助計画の追加・修正					
12	苦痛を緩和し、日常生活を整える看護の判断					
13	看護倫理について関心を寄せ倫理的場面について思考し他者と共有するための自己表現（発言）					
14	身体機能の低下に伴う変化を考慮し、対象のニーズの充足に向けた日常生活援助の実施					
15	症状によってもたらされる全人的苦痛の緩和のための援助と実施					
16	良好な援助関係を築くためにコミュニケーション力の活用					
17	指導を受けながら、対象に必要な治療（化学療法・輸血）の看護実践					
18	生命の尊厳を考え、回復が望めない対象とその家族のQOLを重視した看護についての理解					
19	回復が望めない対象とその家族の受容過程および、グリーフケアについての理解					
20	保健医療福祉チーム内での連携の重要性についての理解					
成績評価		実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 成人看護学実習Ⅲ（100点）				
事前学習 関連科目		関連科目：成人看護学概論（概論・経過別）成人看護学方法論Ⅴ（免疫造血・終末期） 事前学習：受け持ち患者の発達段階・血液・造血の機序及び疾患の理解・化学療法における看護・輸血療法・検査（マルク・ルンバール等）・疼痛マネジメントがん患者・終末期患者とその家族の心理的過程の理解				
履修条件		基礎看護学実習Ⅱを合格していること				
使用テキスト 参考文献等		経過別看護,メヂカルフレンド社, 血液・造血器（成人看護学④）看護学概論（基礎看護学①）,医学書院、他既修の学習に関するテキスト				
その他		実習場所：いづろ今村病院7階・今村総合病院A棟8階病棟 いづろ今村病院8階（緩和ケア病棟）				
実務経験の内容		看護師、専任教員				

授業要項

科目	老年看護学実習Ⅰ	時間数	90時間	単位数	2単位
時期	2 年次後期～3 年次	学習形態	実習	講師名	老年看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要	病状が安定し、リハビリテーションや看護・介護が必要な高齢者が入所している介護老人保健施設で実習する。加齢に伴う身体機能の特徴や高齢者の生活史や価値観、普段の生活や楽しみなど幅広く理解する。また、老化や健康障害による生活機能の低下に焦点を当てた看護の実践をとおして、高齢者の特徴と日常生活行動を他人に依存しなければならないという心情を理解し、残存機能を活かした日常生活の維持・向上のための看護を学ぶ。				
科目目標	1. 老年期にある対象を総合的に理解し、日常生活行動の維持・向上のための看護を考え実施できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉チームの連携・協働の必要性と看護の役割について理解し、看護者としての必要な態度がとれる。 3. 看護者に必要な感性や価値観を身につける。				
	授業計画（学習内容）				
1	実習目的に沿って戦略的に取り組みむ自己学習				
2	永い人生を歩んできた高齢者を尊重し、関わる態度				
3	看護者として成長するための自己課題への気づき				
4	背景を知り対象の行動の意味を読み取る看護				
5	日常生活の様子を観察し、健康状態を判断して日常生活を整える看護				
6	どこに関与したら生きる力が広がるかICFモデルにあてはめ考える具体的方法				
7	学習内容や振り返りを生かして考えた援助				
8	看護倫理について関心を寄せ倫理的場面について思考し他者と共有するための自己表現（発言）				
9	生活機能を整える援助を安全・安楽・自立を配慮した実践				
10	対象の可能性を引き出すかわり				
11	対象と心をかよわせ対象の内面に触れようとするかわり				
12	レクリエーションが高齢者に及ぼす影響を考えた企画と実施				
13	地域包括ケアにおける看護者の役割				
14	地域包括ケアシステムにおける社会資源の活用				
15	高齢者看護におけるチームワークの重要性				
成績評価	実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 老年看護学実習Ⅰ（100点）				
事前学習 関連科目	関連科目：老年看護学概論、老年看護学Ⅰ・Ⅱ他既修学習 事前学習：1. 老年期の発達段階の特徴 2. 介護老人保健施設の目的・事業内容及び関連職種、介護保険制度、老人福祉サービスの種類と内容及び関連職種 3. 認知症 4. 基礎看護技術の演習				
履修条件	基礎看護学実習Ⅱを合格していること				
使用テキスト 参考文献等	新体系看護学全書 老年看護学① 老年看護学②,医学書院、他既修の学習に関するテキスト				
その他	実習場所：介護老人保健施設愛と結の街（2階・3階）				
実務経験の内容	看護師、専任教員				

授業要項

科目	老年看護学実習Ⅱ		時間数	90時間	単位数	2単位
時期	2 年次後期～3 年次		学習形態	実習	講師名	老年看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要		医療が必要で健康上の課題を持つ高齢者が入院している病院で実習する。老化に伴う変化に加え環境の変化や健康障害と医療が高齢者に与える影響をふまえて、対象の健康の回復または安らかな死を迎えるための看護について実践をとおして学ぶ。				
科目目標		1.	老年期にある対象を総合的に理解し、健康障害を持つ高齢者に応じた看護が考えられ実施できる。			
		2.	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉チームの連携・協働の必要性と看護の役割について理解し、看護者としての必要な態度がとれる。			
		3.	看護者に必要な感性や価値観を身につける。			
	授業計画（学習内容）					
1	実習目的に沿って戦略的に取り組む自己学習					
2	対象とその家族へ心のこもった関心					
3	看護者として成長するための自己課題					
4	生活行動を変化せざるを得ない対象の心理を理解するための理論の活用					
5	加齢や病態症状、治療が生活行動に及ぼす影響					
6	健康障害、生活行動障害をもつ患者、家族の思いや目標と結びついた看護の援助					
7	援助内容を具体的に考え、進歩しようとする姿勢					
8	看護倫理について関心を寄せ倫理的場面について思考し他者と共有するための自己表現（発言）					
9	合併症や二次障害を予防するための援助					
10	対象に応じたコミュニケーションを活用した援助					
11	対象の長年の生活の積み重ねが今に及ぼす影響を理解し工夫した援助					
12	対象の望む生活は何かを捉え日常生活行動維持拡大のための援助					
13	対象とその家族への回復促進、日常生活行動の維持・拡大に必要な看護					
14	対象のQOL向上のための社会資源と意思決定支援の重要性					
15	地域包括ケアシステムにおける看護の役割と継続看護の必要性					
成績評価		実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 老年看護学実習Ⅱ（100点）				
事前学習 関連科目		関連科目：老年看護学概論、老年看護学Ⅰ・Ⅱ他既修学習 事前学習：老年看護学実習Ⅰの事前学習に加え、受け持ち患者に必要な基本的学習（循環器、呼吸器、消化器の基本的な解剖生理、感染症対策、廃用症候群、基本的な脳血管障害の理解、障害に応じた看護、障害を受けた対象の心理と障害受容に向けての過程と援助、リハビリテーションプログラムとその進め方・看護のポイント、放射線科の治療、疾患に応じた検査・治療				
履修条件		基礎看護学実習Ⅱを合格していること				
使用テキスト 参考文献等		新体系看護学全書 老年看護学① 老年看護学②,医学書院、他既修の学習に関するテキスト				
その他		実習場所：今村総合病院A5東病棟、A5西病棟、B6階病棟、いづろ今村病院6階病棟				
実務経験の内容		看護師、専任教員				

授業要項

科目	小児看護学実習	時間数	90時間	単位数	2単位
時期	3年次	学習形態	実習	講師名	小児看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要		1. 健康な小児の看護（保育所実習） 健康管理・安全管理について 小児の成長発達過程とその個性を理解し、乳幼児の養護の方法を学ぶ。また、乳幼児の理解を深める。小児との関わりを通して、小児の人権を守る感性や価値観を養う。 2. あらゆる健康レベルにある小児の看護（小児外来実習） 外来を受診する健康な小児および健康障害を持つ小児とその家族について理解し、健康レベルおよび発達段階に応じた援助を学ぶ。また、外来を受診する小児と家族の健康増進に関する保健指導の必要性を理解し、療養上の指導について学ぶ。 3. 健康障害をもつ小児の看護（小児病棟実習） 健康障害を持ち、入院している小児および家族の健康障害や発達段階をふまえた看護過程の必要性を理解し、小児の健康レベルおよび症状に応じた安全・安楽な小児看護の援助を学ぶ。			
科目目標		【保育所実習】			
		1.	小児の成長発達過程とその個性を理解できる。		
		2.	乳幼児の養護の在り方について理解できる。		
		3.	集団保育における、乳幼児の健康管理・安全管理について理解できる。		
		4.	保育所実習をとおして、看護者に必要な感性や価値観を身につける。		
		【小児外来実習】			
		5.	外来を受診する小児と家族の健康レベルおよび発達段階に応じた援助について理解できる。		
		6.	外来を受診する小児と家族の心理状態を理解できる。		
		7.	外来を受診する小児と家族の健康増進に関する保健指導の必要性を理解できる。		
		8.	小児外来看護をとおして『子どもの権利』を尊重する専門職として看護者に必要な感性や価値観を身につける。		
		9.	在宅小児医療や医療的ケア児の継続的看護についてイメージできる。		
		【小児病棟実習】			
		11.	入院や健康障害による影響を考慮し、成長発達段階に沿った看護を考え一部の看護が実践出来る。		
		12.	健康障害による、入院生活を送る子供や家族のストレスを理解し配慮あるコミュニケーションと行動がとれる。		
		13.	発達段階や健康段階を考慮し、創意工夫したフィジカルアセスメントができる。		
		14.	子どもの発達段階と健康段階に合わせた遊びや学びへの看護ができ、家族のレスパイトケアができる。		
15.	入院や健康障害により侵害されている「子どもの権利」について考えアドボケーターとしての看護者の役割を考えることができる。				
16.	小児慢性特定疾患医療費助成制度などの医療福祉制度の活用法について基本的理解ができる。				
	授業計画（学習内容）				
	【保育所実習】				
1	成長発達段階にある子どもと家族の心理				
2	自己の健康管理と、子どもの健康を守る為の、スタンダードプリコーション				
3	子どもの月齢・年齢ごとの成長・発達段階・子どもの日常生活における課題				

4	子どもの養護（食事・更衣・排泄・遊び・しつけ）
5	成長発達段階を考慮し、子どもが理解し納得できるコミュニケーション
6	子どもの権利
7	集団における乳幼児の安全と健康管理、看護者の役割と多職種連携
8	子どもの発達年齢に応じた集団健康教育
	【小児外来実習】 【小児病棟実習】
1	自己の健康管理と、子どもの健康を守る為の、スタンダードプリコーション
2	子どもの身体的、機能的特徴と発達段階・健康段階
3	健康障害や入院生活が子どもの日常生活に及ぼす影響
4	病気の子どものとその家族の心理、その子らしい生活を整える看護
5	子どもの成長発達段階を考慮し、病児を抱える家族の心理を理解したコミュニケーション
6	子どもと家族の発達段階や健康段階を促進させる看護
7	子どもの病状に合わせた安全な遊びや学習
8	子どもの権利を踏まえた看護（プレバレーション・ディストラクション・アドボケイト）
9	在宅小児医療や医療的ケア児の地域包括医療連携のシステムにおける多職種連携
10	医療福祉制度の活用法、小児慢性特定疾患医療費助成制度、高額療養費制度、難病医療助成制度、育成医療など
成績評価	実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 小児病棟実習（40点）小児外来実習（30点）保育所実習（30点）
事前学習 関連科目	関連科目：小児看護学概論、小児保健、小児看護学方法論Ⅰ、小児看護学方法論Ⅱ 母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ、家族と社会他既修学習 事前学習：小児看護学実習要項に記載
履修条件	基礎看護学実習Ⅱを合格していること
使用テキスト 参考文献等	小児看護技術（ナーシンググラフィカ）小児の発達と看護（ナーシンググラフィカ） 小児臨床看護各論（医学書院）及び、既修の学習に関するテキスト
その他	実習場所：今村総合病院（小児科外来）鹿児島大学病院（小児科病棟）きずな保育園 おひさま保育園
実務経験の 内容	看護師、専任教員

授業要項

科目	母性看護学実習	時間数	90時間	単位数	2単位
時期	2年次後期～3年次	学習形態	実習	講師名	母性看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要	外来で妊婦を、病棟で産婦・褥婦・新生児を受け持ち、妊娠・分娩・産褥・新生児各期の正常な経過と新生児の生理的変化や特徴を知り、対象に応じた看護を学ぶ。また、NICUでハイリスクの経過にある児と家族の看護や地域包括ケアシステムを学ぶ。これらを通し、母子の相互作用と、日齢および周産期の変化に応じた看護を理解し、社会の中で次世代を育てていくための看護の役割を学ぶ。				
科目目標	1.	変化の大きい周産期の対象を総合的に理解し、母児の関連性を考え、正常の経過を促進させる看護を実践できる。			
	2.	母親役割・母子愛着形成へ向けての看護が実践できる。			
	3.	妊娠各期の変化を理解し必要な保健指導を考えることができる。			
	4.	周産期の対象（家族）との関わりを通して、自己の母性および父性観を深める。			
	5.	母子相互作用について考えることができる。			
	6.	ハイリスクの経過にある対象および家族の思いや退院後の生活を視野に入れた看護と社会資源の活用について考えることができる。			
	授業計画（学習内容）				
1	実習の目的、目標、ルーブリック内容を理解と、自己のビジョンゴールに向けた自己学習				
2	妊産褥婦、新生児およびその家族との関わりを通じた母性観、父性観、生命観の再考				
3	対象に心のこもった関心を寄せ周産各期の役割獲得過程に添った看護の理解				
4	五感を使った観察と看護				
5	妊産褥婦と新生児（胎児）及びその家族との関連性の理解				
6	ウェルネスの視点を持った対象のアセスメントと計画及び実践				
7	退院後の生活を予測し、自己効力感を高めセルフケアを目指した指導				
8	妊娠各期の身体的、社会的、精神的変化と保健指導の理解				
9	産褥期における進行性変化と退行性変化を中心とする理解と看護				
10	新生児の生理的変化を代表とする、日齢に応じた変化の理解と看護				
11	対象を尊重し、プライバシーや安全に対する配慮				
12	分娩各期の看護の理解又は実践				
13	母子保健に関する法律や社会制度の理解				
14	周産期における継続看護の理解				
成績評価	実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 母性看護学実習（100点）				
事前学習 関連科目	関連科目：母性看護学概論、母性保健、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ他既修学習 事前学習：下記科目での学びのまとめ等（詳細は実習前講義で提示）				
履修条件	基礎看護学実習Ⅱを合格していること				
使用テキスト 参考文献等	専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論、母性看護学[2] 母性看護学各論，医学書院 実践マタニティ診断第4版 他既修の学習に関するテキスト				
その他	実習場所：今村総合病院B5階病棟、産婦人科外来 いまきいれ総合病院新生児内科病棟				
実務経験の内容	看護師、助産師、専任教員				

授業要項

科目	精神看護学実習		時間数	90時間	単位数	2単位
時期	2年次後期～3年次		学習形態	実習	講師名	精神看護学担当教員他、 実習指導者他
科目概要		精神看護学は単に精神科の対象のための看護を学ぶ科目ではなく、広く一般診療科の対象にも通用する考え方や看護の方法論を含んでいる。そして何より、看護という職業に就く自分自身のための学習でもある。 対象に精神看護を行う過程で、相互に与える影響について五感を養い、自己洞察を行う。対象の反応の意味を考えることで、自己理解・他者理解を深める。また、対象が望む生活の場についても関心を寄せ、対象の生きにくさを踏まえた「その人らしい生き方」ができる生活の場について学ぶ。				
科目目標		1.	対象が日常生活を送る上でどのような難しさ（生きにくさ）を体験しているのかを関わりや生活史・家族背景をふまえて理解を深めることができる。			
		2.	対象との相互の影響を体験的に学び自己理解、他者理解を深め、看護者自身がケアの道具となることに気付くことができる。			
		3.	精神医療の様々な方法について知り、それが、対象の身体、生活に及ぼす影響を理解する。			
		4.	病棟機能の違いによる支援の視点や支援方法の違い、精神科デイケアの在り方を考えることができる。			
		5.	対象を支援する制度を理解し、看護の役割について知ることができる。			
		6.	看護師に必要な感性や価値観を身につける。			
	授業計画（学習内容）					
1	精神に障害がある対象とその家族の生活上の生きにくさ					
2	自己洞察を行う上での自己理解・他者理解、転移・逆転移					
3	精神保健福祉法・障害者総合支援法					
4	精神療法・身体療法・行動療法・環境療法					
5	精神科における多職種連携					
6	看護者がメンタルヘルスを保つ重要性					
7	精神科病院に初回入院する患者・家族の理解					
8	向精神薬(抗精神病薬・抗躁薬・抗鬱薬・抗不安薬・抗癲癇薬・睡眠薬)の理解					
9	隔離室入室患者への看護					
10	精神科で使用する鍵の意味					
11	人間対人間の看護、患者-看護者関係の重要性					
12	初めて精神科を訪れる患者、患者家族への看護					
13	対象の自尊心・価値観をふまえたパーソナルスペースの理解					
14						
成績評価		実習評価表による総括的評価 (学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる) 精神看護学実習(100点)				
事前学習 関連科目		関連科目：精神看護学概論、精神保健、精神看護学方法論(Ⅰ.Ⅱ)基礎看護学Ⅰ(コミュニケーション) 他既修学習 事前学習：下記科目での学びのまとめ等(詳細は実習前講義で提示)				
履修条件		基礎看護学実習Ⅱを合格していること				
使用テキスト 参考文献等		専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 精神看護学[2] 精神看護の展開, 医学書院 他既修の学習に関するテキスト				
その他		実習場所：谷山病院(慢性期閉鎖病棟・慢性期開放病棟・デイケア・急性期病棟)				
実務経験の内容		看護師、専任教員				

授業要項

科目	在宅看護論実習		時間数	90	単位数	2単位
時期	2 年次後期～3 年次		学習形態	実習	講師名	在宅看護論担当教員他、 実習指導者他
科目概要		【訪問看護実習・地域生活支援実習】在宅で療養する人々と家族を理解し、様々な価値観や生活背景を有する利用者とその家族の看護をととして、その人らしく生きていくことの意味や死について探求し、豊かな人間性と感性を育む。 【居宅生活支援実習】健康障害を持ちながら生活する利用者とその家族や在宅療養を支援するサービスについて知り、地域における保健医療福祉の連携の必要性と看護者の役割について学ぶ。				
科目目標		【訪問看護実習・地域生活支援実習】				
		1	在宅で療養する人々とその家族を理解し、利用者とその家族の Q O L を高めるための援助の必要性やその方法を理解できる。			
		2	利用者とその家族に応じた看護援助の方法を理解できる。			
		3	訪問看護に必要な基本的態度を理解することができる。			
		4	社会資源や関係職種との連携の重要性、看護の役割について理解できる。			
		5	看護者に必要な感性や価値観を身につける。			
		【居宅生活支援実習】				
		1	利用者とその家族について理解し、地域での暮らしを支える制度や社会資源についての学びを深めることができる。			
		2	利用者やその家族を支える介護サービスの実際を通して関わりを学ぶことができる。			
		3	地域における保健・医療・福祉の連携と看護の役割を理解できる。			
		4	看護者に必要な感性や価値観を身につける。			
	授業計画（学習内容）					
	【訪問看護実習、地域生活支援実習】					
1	実習の目的・目標に沿った戦略的な自己学習					
2	利用者の療養生活や背景・取り巻く環境への関心					
3	これまでの生活歴や療養生活を知り在宅療養を支え、継続するために必要な看護					
4	訪問看護制度の仕組みや社会資源・在宅療養での連携の必要性和その特徴					
5	療養者や家族を支えるために訪問看護の果たす役割					
6	訪問看護に必要な基本的姿勢を理解し、生活の場での看護援助の特徴					
7	利用者や家族の状況に合わせたコミュニケーション					
	【居宅生活支援実習】					
1	実習の目的・目標に沿った戦略的な自己学習					
2	利用者の療養生活や背景・取り巻く環境への関心					
3	在宅療養者とその家族にとってケアプランの意味					
4	さなざまな健康状態や環境のなかで生活を営んでいる利用者への理解					
5	療養を継続するために、家族の状況やQOLに視野を広げて支援する必要性					
6	地域における社会資源の活用と多職種連携の必要性和看護の役割					
7	利用者の介護度や健康レベルを考えた対応					
8	地域で生活する利用者するへの様々な支援方法や看護の役割					
9	在宅療養を支えるために必要な制度と制度に基づく社会資源について理解					
成績評価		実習評価表による総括的評価（学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 訪問看護実習・地域生活支援実習60点・居宅生活支援実習40点合計100点の総合的点数で評価する				
事前学習 関連科目		関連科目：既修学習 事前学習：介護保険制度・訪問看護制度・自立支援医療・障害者総合支援法・生活保護法・障害者就労支援				
履修条件		基礎看護学実習Ⅱを履修していること				

使用テキスト 参考文献等	在宅看護論,医学書院 及び、既修の学習に関するテキスト
その他	実習場所：訪問看護実習（訪問看護ステーション「愛の街」）・地域生活支援実習（地域活動支援センター「ひだまり」・就労支援「ステップ」）・居宅生活支援実習（指定居宅介護支援事業所「愛と結の街」・認知症対応共同生活介護「愛と結の街」・認知症対応型通所介護「あしたの風」・通所リハビリテーション「愛と結の街」・地域包括支援センター ）
実務経験の 内容	看護師、専任教員

授業要項

科目	統合実習		時間数	90時間	単位数	2単位
時期	3 年次後期		学習形態	実習	講師名	看護の統合と実践担当教員他、 実習指導者他
科目概要		学生が、卒業後リアリティショックに陥り看護に疲弊することがないように、より臨床現場の看護の実態に近い形で実習することで、専門職業人として看護を実践するための基礎的能力を養う。				
科目目標		1.	複数の対象の状況を判断し、流動的環境の中で看護を実践する方法を理解する。			
		2.	対象の24時間の療養生活を支える保健医療福祉チームの機能と役割の実際について理解する。			
		3.	看護管理の実際を知り、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能を理解する。			
		4.	医療現場におけるリスクを予測し、安全な看護を提供するための方法を理解できる。			
		5.	看護者に必要な感性や価値観を身につけ、3年間の自己の成長を認識し、将来の看護師としての課題を明確にできる。			
	授業計画（学習内容）					
1	実習の目的・自分の戦略に沿った自己学習					
2	保健医療福祉チームの一員としての看護の機能と看護師の役割					
3	保健医療福祉チームのメンバーとの協働					
4	対象の看護の優先順位の決定や時間調整					
5	対象の状況から計画の変更が必要であることの思考・判断					
6	発生しやすい看護業務上の事故と対象の安全管理					
7	事故防止のためのリスクアセスメントと予防					
8	夜間実習を通して、対象の24時間の療養生活と継続看護の必要性					
9	複数受け持ちの中で生じる倫理問題への気付き・関心					
10	継続看護を行うための引継ぎのポイントの判断					
11	継続看護につなげるためのサマリーの記載					
12	検査の見学や看護技術の習得					
13	3年間の自己の成長と今後の看護師としての自己課題のまとめ					
成績評価		実習評価表による総括的評価 （学則第10条、履修規定第12条、実習要項実習評価に準じる） 統合実習（100点）				
事前学習 関連科目		関連科目：すべての既修科目 事前学習：1. 受け持ち患者の事前情報から得られた内容の学習 2. 看護管理・医療安全 3. SOAPの記載方法、看護サマリーの書き方等看護記録の記載方法 4. 点滴・注射薬の準備、吸引、酸素療法、導尿など看護技術の方法・留意点の学習				
履修条件		各看護学実習をすべて合格していること				
使用テキスト 参考文献等		上記学習に必要なテキストすべて				
その他		実習場所：今村総合病院、いづろ今村病院、谷山病院				
実務経験の内容		看護師、専任教員				

